

平成29年度における業務の実績に関する報告書

(事業年度評価)

平成30年6月29日

地方独立行政法人山口県産業技術センター

目 次

I 法人の概要

- (1) 名称
- (2) 所在地
- (3) 法人成立の年月日
- (4) 設立団体
- (5) 中期目標の期間
- (6) 目的及び業務
- (7) 資本金の額
- (8) 代表者の役職氏名
- (9) 役員及び職員の数
- (10) 組織図

II 平成 28 年度における業務の実績に関する自己評価結果

- (1) 総合的な評定
- (2) 評価概要
- (3) 対処すべき課題
- (4) 従前の評価結果の活用状況
- (5) 平成 28 年度評価における項目別評価結果総括表

III 中期計画の各項目ごとの実施状況

- 第 1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項
 - 1 戦略産業の育成・集積に向けた地域イノベーションの推進
 - (1) 戦略産業分野における研究開発を支援する体制の整備
 - (2) 産学公や企業間連携による研究開発・事業化の促進
 - 2 中小企業力の向上に向けたものづくり力の高度化・ブランド化の推進
 - (1) 事業化戦略を踏まえた実用化研究への重点的取組
 - (2) 研究開発成果の普及とその活用
 - (3) 各種技術研究会活動の積極的展開
 - (4) 研究開発計画策定や資金獲得の支援
 - (5) 数値目標
 - 3 「中核的技術支援拠点」としての更なる機能強化
 - (1) 効果的かつ切れ目のない企業支援の一層の充実
 - (2) 技術相談の充実
 - (3) 新たな技術課題の掘り起こし
 - (4) 先端的試験研究機器の整備等による技術支援サービスの充実
 - (5) 数値目標

第 2 業務運営の改善及び効率化に関する事項

- 1 運営体制や経営資源配分の継続的見直し
- 2 職員の職能開発の計画的実施
- 3 法人サービス業務の「見える化」の推進
- 4 コンプライアンスの確保
- 5 情報管理の徹底
- 6 危機管理対策の推進

第 3 財務内容の改善に関する事項

- 1 自己収入の確保
- 2 経費の抑制

第 4 その他業務運営に関する重要事項

- 1 施設設備の適切な管理
- 2 環境負荷の低減

第 5 予算（人件費の見積りを含む。）収支計画及び資金計画

- 1 予算
- 2 収支計画
- 3 資金計画

第 6 短期借入金 の 限度額

第 7 出資等に係る不要財産又は出資等に係る不要財産となることが見込まれる財産の処分に関する計画

第 8 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画

第 9 剰余金の使途

第 10 法第 40 条第 4 項の承認を受けた金額の使途

IV その他法人の現況に関する事項

- 1 地域別企業支援状況
- 2 産業分類別企業支援状況
- 3 施設利用
- 4 財務関係
 - (1) 資産、負債
 - (2) 損益計算書
 - (3) キャッシュ・フロー計算書
 - (4) 行政サービス実施コスト計算書
- 5 組織関係
 - (1) 役職員数
 - (2) 役員の状況
- 6 主要な設備等の状況
- 7 その他の評価結果等の活用状況
- 8 その他法人の現況に関する重要事項

I 法人の概要（平成29年5月1日現在）

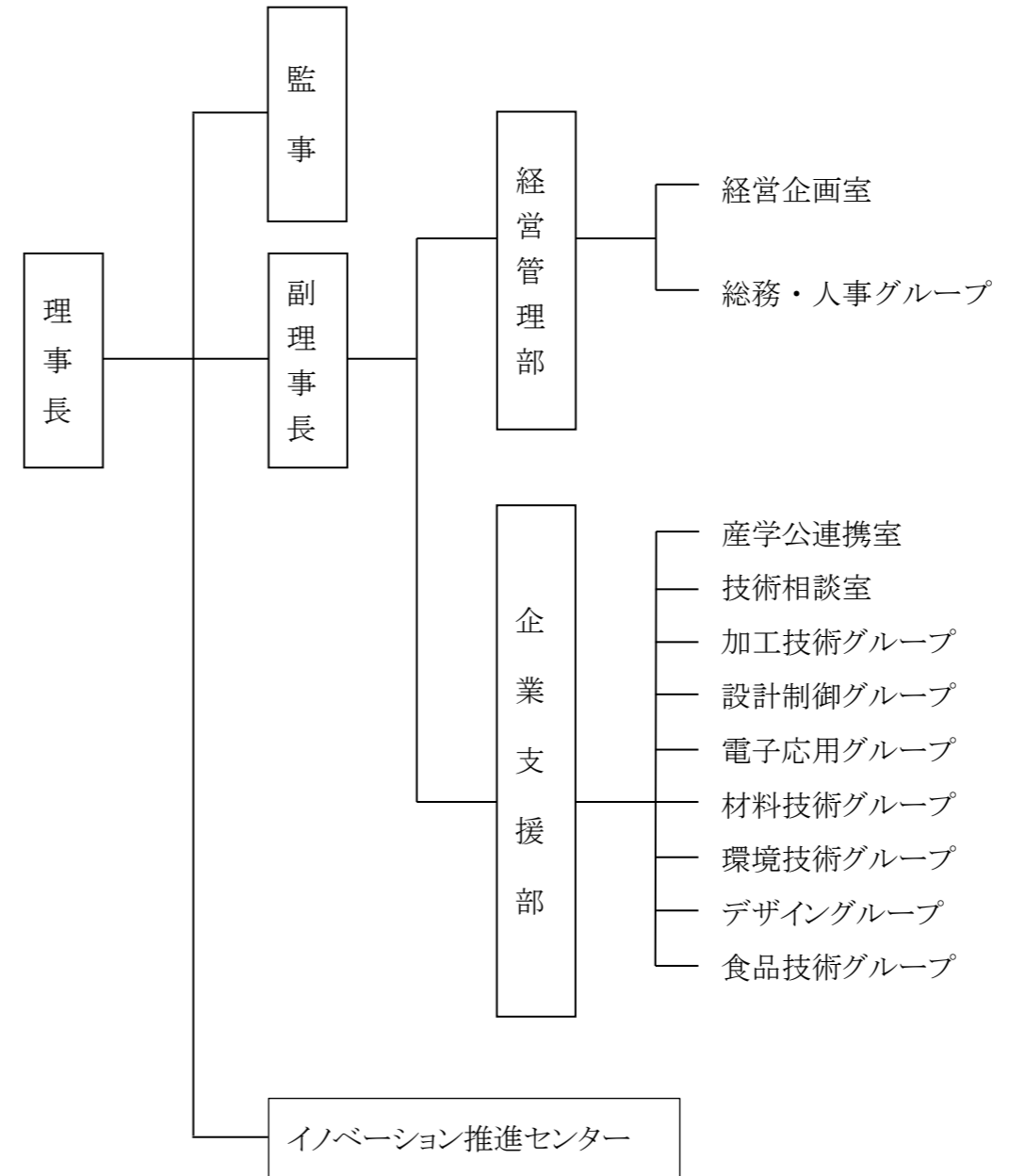
- (1) 名称
地方独立行政法人山口県産業技術センター
- (2) 所在地
山口県宇部市あすとぴあ四丁目1番1号
- (3) 法人成立の年月日
H21年4月1日
- (4) 設立団体
山口県
- (5) 中期目標の期間
H26年4月1日からH31年3月31日まで
- (6) 目的及び業務
 - ア 目的
産業技術に関する試験研究、その成果の普及、産業技術に関する支援等を総合的に行うことにより、産業の振興を図り、もって山口県における経済の発展及び県民生活の向上に資する。
 - イ 業務
 - (i) 産業技術に関する試験研究を行うこと。
 - (ii) 産業技術に関する試験研究の成果を普及し、及びその活用を促進すること。
 - (iii) 産業技術に関する照会及び相談に応じ、並びに助言その他の支援を行うこと。
 - (iv) 試験研究設備その他の設備及び施設を一般の利用に供すること。
 - (v) 前各号の業務に附帯する業務を行うこと。
- (7) 資本金の額
6,375,046千円
- (8) 代表者の役職氏名
理事長 木村悦博
- (9) 役員及び職員の数
 - ア 役員

理事長	1名
副理事長	1名
監事	1名
役員計	3名
 - イ 職員

職員(常勤)	49名
--------	-----

職員(非常勤) 25名
職員計 74名

(10)組織図



II 平成28年度における業務の実績に関する自己評価結果

【1】総合的な評価

評価 中期計画の進捗は順調 (A)

【理由】

大項目別評価の評点平均値に各大項目のウェイトを乗じて得た数値の合計値は3.7(当該大項目内の細項目別評価の評点の単純平均値は3.5)であり、「A評価」の判断の目安である「3.5以上4.2以下」の範囲内となっている。

【2】評価概要

A 全体的な状況

4つの大項目(「県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上」、「業務運営の改善及び効率化」、「財務内容の改善」及び「その他業務運営に関する重要事項」)に係る中期計画の進捗は、いずれも順調である。

イ 大項目ごとの状況

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

評価 中期計画の進捗は順調 (a)

【理由】

当該大項目内の中項目別評価の評点平均値に各中項目のウェイトを乗じて得た数値の合計値は3.9(当該大項目内の細項目別評価の評点の単純平均値は3.9)であり、「a評価」の判断の目安である「3.5以上4.2以下」の範囲内となっている。

当該大項目内の状況

「県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項」を構成する3つの中項目のうち「戦略産業の育成・集積に向けた地域イノベーションの推進」に係る中期計画の進捗は、イノベーション推進センターの体制充実により、その機能を十分に発揮することで事業化件数や提案公募型事業の採択や競争的資金の獲得支援において多数の成果を上げており、順調である。「中小企業力の向上に向けたものづくり力の高度化・ブランド化の推進」では、実用化研究が概ね順調に進み、研究開発成果の速やかな知的財産化、4つの研究会における積極的な活動により、技術革新計画の承認支援、国等の提案公募型事業の獲得及び企業による製品化事例が独法化以降最高となるなど大きな成果を上げ、順調に進捗している。「中核的技術支援拠点」としての更なる機能強化については、3Dものづくり支援の拠点機能の強化に繋がる国の平成29年度補正事業に採択されたことに加え、海外展開への支援や、農業・漁業分野、衛星データ活用などでの新たな課題に引き続き取り組むとともに、先端的試験研究機器の整備等による技術支援サービスの充実を図るなど、順調に推移している。

長所及び問題点等

第1-1 地域イノベーションの推進 a

- (1) 「環境・エネルギー推進チーム」、「水素関連技術支援チーム」、「医療関連推進チーム」の3つのチームにおいて、研究テーマの発掘、コーディネート活動、競争的資金の獲得支援、展示会出展支援などの取組を効果的に実施した結果、多くの企業の参画や研究開発グループの形成により、環境・エネルギー分野で16件(累計35件)、医療関連分野で4件(累計18件)の事業化に繋がった。また、県内中小・中堅企業の水素利活用製品や関連部品等の技術開発・試作等に対する支援を継続して行うとともに、第14回国際水素・燃料電池展～FC EXPO 2018～に出展し、県内企業の研究開発成果等をPRした【新】。 4
- (2) 産学公や企業間連携による研究開発・事業化の促進については、イノベーション推進センターや産学公連携室を中心として企業・大学等訪問による積極的なコーディネート活動を行い、関係機関と連携して国等の提案公募型事業(競争的資金)獲得に向けた積極的な取組により、イノベーション推進センターを中心とした取組で新たに6件、産学公連携室を中心とした取組で新たに10件の競争的資金を獲得した。 4

第1-2 ものづくり力の高度化・ブランド化の推進 a

- (1) 実用化研究では、研究開発(主要7テーマ)が概ね順調に進捗し、そのうち1テーマで事業化され、2テーマで県内企業と共同で取り組む競争的資金の獲得に発展した。また、再編した「3Dものづくりチーム」と「製品開発チーム」が、それぞれ活動を開始し、前者は前述の事業化や競争的資金獲得で成果を出し、後者は企画開発の事例研究を実施した後、年度末に共同開発テーマの募集を開始【新】した。 3
- (2) 研究開発成果の普及とその活用については、研究会や研究(技術)発表会の開催、研究報告書等の刊行、ホームページ等様々な方法により県内企業に発信した。また、研究開発成果を事業化するために、技術移転する企業から資金を得て製品化研究を実施するとともに、研究員等による継続的なフォローアップにより、独法化以降最高となる7件の事業化・商品化実績が上がった。 4
知的財産管理では、研究開発成果の知的財産化(職務発明7件、特許出願9件)を速やかに進め、初めて早期審査請求制度を活用するなど申請から取得、普及(新規実施許諾5件)への対応を適切に行った。また、権利の廃棄・継続を判断するしくみについて本格実施し、独法化後最も多い権利処分(9件)を行い、知財管理を適切に行った。 3
- (3) 研究会活動の積極的展開については、4つの研究会を組織し、「やまぐちブランド技術研究会」では技術革新計画の策定に向けた個別支援により6企業が承認を受け、「新エネルギー研究会」と「やまぐち3Dものづくり研究会」では会員企業で3件の事業化を達成した。また、「衛星データ解析技術研究会」では、積極的な活動(セミナーやワーキングなど16回)と産業応用調査及びソフトウエア開発を実施【新】した。 4
- (4) 研究開発計画策定や資金獲得の支援については、「やまぐちブランド技術研究会」の取組と一体的に、企業自ら実施する研究開発から事業化までの計画(シナリオ)を策定するとともに、そのシナリオの実現に必要な資金として、国等の提案公募型事業(競争

的資金)の獲得に向けて積極的に支援を行い、43件の競争的資金を獲得した。 4

(5) 数値目標については、全ての項目で120%以上の達成率であり、年度目標を大きく超えた。

- ・特許等の出願及び新規使用許諾件数 14件(目標11件) 5
- ・山口県技術革新計画の承認支援件数 6件(目標4件) 5
- ・センター支援による国等の提案公募型事業の獲得件数 14件(目標6件) 5
- ・研究開発・技術支援が事業化(商品化)に至った件数 12件(目標8件) 5

第1-3 「中核的技術支援拠点」としての更なる機能強化 a

(1) 効果的かつ切れ目のない企業支援の一層の充実については、平成29年度経済産業省補正事業への採択【新】により、3Dものづくり支援の拠点機能の強化に向けた取組を始めるとともに、大学・国公設試や民間機関、やまぐち産業振興財団や金融機関等との連携を深める取組を引き続き行った。 4

(2) 技術相談の充実については、グループウェアによる1回/週の技術相談・依頼試験・開放機器等の情報共有や技術相談室を中心とした複数グループの連携等により、県内企業が抱える多様な技術課題に対する対応力の強化に務めた。また、サテライト窓口では、地場産センター職員に同行して積極的に企業訪問を実施した。さらに、県内企業の海外展開支援に関して、職員を対象とした標準化セミナーの開催【新】やシンガポール及び台湾での本県出展企業への技術支援や市場調査【新】を行った。 3

(3) 新たな技術課題の掘り起こしについては、農業・漁業分野で県内事業者や公設試等から課題抽出を行い13テーマの研究開発に反映し、2件の事業化を達成した。また、サービス分野では医療関連の課題の掘り起こしからの製品開発によって4件の事業化を達成した。 4

(4) 技術支援サービスの充実については、企業ニーズの調査結果を踏まえ、翌年度の機器導入に反映させるとともに、それらに追加して機器の新規・更新・増設による整備、機器寿命の長期化のための修繕を行い、より一層の充実を努めた。また、機器活用事例のパネルを作成・掲示し、依頼試験・開放機器の見える化を図るとともに、食品関連企業の利用促進に向けたパンフレットの作成・配布やセミナー・個別相談会を行った。 3

(5) 数値目標については、技術相談件数の利用件数で目標を超え、訪問企業数及び開放機器・依頼試験の利用件数では目標を大幅に超えた。

- ・技術相談件数 3,868件(目標3,300件) 4
- ・訪問企業数 564社(目標230社) 5
- ・開放機器・依頼試験の利用件数 3,709件(目標3,040件) 5

第2 業務運営の改善及び効率化に関する事項

評価

中期計画の進捗は概ね順調

(b)

【理由】

当該大項目内の中項目別評価の評点平均値に各中項目のウエイトを乗じて得た数値

の合計値は3.0(当該大項目内の細項目別評価の評点の単純平均値は3.0)であり、「b評価」の判断の目安である「2.7以上3.4以下」の範囲内となっている。

当該大項目内の状況

「業務運営の改善及び効率化に関する事項」を構成する6つの中項目は、それぞれ概ね順調に実施されている。特に「職員の能力開発の計画的実施」については、能力開発研修を体系的に整理することにより、研修計画・実施が系統的に実施できるようになった。また、「コンプライアンスの確保」については、地独法改正に伴う業務方法書の改訂、それに伴う規程類の整備を行うとともに、文科省が示す研究活動における不正行為及び公的研究費の不正使用の防止のためのガイドラインへの対応に係る規程類の整備を行った【新】。

長所及び問題点等

第2-1 運営体制や経営資源配分の継続的見直し b

理事長主催の経営委員会及び合同会議(経営委員会+企業支援委員会)を定期的で開催し、迅速な意志決定を行った。また、部室横断的な取組を効率的・効果的に処理できる連携体制を構築するため経営企画グループを経営企画室に改組した【新】。定年退職者の豊富な知識や経験を活用するため、定年退職者3名をシニアスタッフとして再任用した。 3

第2-2 職員の職能開発の計画的実施 b

職員(研究員及び事務職員)の能力開発研修を体系的に整理し、それに基づき研修計画を策定し、研修を実施した。また、研究者行動規範に関する外部の研修に新採を含む2名の職員を派遣し、研究倫理に対する意識向上に努めた。 3

第2-3 法人サービス業務の「見える化」の推進 b

法人サービス業務の「見える化」の推進については、第2期「技術戦略」、開放機器一覧2017など刊行物の発行、成果発表などを計画的に実施した。また、ホームページを積極的に活用し、法人主催のセミナー、成果事例について速やかに周知した。また、機器活用事例のパネルを作成・掲示し、依頼試験・開放機器の見える化を図った。 3

第2-4 コンプライアンスの確保 b

コンプライアンスの確保については、地独法改正に伴う業務方法書の改訂、それに伴う規程類の整備【新】を行うとともに、文科省が示す「研究活動における不正行為」や「公的研究費の管理・監査」のガイドラインへの対応【新】を行うとともに、化学物質取扱規程の改訂や安全衛生委員会への改組など労働安全衛生に関する取組を見直し、全職員に周知徹底を図った。 3

第2-5 情報管理の徹底 b

情報管理の徹底については、新規採用職員を対象に職員教育を実施し、情報セキュリティに対する職員への指示・伝達を行った。また、コンピュータによる情報漏洩防止の対策強化

のため、担当シニアスタッフを1名配置する【新】とともに、産技センターホームページ Web サーバー、外部 DNS サーバーの外部委託【新】や、ネットワーク関連更新・保守計画を作成した。 **3**

第2-6 危機管理対策の推進 **b**

危機管理対策の推進については、業務継続計画（BCP）の初動体制に着目して、計画を見直し、初動対策班の対応訓練及びそれ以外の職員の参集可否の連絡方法を定めるとともに、その確認を行った。 **3**

第3 財務内容の改善に関する事項

評価 中期計画の進捗は順調 **(a)**

【理由】

当該大項目内の中項目別評価の評点平均値に各中項目のウェイトを乗じて得た数値の合計値は3.6（当該大項目内の細項目別評価の評点の単純平均値は3.5）であり、「a評価」の判断の目安である「3.5以上4.2以下」の範囲内となっている。

当該大項目内の状況

「財務内容の改善に関する事項」を構成する2つの中項目に係る中期計画は順調に進捗している。

長所及び問題点等

第3-1 自己収入の確保 **a**

機器整備に係る補助事業や研究開発に係る競争的資金の獲得に努め、機器整備で2機種、研究開発で9件の競争的資金を獲得した。また、イノベーションの推進に外部資金を活用するとともに、使用料・手数料、受託研究及び知的財産の実施料などによる自己収入の確保に努めた。 **4**

第3-2 経費の抑制 **b**

予算編成において、事業費の積上と併せて前年度事業費の実績を考慮するとともに、より厳密な積算を行い、効果的な予算配分に努めることにより、予算の抑制を図った。また、上半期終了後の予算執行状況の集計に基づき効果的な予算執行に努めた。さらに、管理運営に係る経費について、引き続き委託業務、物品購入等における仕様及び旅費等の精査による縮減など比較的規模の小さな経費まで縮減に努めた。 **3**

第4 その他業務運営に関する重要事項

評価 中期計画の進捗は順調 **(a)**

【理由】

当該大項目内の中項目別評価の評点平均値に各中項目のウェイトを乗じて得た数値の合計値は3.5（当該大項目内の細項目別評価の評点の単純平均値は3.5）であり、「a評価」の判断の目安である「3.5以上4.2以下」の範囲内となっている。

当該大項目内の状況

「その他業務運営に関する重要事項」を構成する2つの中項目に係る中期計画は、「施設設備の適切な管理」については順調に、また、「環境負荷の低減」については概ね順調に進捗している。

長所及び問題点等

第4-1 施設設備管理 **a**

施設・設備の保守業務については、計画的に予算配分することで、安全性や業務の信頼性の確保に努めるとともに、修繕についてもその必要性が高いと判断されるものについては優先的に予算執行することで施設・設備が良好な状態に保たれるよう配意した。また、大規模修繕として、全館の照明制御システムを更新した。 **3**

(数値目標)

・中期計画期間中の来庁者数 13,392人（目標値11,000人） **5**

第4-2 環境負荷の低減 **b**

環境負荷の低減については、ISO14001に準拠した取組を継続し、省エネ・省資源の取組、廃棄物排出量の削減、グリーン購入等に取り組んだ。電力については、玄関ロビーに設置した電力モニターや Web 画面で電力使用量が見える化することにより、省エネ行動喚起を図っている。また、廃棄物管理規程を見直し、排出される廃棄物の分類を36から60に細分化するなど、廃棄物がより適正に処理される体制づくりを行った【新】。 **3**

【3】 対処すべき課題

第2期の最終年度にあたる本年度は、「中核的技術支援拠点」として、その機能の更なる強化と、平成26年度に策定した第2期「技術戦略」の確実な達成に向けて、取組の加速化を図りながら、「地域イノベーションの推進」、「ものづくり技術の高度化・ブランド化」等に寄与する成果を着実に、且つ効果的、効率的にあげていくことを本年度計画策定の方針とする。

【地域イノベーションの推進】

(戦略産業分野における研究開発を支援する体制の整備)

地域イノベーションの推進に向けて、「医療関連推進チーム」、「環境・エネルギー推進チーム」、「水素関連技術支援チーム」に、新たに「バイオ関連推進チーム」を加えた4つのチームで構成される「イノベーション推進センター」を、「やまぐちイノベーション推進協議会」や県等と一体となって、効果的・効率的に運営する。

さらに、センター研究員や産学公連携室等との連携や文部科学省補助事業などの提案公募事業を活用して、県内企業等のニーズ、シーズの発掘から事業化に至るまでの各種研究開発プロジェクトを総合的に推進する。

(産学公や企業間連携による研究開発・事業化の促進)

イノベーション推進センターや産学公連携室を中心としたコーディネート活動の一層の充実により、戦略産業の次代を担う研究開発プロジェクトの発掘と、研究開発から事業化までのシナリオ(研究開発・事業化計画)作成の取り組みの強化を図る。

また、研究開発プロジェクトの継続的な実施、研究成果の県内中堅・中小企業への技術移転や事業化に向け、国等の提案公募型事業(競争的資金)の積極的な活用をはじめとする必要な支援を、戦略産業分野を重点的に、県、大学、やまぐち産業振興財団等と連携して適切に行う。

【県内企業のものづくり力の高度化・ブランド化】

(事業化戦略を踏まえた実用化研究への重点的取組)

策定した第2期「技術戦略」を、県内企業へ向け積極的に見える化を推進すると共に、技術戦略に基づく事業化を視野に入れた実用化研究を重点的に実施する。

「3Dものづくり技術による高度な調査研究と実用的な活用事例研究」と「県内企業の魅力ある製品づくりのための企画・開発」については、それぞれ技術グループ横断的な「3Dものづくりチーム」と「製品開発チーム」により実施する。

(研究開発成果の普及とその活用)

研究会や研究(技術)発表会の開催、展示会への出展、コーディネータや研究員の企業訪問、研究・業務報告書の刊行、ホームページ等様々な方法により研究開発成果を県内企業に発信するとともに、共同研究・受託研究などにより企業に移転する取組を推進する。

また、成果を移転した企業に対し、研究担当者等の関係職員がフォローアップを継続的に行う。

研究開発成果の知的財産化を速やかに進め、申請から取得、普及、侵害への対応に至る管理を適切に行う。

(各種技術研究会活動の積極的展開)

「やまぐちブランド技術研究会」では、講演会や共通課題の勉強会、活動成果の展示会出展などを行うとともに、会員企業それぞれの新たな技術獲得に向けた個別支援を行い、会員企業の「山口県技術革新計画」の承認支援を行う。

「新エネルギー研究会」では、県産エネルギーや省エネ機器などの県産資源を活用するエネルギーシステムやスマートファクトリー等の実現のため、これまでの研究成果の事業化に向けた国等の提案公募型事業(競争的資金)の積極的な活用や分科会活動の成果の横展開を目指すことにより、分科会参画企業の新たなビジネス展開を目指す。

「やまぐち3Dものづくり研究会」では、3Dプリンターなどを活用した3Dものづくりに関連する技術を習得するとともに、その技術を活かして本県の資源や魅力を活かした新製品の企画や試作を行う。

「衛星データ解析技術研究会」では、JAXA、山口県と連携しながら、宇宙システム開発

利用推進機構の支援の元、県内企業の宇宙情報産業への進出を支援する。具体的には、講演会、技術セミナー、ワーキング会議を開催して、技術力向上や事業化テーマ選定を図り、国等のビジネスコンテストや実証プロジェクトを積極的に活用することで事業化を進めていく。

また、県内企業のIoT導入を促進するため、研究会の創設(平成31年度)に向けて準備を進める。

(研究開発計画策定や資金獲得の支援)

やまぐちブランド技術研究会の取組と一体的に、企業自ら実施する研究開発から事業化までの計画(シナリオ)策定を支援する。

また、シナリオの実現に必要な資金として、国等の提案公募型事業(競争的資金)の獲得を支援する。

【「中核的技術支援拠点」としての更なる機能強化】

(効果的かつ切れ目のない企業支援の一層の充実)

国・県の緊急的な施策にも積極的に協力し、企業のものづくりや拠点機能を強化する。また、大学・国公設試や民間機関、やまぐち産業振興財団や金融機関等との連携を深める取組を行う。

(技術相談の充実)

技術相談の一元化(技術相談室)や遠隔地対策(サテライト窓口、電子メール相談)、巡回企業訪問、巡回相談窓口等をレベルアップさせるとともに、グループウェアによる情報共有(企業・課題・対応)、技術相談室を中心とした相談対応の連携強化により、県内企業が抱える様々な技術課題に対するセンター職員の対応力を強化する。

また、県内企業の海外展開への支援については、平成28年度に定めた基本方針に基づき関係機関と連携して取組を行う。

(新たな技術課題の掘り起こし)

1次産業(農業・漁業)や3次産業(サービス業)の技術課題を掘り起こし、農林総合技術センターや水産研究センター等の県内公設試からの課題抽出を行い、ものづくり企業や関係機関と連携して、共同研究や、競争的資金の獲得支援等、課題解決に向けた取組を行う。

(先端的試験研究機器の整備等による技術支援サービスの充実)

県内企業のニーズを踏まえた計画的な先端的試験研究機器整備に加え、研究開発の高度化、迅速化に資する機器整備の充実に努めることで、技術支援サービスの充実に図る。

また、技術支援業務のサービス内容やニーズ適合性についてアンケート調査や業務内容の分析等による検証を行い、その結果を技術支援サービスの充実にフィードバックする。

さらに、国の補助金事業を活用し、「3Dものづくり支援センター」として機能する機器と体制を整備する。

【業務運営の改善及び効率化】

(運営体制や経営資源配分の継続的見直し)

運営体制や経営資源の配分について、経営委員会、企業支援委員会における理事長によ

る迅速な意思決定を行う。

また、全体会議等の開催による全職員の情報共有、若年者と役員との座談会の開催、職員提案制度を実施する。

さらに、経営管理部を中心とし、他県の状況を調査検討の上、業務の質的な改善、進捗管理と適時適切な見直しを行う。

(職員の職能開発の計画的実施)

平成 29 年度に整理した人材育成の基本方針に従って研修計画を策定し、計画に基づき体系的・計画的に実施する。

(法人サービス業務の「見える化」の推進)

策定した第 2 期「技術戦略」の冊子を活用して、県民に分かり易い情報発信を心がけるとともに、ホームページの機能強化、パンフレットの発刊や成果事例集の発刊と充実、成果発表会の開催、県内・県外イベント等での PR 活動、施設見学の誘致等を行う。

(コンプライアンスの確保)

労働安全衛生法等の法規制や職員倫理に関する職員教育に適宜外部講師を活用する等して、実効性ある研修を行い、職員のコンプライアンス意識の向上を図る。

(情報管理の徹底)

個人情報や企業情報、製品開発等の業務を通じて知り得た秘密情報について、その漏洩防止のため、職員を対象とした教育や所内会議等での職員への周知徹底を行う。

また、コンピュータによる情報漏洩に備え、情報セキュリティポリシーの周知徹底を図るとともに、利用者に向けた取組の見える化を図る。

(危機管理対策の推進)

「業務継続計画」(BCP)について、災害を想定した研修又は訓練を実施しながら見直して行くとともに、見直した計画はその都度、職員に周知徹底を図る。

【財務内容の改善】

(自己収入の確保)

機器整備に係る補助事業や研究開発に係る競争的資金の獲得に努め、使用料の適正な料金設定、機器・施設の利用促進や知的財産権の使用許諾等の推進、施設等の有効利用による収入の確保等による収入の確保に努める。

(経費の抑制)

経費の効率的使用の観点から、必要な予算措置を事業毎に編成し、決められた執行管理方法に基づき運用する。

また、一般的な管理運営にかかる経費について見直しを行い、抑制を図る。

【その他業務運営に関する重要事項】

(施設設備の適切な管理に関する事項)

施設設備について、利用者の要望や大規模修繕・改修調査を参考にして、保守点検、修繕等を計画的に行い、施設設備の定期的な保守点検、修繕、更新(計画の作成、実施予算

の確保等)、管理システムの運用(開放機器・依頼試験・会議室等予約システム)を行う。

また、施設等の利活用状況を把握し、各種機関や団体、学校等への働きかけにより、各種セミナー、研修会、研究会、説明会、打合せ等での利活用を促進する。

(環境負荷の低減に関する事項)

省エネルギーや廃棄物の適正な処理等、環境負荷の低減に向けた環境マネジメントを継続して実施するとともに、その運用状況を評価しその結果に基づき必要な措置を講ずる。

(4) 従前の評価結果の活用状況

第 2 期中期目標の達成に向け、「県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上」に掲げる三つの項目について積極的な取組を進めており、H26 年度と H28 年度の「特許等の出願及び新規使用許諾件数」の 4 件の目標未達分を H29 年度には 3 件補った。第 2 期の最終年度にあたる H30 年度には、製品開発チームの活動などにより実用化を視野に入れた研究開発をさらに促進するとともに、研究成果の速やかな知財化に努めることにしている。

「業務運営の改善及び効率化」や「財務内容の改善」などでは未達成の項目は無く、職能開発や法人サービスの「見える化」、自己収入の確保などで業務改善に取り組んでいる。

(5) H29 年度評価における項目別評価結果総括表

(大項目) (中項目) (小項目) (細項目)	中期計画 における 対象細項 目数	年度計画 における 対象細項 目数	細項目別評価の評点内訳 (個数)					細項目別 評価の評 点の平均 値	小項目 別評価 の評点	各小項目のウエイト		中項目別 評価 (加重平 均値)	各中項目のウエイト		大項目別 評価 (加重平 均値)	各中項目 のウエイト	全体評価 (加重平 均値)	
			5 点	4 点	3 点	2 点	1 点			計	配分		考え方	配分				考え方
全体評価	34	34	7	11	16	0	0	34	3.7									
第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上	23	23	6	10	7	0	0	23	4.0									
1 戦略産業の育成・集積に向けた地域イノベーションの推進	2	2	0	2	0	0	0	2	4.0			ウエイト平均 a(4.0)	0.4					
(1) 戦略産業分野における研究開発を支援する体制の整備 各種研究開発プロジェクトを総合的に推進する体制の構築と運営	1	1	0	1	0	0	0	1	4.0	4	0.5	いずれも重要な取 り組みでありウエ イトは等分に配分						
(2) 産学公や企業間連携による研究開発・事業化の促進 企業間や産学公が連携した研究開発プロジェクトの発掘等	1	1	0	1	0	0	0	1	4.0	4	0.5		単純平均 a(4.0)					
2 中小企業力の向上に向けたものづくり力の高度化・ブランド化の推進	9	9	4	3	2	0	0	9	4.2				ウエイト平均 a(3.8)	0.3				
(1) 事業化戦略を踏まえた実用化研究への重点的取組 第2期技術戦略の明示と計画的な研究開発の実施	1	1	0	0	1	0	0	1	3.0	3	0.3		「実用化研究への 重点的取組」に重 点的に配分					
(2) 研究開発成果の普及とその活用 ア 研究開発成果の発信とその成果の活用支援 イ 知的財産の適切な管理	2	2	0	1	1	0	0	2	3.5	4	0.2	単純平均 a(4.0)						
(3) 各種技術研究会活動の積極的展開 各種技術研究会活動の積極的な展開及び研究開発の促進	1	1	0	1	0	0	0	1	4.0	4	0.2							
(4) 研究開発計画策定や資金獲得の支援 研究開発計画策定や資金獲得の支援	1	1	0	1	0	0	0	1	4.0	4	0.2							
(5) 数値目標 ア 特許等の出願及び新規使用許諾件数 イ 山口県技術革新計画の承認支援件数 ウ センター支援による国等の提案公募型事業の獲得件数 エ 研究開発・技術支援が事業化(商品化)に至った件数	4	4	4	0	0	0	0	4	5.0	5	0.1							
3 「中核的技術支援拠点」としての更なる機能強化	12	12	2	5	5	0	0	12	3.8			ウエイト平均 a(3.8)		0.3				
(1) 効果的かつ切れ目のない企業支援の一層の充実 国等の産業振興施策への積極的な協力及び他の支援機関との連携	1	1	0	1	0	0	0	1	4.0	4	0.2	いずれも重要な取 り組みでありウエ イトは等分に配分						
(2) 技術相談の充実 相談窓口機能の充実及び職員の対応力の強化	1	1	0	0	1	0	0	1	3.0	3	0.2			単純平均 a(3.8)				
(3) 新たな技術課題の掘り起こし 1次産業や3次産業の技術課題を掘り起こす取組の強化	1	1	0	1	0	0	0	1	4.0	4	0.2							
(4) 先端的試験研究機器の整備等による技術支援サービスの充実 機器操作補助員の拡充による技術支援機能の強化	6	6	0	2	4	0	0	6	3.3	3	0.2							
ア 開放機器 イ 依頼試験 ウ 受託研究・共同研究 エ 技術者研修 オ 新事業創造支援センターの効果的活用	1	1	0	0	1	0	0	1	4.0									
(5) 数値目標 ア 技術相談件数 イ 訪問企業数 ウ 開放機器・依頼試験の利用件数	3	3	2	1	0	0	0	3	4.7	5	0.2							
	1	1	0	1	0	0	0	1	4.0									
	1	1	1	0	0	0	0	1	5.0									
	1	1	1	0	0	0	0	1	5.0									

第2 業務運営の改善及び効率化	6	6	0	0	6	0	0	6	3.0										
1 運営体制や経営資源配分の継続的見直し	1	1	0	0	1	0	0	1	3.0										
運営体制や経営資源の配分についての調査検討及び適時見直し	1	1	0	0	1	0	0	1	3.0										
2 職員の職能開発の計画的実施	1	1	0	0	1	0	0	1	3.0										
研修計画に基づく体系的・計画的な研修の実施	1	1	0	0	1	0	0	1	3.0										
3 法人サービス業務の「見える化」の推進	1	1	0	0	1	0	0	1	3.0										
第2期技術戦略の策定及び周知並びに情報発信内容及び方法の見直し	1	1	0	0	1	0	0	1	3.0										
4 コンプライアンスの確保	1	1	0	0	1	0	0	1	3.0										
法令遵守等に資する仕組みの適切な運用及び職員教育の実施	1	1	0	0	1	0	0	1	3.0										
5 情報管理の徹底	1	1	0	0	1	0	0	1	3.0										
漏洩防止のために必要な措置の実施	1	1	0	0	1	0	0	1	3.0										
6 危機管理対策の推進	1	1	0	0	1	0	0	1	3.0										
「業務継続計画」(BCP)の策定	1	1	0	0	1	0	0	1	3.0										
第3 財務内容の改善	2	2	0	1	1	0	0	2	3.5										
1 自己収入の確保	1	1	0	1	0	0	0	1	4.0										
国等の外部資金の獲得及び運営費交付金以外の収入の確保努力	1	1	0	1	0	0	0	1	4.0										
2 経費の抑制	1	1	0	0	1	0	0	1	3.0										
予算の配分や執行管理方法の見直し	1	1	0	0	1	0	0	1	3.0										
第4 その他業務運営に関する重要事項	3	3	1	0	2	0	0	3	3.7										
1 施設設備の適切な管理	2	2	1	0	1	0	0	2	4.0										
保守点検・修繕等の計画的な実施及び有効活用策等の検討	1	1	0	0	1	0	0	1	3.0										
数値目標 来庁者数	1	1	1	0	0	0	0	1	5.0										
2 環境負荷の低減	1	1	0	0	1	0	0	1	3.0										
環境マネジメントの継続実施	1	1	0	0	1	0	0	1	3.0										

※小項目がない中項目については、細項目別評価の評点の平均値により評価を行う。

Ⅲ 中期計画の各項目ごとの実施状況

大項目	第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項
中項目	1 戦略産業の育成・集積に向けた地域イノベーションの推進

中 期 目 標	<p><戦略産業の育成・集積に向けた地域イノベーションの推進に関する目標></p> <p>全国トップレベルの医療関連産業の集積や、瀬戸内沿岸部の素材・部材の供給基地などの本県産業の特性や強みを活かし、今後の成長が期待できる医療関連産業や環境・エネルギー産業などの戦略産業の育成・集積に資する持続的な地域イノベーション創出環境の整備に資するため、戦略産業分野において、県内企業のニーズ、シーズの発掘から事業化に至るまでの研究開発を支援する体制を整備し、産学公や企業間連携による研究開発・事業化を促進する。</p>
------------------	---

第 1 - 1 (1) 戦略産業分野における研究開発を支援する体制の整備

中期計画	H29 年度の年度計画	評価	H29 年度計画の達成状況等の具体的説明	評価の理由等
<p>推進体制</p> <p>県の特性や強みを活かし、今後の成長が期待できる「医療関連分野」や「環境・エネルギー分野」などの戦略産業における次世代産業クラスターの形成に向け、県内でのイノベーションを促進するため、「やまぐちイノベーション推進協議会」等との連携を図りながら、県内企業のニーズ、シーズの発掘から事業化に至るまでの各種研究開発プロジェクトを総合的に推進する体制をセンター内に構築し、効果的・効率的に運営する。</p>	<p>推進体制</p> <p>「医療関連分野」や「環境・エネルギー分野」の地域イノベーションの推進に向けて、「医療関連推進チーム」と「環境・エネルギー推進チーム」に加え、新たに平成 28 年度に設置した「水素関連技術支援チーム」の 3 つのチームから構成される「イノベーション推進センター」を、「やまぐちイノベーション推進協議会」や県等と一体となって、効果的・効率的に運営する。</p> <p>さらに、センター研究員や産学公連携室等との連携や文部科学省補助事業などの提案公募事業を活用して、県内企業等のニーズ、シーズの発掘から事業化に至るまでの各種研究開発プロジェクトを総合的に推進する。</p>	4	<p>H26年4月に設置したイノベーション推進センターを中心として、「環境・エネルギー分野」、「医療関連分野」におけるイノベーションを推進するため、産学公金からなる「やまぐちイノベーション推進協議会」での議論を踏まえ、県等と協働して、「環境・エネルギー推進チーム」、「水素関連技術支援チーム」、「医療関連推進チーム」の3つのチームにおいて、研究テーマの発掘、コーディネート活動、競争的資金の獲得支援、展示会出展支援などに取り組んだ。</p> <p>「環境・エネルギー分野」においては文部科学省補助事業である「地域イノベーション戦略支援プログラム」を引き続き活用し、研究開発プロジェクトの推進、国際ミニシンポジウムや成果発表会の開催、展示会出展等により県内企業の環境・エネルギー産業への参入を促進した。</p> <p>また、県内中小・中堅企業の水素利活用製品や関連部品等の技術開発・試作等に対する支援を継続して行うとともに、<u>第14回国際水素・燃料電池展～FC EXPO 2018～に出展し、県内企業の研究開発成果等をPRした【新】</u>。</p> <p>「医療関連分野」においては、「ものづくり中小企業・小規模事業者連携支援事業」を引き続き活用し、研究開発プロジェクトの推進、セミナーや本郷展示会の開催、展示会出展等により県内企業の医療関連産業への参入を促進した。</p> <p>これらの取組を効果的に実施した結果、多くの研究開発グループの形成や多くの企業の参画により、<u>環境・エネルギー分野で 16 件（累計 35 件）、医療関連分野で 4 件（累計 18 件）の事業化に繋がった。</u></p>	<p>年度計画を十分達成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国等の補助事業を活用し、3 つのチームにより地域イノベーション創出のための活動を推進 ・第 14 回国際水素・燃料電池展～FC EXPO 2018～への出展【新】 ○環境・エネルギー分野で 16 件（累計 35 件）、医療関連分野で 4 件（累計 18 件）の事業化

地域イノベーション戦略推進地域（4省共管）及び地域イノベーション戦略支援プログラム	補助期間5年間 (H26～H30年度)	総合調整機関：産業技術センター
ものづくり中小企業・小規模事業者連携支援事業 (全国中小企業団体中央会助成事業)	助成期間3年間 (H27～H29年度)	管理機関：産業技術センター

■イノベーション推進センターの体制

(イノベーション推進センター)

- ・センター長：1名（理事長と兼務）

(環境・エネルギー推進チーム)

- ・プロジェクトプロデューサー：1名
- ・サブリーダー：1名（産技C 研究員、医療関連推進チームと兼務）
- ・コーディネータ：5名（内1名、産技C 研究員と兼務）

(水素関連技術支援チーム)

- ・プロジェクトリーダー：1名
- ・事務補助：1名

(医療関連推進チーム)

- ・プロジェクトプロデューサー：1名
- ・サブリーダー：1名（産技C 研究員、環境・エネルギーチームと兼務）
- ・コーディネータ：2名
- ・事務補助：1名

(事業管理)

- ・事業管理責任者：1名（理事長、センター長と兼務）
- ・事業事務・経理担当：1名
- ・事務経理補助：2名

■イノベーション推進センターによる企業訪問

	H26	H27	H28	H29
訪問企業数	117 企業	272 企業	304 企業	255 企業
延べ訪問回数	239 回	533 回	664 回	657 回

■研究会・セミナー・展示会等の開催状況

名 称	場 所	開催日
国際ミニシンポジウム(光触媒)	山口大学常盤キャンパス	9/6
介護・福祉機器開発セミナー	山口グランドホテル	9/14
医工連携の推進に向けたシーズ発表会	山口大学常盤キャンパス	9/26
介護・福祉機器開発セミナー	多目的ホール	11/6
水素関連技術マッチングセミナー ※個別商談会件数 24 件	多目的ホール他	11/7
山口県企業と医療機器メーカーとの展示・商談会 in 本郷 来場者数：約 100 名、出展企業：20 社、商談数：53 件 ※ サンプル提供、見積依頼、後日打ち合わせ等の進展 10 件	医療機器会館	12/21
次世代エネルギー研究会	第1研修室	12/14
医療現場からのニーズ・シーズ発表会	霜仁会館	3/1
地域イノベーション戦略支援プログラム成果発表会	山口グランドホテル	3/22

■展示会・商談会等への出展支援

名 称	開催日
産業交流展 2017	11/15-17
HOSPEX Japan 2017 (東京ビックサイト)	11/20-22
医療機器メーカーとの展示・商談会 in 本郷	12/21
第 14 回国際水素・燃料電池展～FC EXPO 2018～ ・山口県の取組、企業等の研究開発成果や実用化に向けた試作品等の出展 (水素関連) ・出展企業：11、商談件数：1,319 件 (内、見積依頼 31 件、後日面談約束 20 件) ※山口県ブース (県・財団・産技 C) ブース来場者：約 4、000 名 (推計)	2/28-3/2

■環境・エネルギー分野の製品開発(事業化・商品化)：16件

1	二次電池電解液等向け試薬材料
2	ポンプ逆転水車による小水力発電システム
3	窒化ホウ素粉末(パワー半導体デバイス向け放熱材料)
4	パワー半導体デバイス向け放熱材料等製造工程の酸洗浄技術
5	小型濃度差発電システム
6	小型濃度差発電システム用セル部材
7	小型濃度差発電システム用制御装置
8	水素製造用光触媒等向け光機能性有機色素
9	蓄電等エネルギー材料用原料
10	液体水素等向け水素配管溶接技術
11	水素ボイラー
12	純水素型燃料電池ユニット向け水素ボイラー搭載型貯湯ユニット

■環境・エネルギー分野の製品開発(事業化・商品化) (つづき) : 16件

13	純水素燃料電池向け水素ボンベ遠隔監視及びデリバリーシステム
14	再エネ利用小型水素ステーション
15	水素ステーション用クラウド型情報システム
16	高濃度 CO ₂ 溶解装置

■医療機器認証取得 (1件) ※認証: 後発医療機器

- ・めまい診療用眼球運動検査装置 (yVOG-Glass[ワイボグ・グラス]) (10/27)

■医療関連分野の製品開発(事業化・商品化) : 4件

1	眼球運動検査装置“yVOG(ワイボグ)-Glass”の開発
2	再生医療に貢献するインテリジェント恒温キャリアBOX
3	めまい診療用眼球運動検査装置(yVOG)に係る頭位角度情報解析機能(頭位センサープログラム)
4	遺伝子検査用チップ(DNAチップ)の自動検査装置(研究用)

■水素関連技術支援拠点機能強化

- 外部アドバイザー派遣: アドバイザー5名、計11件
- 技術検討ワーキンググループへの参加・支援: 12グループ
- 補助金交付: 3企業

■取組の成果

分野	項目	H26	H27	H28	H29	累計
環境・エネルギー分野	事業化件数	0件	12件	7件	16件	35件
	新たな研究開発グループ	11組	5組	6組	2組	24組
	新たに参画した企業	15社	8社	21社	10社	54社
医療関連分野	事業化件数	1件	4件	9件	4件	18件
	新たな研究開発グループ	14組	2組	1組	7組	24組
	新たに参画した企業	26社	3社	1社	10社	40社

第 1 - 1 (2) 産学公や企業間連携による研究開発・事業化の促進

中期計画	H29 年度の年度計画	評価	H29 年度計画の達成状況等の具体的説明	評価の理由等																																				
<p>関連機関との連携</p> <p>戦略産業分野における企業間や産学公の連携による研究開発プロジェクトの発掘に取り組むとともに、当該プロジェクトが円滑に実施され、県内中堅・中小企業への波及等につながるよう、国等の提案公募型事業（競争的資金）の積極的な活用をはじめとする必要な支援を関係機関と連携しつつ適切に行う。</p>	<p>関連機関との連携</p> <p>イノベーション推進センターや産学公連携室を中心としたコーディネート活動の一層の充実により、戦略産業の次代を担う研究開発プロジェクトの発掘と、研究開発から事業化までのシナリオ（研究開発・事業化計画）作成の取り組みの強化を図る。</p> <p>また、研究開発プロジェクトの継続的な実施、研究成果の県内中堅・中小企業への技術移転や事業化に向け、国等の提案公募型事業（競争的資金）の積極的な活用をはじめとする必要な支援を、戦略産業分野を重点的に、県、大学、やまぐち産業振興財団等と連携して適切に行う。</p>	4	<p>イノベーション推進センターや産学公連携室を中心として、企業訪問等によるコーディネート活動を積極的に実施し、研究開発から事業化までの計画を策定して、研究開発プロジェクトの競争的資金の獲得支援を数多く実施した。</p> <p>特に、イノベーション推進センターを中心とした取組により新たに 6 件、産学公連携室を中心とした取組により新たに 10 件の競争的資金に採択された。</p> <p>■イノベーション推進センターを中心とした取組による獲得支援 25 件（うち新規 6 件）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>課題名</th> <th>提案公募事業名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>個別化医療に有用な遺伝子体外診断薬システムの研究開発</td> <td>H25 年度やまぐち産業戦略研究開発等補助金（大規模枠）</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>医療・健康分野における水素応用技術開発</td> <td>H26 年度やまぐち産業戦略研究開発等補助金（研究開発・実証試験、一般枠）</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>省電力デバイスによる包括的在宅・訪問医療、看護向け電子聴診解析システムの研究開発と事業化</td> <td>H25 年度やまぐち産業戦略研究開発等補助金（研究開発・実証試験、一般枠）</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>再生医療による難治性皮膚潰瘍治療法の開発および培養システムの確立</td> <td>H26 年度やまぐち産業戦略研究開発等補助金（研究開発・実証試験、一般枠）</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>高品位 GaN 基板の開発</td> <td>スーパークラスタープログラム 山口地域サテライトクラスター</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>世界初 純水素型燃料電池コジェネレーションシステムの開発及び水素需要の拡大</td> <td>H26 年度やまぐち産業戦略研究開発等補助金（研究開発・実証試験、大規模枠）</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>ガイドラインと顧客ニーズを満たした、耳鼻科向け内視鏡洗浄器の開発</td> <td>H27 年度やまぐち産業戦略研究開発等補助金（一般枠）</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>太陽光発電を利用した水電解法による高効率水素製造システムの開発及び貯蔵・利用システムの検討</td> <td>H27 年度やまぐち産業戦略研究開発等補助金（大規模枠）</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>幻の赤海苔「カイガラアマノリ」の農水工連携による陸上増養殖技術による開発</td> <td>農林水産業・食品産業科学技術推進事業（重要施策対応型）（農林水産省）</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>下水処理水と海水の塩分濃度差を利用した水素製造システムの実用化に関する調査事業</td> <td>下水道革新的技術実証事業【予備調査】(B-DASH プロジェクト)（国土交通省）</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>IoT を活用した統合的リハビリ支援ソリューション機器の開発</td> <td>H28 年度やまぐち産業戦略研究開発等補助金（一般枠）</td> </tr> </tbody> </table>		課題名	提案公募事業名	1	個別化医療に有用な遺伝子体外診断薬システムの研究開発	H25 年度やまぐち産業戦略研究開発等補助金（大規模枠）	2	医療・健康分野における水素応用技術開発	H26 年度やまぐち産業戦略研究開発等補助金（研究開発・実証試験、一般枠）	3	省電力デバイスによる包括的在宅・訪問医療、看護向け電子聴診解析システムの研究開発と事業化	H25 年度やまぐち産業戦略研究開発等補助金（研究開発・実証試験、一般枠）	4	再生医療による難治性皮膚潰瘍治療法の開発および培養システムの確立	H26 年度やまぐち産業戦略研究開発等補助金（研究開発・実証試験、一般枠）	5	高品位 GaN 基板の開発	スーパークラスタープログラム 山口地域サテライトクラスター	6	世界初 純水素型燃料電池コジェネレーションシステムの開発及び水素需要の拡大	H26 年度やまぐち産業戦略研究開発等補助金（研究開発・実証試験、大規模枠）	7	ガイドラインと顧客ニーズを満たした、耳鼻科向け内視鏡洗浄器の開発	H27 年度やまぐち産業戦略研究開発等補助金（一般枠）	8	太陽光発電を利用した水電解法による高効率水素製造システムの開発及び貯蔵・利用システムの検討	H27 年度やまぐち産業戦略研究開発等補助金（大規模枠）	9	幻の赤海苔「カイガラアマノリ」の農水工連携による陸上増養殖技術による開発	農林水産業・食品産業科学技術推進事業（重要施策対応型）（農林水産省）	10	下水処理水と海水の塩分濃度差を利用した水素製造システムの実用化に関する調査事業	下水道革新的技術実証事業【予備調査】(B-DASH プロジェクト)（国土交通省）	11	IoT を活用した統合的リハビリ支援ソリューション機器の開発	H28 年度やまぐち産業戦略研究開発等補助金（一般枠）	<p>年度計画を十分達成</p> <p>○イノベーション推進センター及び産学公連携室を中心とした優れた取組による競争的資金獲得で多くの実績</p>
	課題名	提案公募事業名																																						
1	個別化医療に有用な遺伝子体外診断薬システムの研究開発	H25 年度やまぐち産業戦略研究開発等補助金（大規模枠）																																						
2	医療・健康分野における水素応用技術開発	H26 年度やまぐち産業戦略研究開発等補助金（研究開発・実証試験、一般枠）																																						
3	省電力デバイスによる包括的在宅・訪問医療、看護向け電子聴診解析システムの研究開発と事業化	H25 年度やまぐち産業戦略研究開発等補助金（研究開発・実証試験、一般枠）																																						
4	再生医療による難治性皮膚潰瘍治療法の開発および培養システムの確立	H26 年度やまぐち産業戦略研究開発等補助金（研究開発・実証試験、一般枠）																																						
5	高品位 GaN 基板の開発	スーパークラスタープログラム 山口地域サテライトクラスター																																						
6	世界初 純水素型燃料電池コジェネレーションシステムの開発及び水素需要の拡大	H26 年度やまぐち産業戦略研究開発等補助金（研究開発・実証試験、大規模枠）																																						
7	ガイドラインと顧客ニーズを満たした、耳鼻科向け内視鏡洗浄器の開発	H27 年度やまぐち産業戦略研究開発等補助金（一般枠）																																						
8	太陽光発電を利用した水電解法による高効率水素製造システムの開発及び貯蔵・利用システムの検討	H27 年度やまぐち産業戦略研究開発等補助金（大規模枠）																																						
9	幻の赤海苔「カイガラアマノリ」の農水工連携による陸上増養殖技術による開発	農林水産業・食品産業科学技術推進事業（重要施策対応型）（農林水産省）																																						
10	下水処理水と海水の塩分濃度差を利用した水素製造システムの実用化に関する調査事業	下水道革新的技術実証事業【予備調査】(B-DASH プロジェクト)（国土交通省）																																						
11	IoT を活用した統合的リハビリ支援ソリューション機器の開発	H28 年度やまぐち産業戦略研究開発等補助金（一般枠）																																						

	課題名	提案公募名
12	せん妄リスク・スクリーニング・ウェアラブル看護支援システムの開発	H28 年度やまぐち産業戦略研究開発等補助金（一般枠）
13	リチウムイオン二次電池用新規酸化物負極材料の開発	H28 年度やまぐち産業戦略研究開発等補助金（一般枠）
14	低純度水素及び低カロリーバイオマス対応コージェネレーションシステム開発	H28 年度やまぐち産業戦略研究開発等補助金（一般枠）
15	世界初・八角断面縫合針を実現するワイヤ伸線加工技術の高度化とその装置の開発	H28 年度戦略的基盤技術高度化支援事業（サポイン事業）
16	あらゆる状況に歩行補助できる My 地図端末機器の開発	H28 年度課題解決型産業技術開発費助成金（課題解決型福祉用具実用化開発支援事業）（NEDO）
17	高品質 AlN 結晶基板を用いた最短波長領域高出力深紫外 LED の研究開発	「高輝度・高効率次世代レーザー技術開発」プロジェクト（NEDO）
18	循環型二酸化炭素変換を目指した吸着剤-光触媒複合体の開発	JFE21 世紀財団 2016 年度技術研究助成
19	CO ₂ 吸着回収と有効成分への化学的変換の両方を実現する新規 CO ₂ 吸着・変換技術の開発	H29 年度新産業創出研究会
20	片耳難聴者のための集音器の改良、手術箇所を明瞭に指示可能なシステムの研究開発及び ICU の音響環境改善システムの研究開発【新】	H29 年度やまぐち地域中小企業育成事業助成金（クラスター推進助成金）
21	鼻副鼻腔疾患治療を革新する呼気同期型加圧振動気流付加装置の開発【新】	H29 年度やまぐち次世代産業育成チャレンジアップ補助金
22	肝臓再生療法（培養ヒト骨髄細胞肝動脈投与療法）の開発・実用化及びロボット細胞培養システム等の高機能化【新】	H29 年度やまぐち次世代産業育成チャレンジアップ補助金
23	革新的再エネ利用水素ステーションパッケージ製品開発【新】	H29 年度水素サプライチェーン技術開発支援補助金
24	オリゴトロフ藻類を用いた、水産加工排水資源化技術の開発【新】	H29 年度地域産学バリュープログラム（JST）
25	革新的コア医療技術に基づく潜在的アンメット・メディカル・ニーズ市場の開拓及び創造【新】	地域イノベーション・エコシステム形成プログラム（文部科学省）

※H26 年度、H27 年度、H28 年度採択事業は、継続審査を受け採択されたもの、H30 年度事業については、H29 年度内に採択通知を受けたものを記載

H26	H27	H28	H29
29 件(23 件)	29 件(15 件)	34 件(14 件)	25 件(6 件)

() 内は新規

■産学公連携室を中心とした取組による獲得 16件（うち新規 10件）

	課題名	提案公募事業名
1	金属 3D プリンターを用いた複雑形状ダイカスト金型における加工技能データを活用した仕上げ工程及びその製造プロセスの構築【新】	H29 年度戦略的基盤技術高度化支援事業
2	ウォラストナイト多孔体の高性能化による用途開発の推進	やまぎん地域企業助成基金 (H29 年度事業)
3	EMI 測定環境の相関性評価のための疑似試験機の開発と評価法の確立	中国電力技術研究財団研究財団 (H29-30 年度事業)
4	「山田錦」レベルの優れた適性を有する酒米新品種と革新的栽培・醸造技術の活用による日本酒輸出倍増戦略	H28 年度革新的技術開発・緊急展開事業
5	和食ブームを支えるワサビの施設化による超促成・高付加価値生産技術の実証	H28 年度革新的技術開発・緊急展開事業
6	国産果実の供給期間拡大を目指した鮮度保持・栽培技術の開発	H28 年度革新的技術開発・緊急展開事業
7	下関の「ふく」の差別化と輸出拡大のための IT 利用「めきき」技術の開発	H28 年度革新的技術開発・緊急展開事業
8	めっき技術を応用した水素発生用電極触媒の開発【新】	中国電力技術研究財団 (H30 年度事業)
9	「工場の残った糸から生まれるエコブランド」事業【新】	創業・新事業支援助成金【販路開拓枠】(やまぐち産業振興財団)
10	「ぎよにつく蒲鉾」による事業拡大【新】	創業・新事業支援助成金【販路開拓枠】(やまぐち産業振興財団)
11	チタニウム陽極酸化の技術開発【新】	活力アップ補助金スタートアップ枠 (やまぐち産業振興財団)
12	『環境 3R (リデュース) ならびにゼロエミッションを目指した取組み』廃塗料の利活用で付加価値を創出「多目的軽量プレート」【新】	活力アップ補助金スタートアップ枠 (やまぐち産業振興財団)
13	「グリーンコーヒー」を使用した今までにないジャンルの飲料を開発【新】	活力アップ補助金スタートアップ枠 (やまぐち産業振興財団)
14	4K、8K 用 LED ディスプレイ及びその監視システムの開発【新】	チャレンジやまぐち中小企業総合支援事業「特定テーマ事業支援助成金」(やまぐち産業振興財団)
15	鉛バッテリー高効率再生システム及び鉛バッテリー遠隔管理システムの開発【新】	キューテック研究開発助成金
16	衛星ビッグデータを活用した里山黄金郷創出事業～竹林から～【新】	先進的な宇宙利用モデル実証プロジェクト (内閣府)

※H26 年度、H27 年度、H28 年度採択事業は、継続審査を受け採択されたもの、H30 年度事業については、H29 年度内に採択通知を受けたものを記載

H26	H27	H28	H29
12 件(9 件)	10 件(4 件)	13 件(11 件)	16 件(10 件)

() 内は新規

大項目	第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項
中項目	2 中小企業力の向上に向けたものづくり力の高度化・ブランド化の推進

中期目標	<p><中小企業力の向上に向けたものづくり力の高度化・ブランド化の推進に関する目標></p> <p>本県産業を支える中小企業のものづくり力の高度化・ブランド化の推進に資するため、事業化戦略を踏まえた実用化研究に重点的に取り組み、その成果の普及を図るとともに、当該成果を活用した事業化の取組を支援する。</p> <p>また、関係機関との緊密な連携の下、各種技術研究会活動を積極的に展開するとともに、研究開発計画の策定や必要となる資金の獲得を支援し、企業の技術革新の取組を促進する。</p>
------	---

第1-2(1) 事業化戦略を踏まえた実用化研究への重点的取組

中期計画	H29年度の年度計画	評価	H29年度計画の達成状況等の具体的説明	評価の理由等						
<p>実用化研究への取組</p> <p>企業のニーズや県の産業振興施策の動向を踏まえつつ、事業化を視野に入れた実用化研究に重点的に取り組む。</p> <p>具体的には、第2期「技術戦略」の中で、以下の3つの方向性に沿ってセンターが研究開発を行う技術（重点技術）と当該重点技術ごとの取組方針や実施工程（ロードマップ）を明示し、センターの研究開発を計画的に行う。</p> <p>① 戦略産業分野への県内企業の参入の先導</p> <p>② 県内企業のものづくり技術の高度化促進</p> <p>③ 地域の魅力を活かした製品開発のための企画段階からのセンターの参画</p>	<p>実用化研究への取組</p> <p>策定した第2期「技術戦略」を、県内企業へ向けて積極的に見える化を推進すると共に、技術戦略に基づく事業化を視野に入れた実用化研究を重点的に実施する。</p> <p>なお、技術戦略に掲げる研究開発の3つの方向性における平成29年度の主な研究開発テーマは、次のとおりである。</p> <p>①戦略産業分野への県内企業の参入の先導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・めっき技術を応用したアルカリ水電解用電極の開発 ・世界初・八角断面縫合針を実現するワイヤ伸線加工技術の高度化とその装置開発 	3	<p>技術戦略<第2期>[ロードマップ] (H27.3策定・刊行) を広く配布し、法人が取り組む技術戦略を分かり易く示した。</p> <p>その技術戦略に基づく実用化研究は概ね順調に進み、H29年度に実施した主要な研究開発7テーマ中、1テーマ（3Dものづくり）で県内企業により事業化され、2テーマ（3Dものづくり、めっき技術）で県内企業と共同で取り組む競争的資金の獲得に発展した。また、再編した「3Dものづくりチーム」と「製品開発チーム」はそれぞれ活動を開始し、前者は前述の事業化や競争的資金獲得で成果を出し、後者は企画開発の事例研究を実施した後、<u>年度末に共同開発テーマの募集を開始した【新】</u>。</p> <p>①戦略産業分野への県内企業の参入の先導</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 15%;">研究テーマ(期間)</td> <td>めっき技術を応用したアルカリ水電解用電極の開発 (H29-30)</td> </tr> <tr> <td colspan="2">進捗状況 (100%)</td> </tr> <tr> <td colspan="2">アルカリ水電解における水素発生電極の評価方法を確立した。これまでに開発した新規めっき皮膜を複雑な実用電極形状に作製し、上記評価方法により電極特性を評価した結果、既存の電極と比較して電解電圧が低下することが確認された。これにより、新規めっき電極は、ランニングコストに優位性があることがわかった。今後、開発を更に進めるとともに、事業化に向けて共同研究等の企業と連携した取組を進めていく予定である。(競争的資金獲得1件)</td> </tr> </table>	研究テーマ(期間)	めっき技術を応用したアルカリ水電解用電極の開発 (H29-30)	進捗状況 (100%)		アルカリ水電解における水素発生電極の評価方法を確立した。これまでに開発した新規めっき皮膜を複雑な実用電極形状に作製し、上記評価方法により電極特性を評価した結果、既存の電極と比較して電解電圧が低下することが確認された。これにより、新規めっき電極は、ランニングコストに優位性があることがわかった。今後、開発を更に進めるとともに、事業化に向けて共同研究等の企業と連携した取組を進めていく予定である。(競争的資金獲得1件)		<p>年度計画を概ね達成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主要な研究開発7テーマ中、1テーマで事業化、2テーマで競争的資金獲得に発展 ・製品開発チームが共同開発テーマの募集開始【新】
研究テーマ(期間)	めっき技術を応用したアルカリ水電解用電極の開発 (H29-30)									
進捗状況 (100%)										
アルカリ水電解における水素発生電極の評価方法を確立した。これまでに開発した新規めっき皮膜を複雑な実用電極形状に作製し、上記評価方法により電極特性を評価した結果、既存の電極と比較して電解電圧が低下することが確認された。これにより、新規めっき電極は、ランニングコストに優位性があることがわかった。今後、開発を更に進めるとともに、事業化に向けて共同研究等の企業と連携した取組を進めていく予定である。(競争的資金獲得1件)										

	<p>②県内企業のものづくり技術の高度化促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・精密微細気孔を有する多孔質セラミックスの開発と環境浄化材料への展開 ・高粘性液体の霧化・乾燥の研究 ・3D ものづくり技術による高度な調査研究と実用的な活用事例研究 	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="1359 262 1567 331">研究テーマ (期 間)</td> <td data-bbox="1567 262 2706 331">世界初・八角断面縫合針を実現するワイヤ伸線加工技術の高度化とその装置開発 (H28-29)</td> </tr> <tr> <td colspan="2" data-bbox="1359 342 2706 548"> <p>進捗状況 (100%)</p> <p>八角形断面を有する直線カットワイヤの試作品評価において、顕微鏡やX線CTを使用し、直線性、捻じれの有無、断面形状及び表面の面粗度等の精密評価方法を確立した。これらの精密評価結果と伸線加工工場のオンライン上の光学顕微鏡を用いた簡易品質評価方法による結果との比較から、ほぼ同等の評価ができることが分かった。</p> </td> </tr> <tr> <td colspan="2" data-bbox="1359 688 2706 724"> <p>②県内企業のものづくり技術の高度化促進</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="1359 741 1567 810">研究テーマ (期 間)</td> <td data-bbox="1567 741 2706 810">精密微細気孔を有する多孔質セラミックスの開発と環境浄化材料への展開 (H28-29)</td> </tr> <tr> <td colspan="2" data-bbox="1359 821 2706 1129"> <p>進捗状況 (100%)</p> <p>県内企業の生産設備を用いて、ウォラストナイトを主原料とする様々な形状の多孔質セラミックスの試験製造をおこない、板状(縦300mm×横300mm×厚み15mm)や円筒状(外径10mm/内径7mm×長さ500mm)の多孔質セラミックスを開発することに成功した。</p> <p>この多孔質セラミックスは、平均気孔径が$1\pm 0.7\mu\text{m}$の精密微細気孔を有しており、ガス透過性にも優れた特徴を有していることから、これらの特徴を活用して水処理用の分離膜(セラミックフィルター)や散気材(セラミックディフューザー)などへ用途展開できることを見出した。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="1359 1224 1567 1293">研究テーマ (期 間)</td> <td data-bbox="1567 1224 2706 1293">高粘性液体の霧化・乾燥の研究 (H29-30)</td> </tr> <tr> <td colspan="2" data-bbox="1359 1304 2706 1591"> <p>進捗状況 (100%)</p> <p>高粘性液体の霧化については、霧化装置の超音波振動子の幾何的配置及び形状を検討し、振動子の最適な配置を実現した。その結果、従来の霧化限界であった液体粘度を$10[\text{mPa}\cdot\text{s}]$から$40[\text{mPa}\cdot\text{s}]$に向上できた。また、高粘性液体の乾燥については、水の蒸発可能な条件が実現できる装置を開発し、更に被乾燥物の体積をより小さくすることで、数$10[\text{mPa}\cdot\text{s}]$の高粘性液体から乾燥物を得ることができた。</p> </td> </tr> </table>	研究テーマ (期 間)	世界初・八角断面縫合針を実現するワイヤ伸線加工技術の高度化とその装置開発 (H28-29)	<p>進捗状況 (100%)</p> <p>八角形断面を有する直線カットワイヤの試作品評価において、顕微鏡やX線CTを使用し、直線性、捻じれの有無、断面形状及び表面の面粗度等の精密評価方法を確立した。これらの精密評価結果と伸線加工工場のオンライン上の光学顕微鏡を用いた簡易品質評価方法による結果との比較から、ほぼ同等の評価ができることが分かった。</p>		<p>②県内企業のものづくり技術の高度化促進</p>		研究テーマ (期 間)	精密微細気孔を有する多孔質セラミックスの開発と環境浄化材料への展開 (H28-29)	<p>進捗状況 (100%)</p> <p>県内企業の生産設備を用いて、ウォラストナイトを主原料とする様々な形状の多孔質セラミックスの試験製造をおこない、板状(縦300mm×横300mm×厚み15mm)や円筒状(外径10mm/内径7mm×長さ500mm)の多孔質セラミックスを開発することに成功した。</p> <p>この多孔質セラミックスは、平均気孔径が$1\pm 0.7\mu\text{m}$の精密微細気孔を有しており、ガス透過性にも優れた特徴を有していることから、これらの特徴を活用して水処理用の分離膜(セラミックフィルター)や散気材(セラミックディフューザー)などへ用途展開できることを見出した。</p>		研究テーマ (期 間)	高粘性液体の霧化・乾燥の研究 (H29-30)	<p>進捗状況 (100%)</p> <p>高粘性液体の霧化については、霧化装置の超音波振動子の幾何的配置及び形状を検討し、振動子の最適な配置を実現した。その結果、従来の霧化限界であった液体粘度を$10[\text{mPa}\cdot\text{s}]$から$40[\text{mPa}\cdot\text{s}]$に向上できた。また、高粘性液体の乾燥については、水の蒸発可能な条件が実現できる装置を開発し、更に被乾燥物の体積をより小さくすることで、数$10[\text{mPa}\cdot\text{s}]$の高粘性液体から乾燥物を得ることができた。</p>	
研究テーマ (期 間)	世界初・八角断面縫合針を実現するワイヤ伸線加工技術の高度化とその装置開発 (H28-29)															
<p>進捗状況 (100%)</p> <p>八角形断面を有する直線カットワイヤの試作品評価において、顕微鏡やX線CTを使用し、直線性、捻じれの有無、断面形状及び表面の面粗度等の精密評価方法を確立した。これらの精密評価結果と伸線加工工場のオンライン上の光学顕微鏡を用いた簡易品質評価方法による結果との比較から、ほぼ同等の評価ができることが分かった。</p>																
<p>②県内企業のものづくり技術の高度化促進</p>																
研究テーマ (期 間)	精密微細気孔を有する多孔質セラミックスの開発と環境浄化材料への展開 (H28-29)															
<p>進捗状況 (100%)</p> <p>県内企業の生産設備を用いて、ウォラストナイトを主原料とする様々な形状の多孔質セラミックスの試験製造をおこない、板状(縦300mm×横300mm×厚み15mm)や円筒状(外径10mm/内径7mm×長さ500mm)の多孔質セラミックスを開発することに成功した。</p> <p>この多孔質セラミックスは、平均気孔径が$1\pm 0.7\mu\text{m}$の精密微細気孔を有しており、ガス透過性にも優れた特徴を有していることから、これらの特徴を活用して水処理用の分離膜(セラミックフィルター)や散気材(セラミックディフューザー)などへ用途展開できることを見出した。</p>																
研究テーマ (期 間)	高粘性液体の霧化・乾燥の研究 (H29-30)															
<p>進捗状況 (100%)</p> <p>高粘性液体の霧化については、霧化装置の超音波振動子の幾何的配置及び形状を検討し、振動子の最適な配置を実現した。その結果、従来の霧化限界であった液体粘度を$10[\text{mPa}\cdot\text{s}]$から$40[\text{mPa}\cdot\text{s}]$に向上できた。また、高粘性液体の乾燥については、水の蒸発可能な条件が実現できる装置を開発し、更に被乾燥物の体積をより小さくすることで、数$10[\text{mPa}\cdot\text{s}]$の高粘性液体から乾燥物を得ることができた。</p>																

	<p>③地域の魅力を活かした製品開発のため企画段階からのセンターの参画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特徴的な香味を活かした山口県産和紅茶の開発 ・県内企業の魅力ある製品づくりのための企画・開発 <p>また、平成27年度に編成した技術グループ横断的な「ものづくりチーム」を、「3Dものづくりチーム」と「製品開発チーム」に再編し、それぞれ「3Dものづくり技術による高度な調査研究と実用的な活用事例研究」と「県内企業の魅力ある製品づくりのための企画・開発」を実施する。</p>	<table border="1" data-bbox="1359 262 2721 997"> <tr> <td data-bbox="1359 262 1567 336">研究テーマ (期間)</td> <td data-bbox="1567 262 2721 336">3Dものづくり技術による高度な調査研究と実用的な活用事例研究 (H29-30)</td> </tr> <tr> <td colspan="2" data-bbox="1359 336 2721 997"> <p>進捗状況 (100%)</p> <p><金属3Dプリンター活用事例研究></p> <ul style="list-style-type: none"> ・マルエージング鋼造形品の EBSD 分析、SUS、マルエージング鋼の造形品に対する X 線残留応力測定を行った。また、金属積層造形物に関する共同研究を2件実施した。(競争的資金獲得1件) ・ニーズに基づいた高度な活用事例研究では「複雑形状を有する超音波霧化装置治具の造形」と「医療用ピンセット用治具の造形」に取り組み、複雑形状の積層造形のメリットや複数個取りによるコスト低減の検証を行った。 <p><樹脂系3Dプリンター活用事例研究></p> <ul style="list-style-type: none"> ・3D樹脂モデルの小ロット用製造設備としての利用と実用性評価として、樹脂製マッチプレート(砂型成形用の型で従来はアルミ製)の実用性評価を行った。50回の砂型製造について実用性が確認出来た。 ・ニーズに基づいた高度な活用事例研究についてはマスターモデルを用いないシリコン型製作に関する検討とリバースエンジニアリングを活用した商品開発を行った。(事業化1件) <p><3Dものづくり手法の調査・研究></p> <ul style="list-style-type: none"> ・付加製造技術を活用した検査治工具の高度化に関する研究では、3Dプリンターで造形した樹脂製Vブロックを、接触式の三次元測定機での測定(丸棒の直径測定)に使用し、一般的な金属製Vブロックと遜色のない精度で測定が行えることを確認した。 </td> </tr> </table> <p>③地域の魅力を活かした製品開発のため企画段階からのセンターの参画</p> <table border="1" data-bbox="1359 1144 2721 1501"> <tr> <td data-bbox="1359 1144 1567 1218">研究テーマ (期間)</td> <td data-bbox="1567 1144 2721 1218">特徴的な香味を活かした山口県産和紅茶の開発 (H28-29)</td> </tr> <tr> <td colspan="2" data-bbox="1359 1218 2721 1501"> <p>進捗状況 (80%)</p> <p>山口県産の生葉及び凍結茶葉(ヤブキタ種)を原料に、小型揉捻機を使用した紅茶を試作し、香りや水色を分析した。その結果、山口県産和紅茶は、他県産和紅茶(ヤブキタ種)と比較し、ハーブ・青草様の香り(Hexanal, E-2-hexenal)が顕著に強く検出された。また、揉捻条件の違いにより、香りの発揚が異なることが確認された。一方、生葉を用いた和紅茶は、凍結茶葉よりハーブ・青草様の香りが強く検出され、水色も鮮やかな赤みを帯びていた。さらに、凍結茶葉を用いた場合、萎凋を約65%に調整することにより特徴香であるハーブ・青草様の香りを高くできた。</p> </td> </tr> </table>	研究テーマ (期間)	3Dものづくり技術による高度な調査研究と実用的な活用事例研究 (H29-30)	<p>進捗状況 (100%)</p> <p><金属3Dプリンター活用事例研究></p> <ul style="list-style-type: none"> ・マルエージング鋼造形品の EBSD 分析、SUS、マルエージング鋼の造形品に対する X 線残留応力測定を行った。また、金属積層造形物に関する共同研究を2件実施した。(競争的資金獲得1件) ・ニーズに基づいた高度な活用事例研究では「複雑形状を有する超音波霧化装置治具の造形」と「医療用ピンセット用治具の造形」に取り組み、複雑形状の積層造形のメリットや複数個取りによるコスト低減の検証を行った。 <p><樹脂系3Dプリンター活用事例研究></p> <ul style="list-style-type: none"> ・3D樹脂モデルの小ロット用製造設備としての利用と実用性評価として、樹脂製マッチプレート(砂型成形用の型で従来はアルミ製)の実用性評価を行った。50回の砂型製造について実用性が確認出来た。 ・ニーズに基づいた高度な活用事例研究についてはマスターモデルを用いないシリコン型製作に関する検討とリバースエンジニアリングを活用した商品開発を行った。(事業化1件) <p><3Dものづくり手法の調査・研究></p> <ul style="list-style-type: none"> ・付加製造技術を活用した検査治工具の高度化に関する研究では、3Dプリンターで造形した樹脂製Vブロックを、接触式の三次元測定機での測定(丸棒の直径測定)に使用し、一般的な金属製Vブロックと遜色のない精度で測定が行えることを確認した。 		研究テーマ (期間)	特徴的な香味を活かした山口県産和紅茶の開発 (H28-29)	<p>進捗状況 (80%)</p> <p>山口県産の生葉及び凍結茶葉(ヤブキタ種)を原料に、小型揉捻機を使用した紅茶を試作し、香りや水色を分析した。その結果、山口県産和紅茶は、他県産和紅茶(ヤブキタ種)と比較し、ハーブ・青草様の香り(Hexanal, E-2-hexenal)が顕著に強く検出された。また、揉捻条件の違いにより、香りの発揚が異なることが確認された。一方、生葉を用いた和紅茶は、凍結茶葉よりハーブ・青草様の香りが強く検出され、水色も鮮やかな赤みを帯びていた。さらに、凍結茶葉を用いた場合、萎凋を約65%に調整することにより特徴香であるハーブ・青草様の香りを高くできた。</p>	
研究テーマ (期間)	3Dものづくり技術による高度な調査研究と実用的な活用事例研究 (H29-30)									
<p>進捗状況 (100%)</p> <p><金属3Dプリンター活用事例研究></p> <ul style="list-style-type: none"> ・マルエージング鋼造形品の EBSD 分析、SUS、マルエージング鋼の造形品に対する X 線残留応力測定を行った。また、金属積層造形物に関する共同研究を2件実施した。(競争的資金獲得1件) ・ニーズに基づいた高度な活用事例研究では「複雑形状を有する超音波霧化装置治具の造形」と「医療用ピンセット用治具の造形」に取り組み、複雑形状の積層造形のメリットや複数個取りによるコスト低減の検証を行った。 <p><樹脂系3Dプリンター活用事例研究></p> <ul style="list-style-type: none"> ・3D樹脂モデルの小ロット用製造設備としての利用と実用性評価として、樹脂製マッチプレート(砂型成形用の型で従来はアルミ製)の実用性評価を行った。50回の砂型製造について実用性が確認出来た。 ・ニーズに基づいた高度な活用事例研究についてはマスターモデルを用いないシリコン型製作に関する検討とリバースエンジニアリングを活用した商品開発を行った。(事業化1件) <p><3Dものづくり手法の調査・研究></p> <ul style="list-style-type: none"> ・付加製造技術を活用した検査治工具の高度化に関する研究では、3Dプリンターで造形した樹脂製Vブロックを、接触式の三次元測定機での測定(丸棒の直径測定)に使用し、一般的な金属製Vブロックと遜色のない精度で測定が行えることを確認した。 										
研究テーマ (期間)	特徴的な香味を活かした山口県産和紅茶の開発 (H28-29)									
<p>進捗状況 (80%)</p> <p>山口県産の生葉及び凍結茶葉(ヤブキタ種)を原料に、小型揉捻機を使用した紅茶を試作し、香りや水色を分析した。その結果、山口県産和紅茶は、他県産和紅茶(ヤブキタ種)と比較し、ハーブ・青草様の香り(Hexanal, E-2-hexenal)が顕著に強く検出された。また、揉捻条件の違いにより、香りの発揚が異なることが確認された。一方、生葉を用いた和紅茶は、凍結茶葉よりハーブ・青草様の香りが強く検出され、水色も鮮やかな赤みを帯びていた。さらに、凍結茶葉を用いた場合、萎凋を約65%に調整することにより特徴香であるハーブ・青草様の香りを高くできた。</p>										

			<table border="1"> <tr> <td data-bbox="1347 268 1567 344">研究テーマ (期 間)</td> <td data-bbox="1567 268 2718 344">県内企業の魅力ある製品づくりのための企画・開発 (H29-30)</td> </tr> <tr> <td colspan="2" data-bbox="1347 344 2718 907"> <p>進捗状況 (85%)</p> <p><製品企画手法の確立> テストケースとして家庭用搾油機の企画開発を取り上げ、基本的な企画手順の参考となる製品企画シートを作成中である。</p> <p><製品企画の共同実施> 以下の調査を実施し、その結果からユーザー像の分析、現行製品の長所・短所の分析、開発製品のコンセプト設定などを行った。</p> <p>①搾油機現行モデルのユーザーに対するアンケート調査 ②競合製品と現行モデルの使用テストと開発製品の方向性の検討 ③搾りたて油の魅力に関する調査</p> <p><製品開発の共同実施> ①設計条件の検討 製品企画結果の開発コンセプトをもとに、電動式搾油機の設計条件や、制御方法、操作方法等を検討した。これらの結果をもとに、現在試作機を製作中である。</p> </td> </tr> </table> <p data-bbox="1347 1045 2178 1079">※ 進捗状況については、当該年度目標に対するものである。</p>	研究テーマ (期 間)	県内企業の魅力ある製品づくりのための企画・開発 (H29-30)	<p>進捗状況 (85%)</p> <p><製品企画手法の確立> テストケースとして家庭用搾油機の企画開発を取り上げ、基本的な企画手順の参考となる製品企画シートを作成中である。</p> <p><製品企画の共同実施> 以下の調査を実施し、その結果からユーザー像の分析、現行製品の長所・短所の分析、開発製品のコンセプト設定などを行った。</p> <p>①搾油機現行モデルのユーザーに対するアンケート調査 ②競合製品と現行モデルの使用テストと開発製品の方向性の検討 ③搾りたて油の魅力に関する調査</p> <p><製品開発の共同実施> ①設計条件の検討 製品企画結果の開発コンセプトをもとに、電動式搾油機の設計条件や、制御方法、操作方法等を検討した。これらの結果をもとに、現在試作機を製作中である。</p>	
研究テーマ (期 間)	県内企業の魅力ある製品づくりのための企画・開発 (H29-30)						
<p>進捗状況 (85%)</p> <p><製品企画手法の確立> テストケースとして家庭用搾油機の企画開発を取り上げ、基本的な企画手順の参考となる製品企画シートを作成中である。</p> <p><製品企画の共同実施> 以下の調査を実施し、その結果からユーザー像の分析、現行製品の長所・短所の分析、開発製品のコンセプト設定などを行った。</p> <p>①搾油機現行モデルのユーザーに対するアンケート調査 ②競合製品と現行モデルの使用テストと開発製品の方向性の検討 ③搾りたて油の魅力に関する調査</p> <p><製品開発の共同実施> ①設計条件の検討 製品企画結果の開発コンセプトをもとに、電動式搾油機の設計条件や、制御方法、操作方法等を検討した。これらの結果をもとに、現在試作機を製作中である。</p>							

第 1 - 2 (2) 研究開発成果の普及とその活用

中期計画	H29 年度の年度計画	評価	H29 年度計画の達成状況等の具体的説明	評価の理由等																																																					
ア 研究開発成果の発信とその成果の活用支援	ア 研究開発成果の発信とその成果の活用支援	4	<p>研究会や研究（技術）発表会の開催、コーディネータや研究員の企業訪問、研究・業務報告書の刊行、ホームページ等様々な方法により県内企業に発信した。</p> <p>また、研究開発成果を事業化する上で必要となる製品化研究を技術移転する企業から資金を得て実施するとともに、研究担当者やコーディネータがフォローアップのための企業訪問を継続的に行うことにより、<u>独法化以降最高の7件の事業化・商品化実績</u>があった。</p> <p>■研究開発事業化・商品化実績</p> <table border="1"> <tr><td>1</td><td>真空機器用高耐食アルマイト皮膜の開発</td></tr> <tr><td>2</td><td>砕石製造プロセスの改善による生産性向上とIoTを活用した効率的な維持管理手法の開発</td></tr> <tr><td>3</td><td>微粉末難燃剤の開発</td></tr> <tr><td>4</td><td>粉末の耐水処理技術の開発</td></tr> <tr><td>5</td><td>「やまぐち山麩酵母」の開発と清酒の商品化</td></tr> <tr><td>6</td><td>食品加工工場におけるIoTを活用した効率的な温度等管理手法の開発</td></tr> <tr><td>7</td><td>3Dプリンターによる樹脂製マッチプレートの実用性評価</td></tr> </table> <p>■研究開発事業化・商品化実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">第1期</th> <th colspan="4">第2期</th> </tr> <tr> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>6</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>7</td> </tr> </tbody> </table> <p>■巡回技術報告会、技術発表会の実施状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>開催日</th> <th>参加者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>やまぐち事業化支援・連携コーディネート会議「シーズ・ニーズ発表展示」</td> <td>9/26</td> <td>78名</td> </tr> <tr> <td>巡回技術報告会(山口商工会議所常議委員会)</td> <td>2/5</td> <td>35名</td> </tr> <tr> <td>技術報告会</td> <td>3/16</td> <td>104名</td> </tr> </tbody> </table>	1	真空機器用高耐食アルマイト皮膜の開発	2	砕石製造プロセスの改善による生産性向上とIoTを活用した効率的な維持管理手法の開発	3	微粉末難燃剤の開発	4	粉末の耐水処理技術の開発	5	「やまぐち山麩酵母」の開発と清酒の商品化	6	食品加工工場におけるIoTを活用した効率的な温度等管理手法の開発	7	3Dプリンターによる樹脂製マッチプレートの実用性評価	第1期					第2期				H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	1	2	3	6	5	5	4	4	7	名称	開催日	参加者数	やまぐち事業化支援・連携コーディネート会議「シーズ・ニーズ発表展示」	9/26	78名	巡回技術報告会(山口商工会議所常議委員会)	2/5	35名	技術報告会	3/16	104名	<p>年度計画を十分達成</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究報告書等の刊行、ホームページ、技術発表会等により研究開発成果の積極的発信 共同研究・受託研究の実施とフォローアップのための企業訪問 <p>○<u>独法化以降最高の7件の事業化・商品化実績</u></p>
1	真空機器用高耐食アルマイト皮膜の開発																																																								
2	砕石製造プロセスの改善による生産性向上とIoTを活用した効率的な維持管理手法の開発																																																								
3	微粉末難燃剤の開発																																																								
4	粉末の耐水処理技術の開発																																																								
5	「やまぐち山麩酵母」の開発と清酒の商品化																																																								
6	食品加工工場におけるIoTを活用した効率的な温度等管理手法の開発																																																								
7	3Dプリンターによる樹脂製マッチプレートの実用性評価																																																								
第1期					第2期																																																				
H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29																																																	
1	2	3	6	5	5	4	4	7																																																	
名称	開催日	参加者数																																																							
やまぐち事業化支援・連携コーディネート会議「シーズ・ニーズ発表展示」	9/26	78名																																																							
巡回技術報告会(山口商工会議所常議委員会)	2/5	35名																																																							
技術報告会	3/16	104名																																																							
<p>センターの研究開発成果については、研究会や企業訪問等により県内企業に広く発信するとともに、共同研究・受託研究などにより企業に移転する取組を推進する。</p> <p>また、企業においてセンターの研究開発成果の実用化が滞りなく進捗できるよう、関係職員によるフォローアップを継続的に行う。</p>	<p>研究会や研究（技術）発表会の開催、展示会への出展、コーディネータや研究員の企業訪問、研究・業務報告書の刊行、ホームページ等様々な方法により研究開発成果を県内企業に発信するとともに、共同研究・受託研究などにより企業に移転する取組を推進する。</p> <p>また、成果を移転した企業に対し、研究担当者等の関係職員がフォローアップを継続的に行う。</p>																																																								

			<p>■ 刊行物の発行状況</p> <table border="1"> <tr> <td>研究報告書</td> <td>600部</td> </tr> <tr> <td>業務報告書</td> <td>600部</td> </tr> <tr> <td>技術戦略—第2期—</td> <td>500部</td> </tr> </table> <p>■ 企業から資金を得て実施する共同研究・受託研究の実施状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>担当グループ</th> <th>共同研究</th> <th>受託研究</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>加工技術グループ</td> <td></td> <td>1テーマ</td> </tr> <tr> <td>設計制御グループ</td> <td>2テーマ</td> <td>1テーマ</td> </tr> <tr> <td>電子応用グループ</td> <td>2テーマ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>材料技術グループ</td> <td>4^{*1,*2}テーマ</td> <td>4^{*3}テーマ</td> </tr> <tr> <td>環境技術グループ</td> <td>1^{*1}テーマ</td> <td>2^{*3}テーマ</td> </tr> <tr> <td>食品技術グループ</td> <td>1テーマ</td> <td>4テーマ</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>9テーマ</td> <td>11テーマ</td> </tr> </tbody> </table> <p>*1 内 1 件は材料技術 G と環境技術 G 共同実施 *2 内 1 件は材料技術 G と技術相談室共同実施 *3 内 1 件は材料技術 G と環境技術 G 共同実施</p>	研究報告書	600部	業務報告書	600部	技術戦略—第2期—	500部	担当グループ	共同研究	受託研究	加工技術グループ		1テーマ	設計制御グループ	2テーマ	1テーマ	電子応用グループ	2テーマ		材料技術グループ	4 ^{*1,*2} テーマ	4 ^{*3} テーマ	環境技術グループ	1 ^{*1} テーマ	2 ^{*3} テーマ	食品技術グループ	1テーマ	4テーマ	計	9テーマ	11テーマ	
研究報告書	600部																																	
業務報告書	600部																																	
技術戦略—第2期—	500部																																	
担当グループ	共同研究	受託研究																																
加工技術グループ		1テーマ																																
設計制御グループ	2テーマ	1テーマ																																
電子応用グループ	2テーマ																																	
材料技術グループ	4 ^{*1,*2} テーマ	4 ^{*3} テーマ																																
環境技術グループ	1 ^{*1} テーマ	2 ^{*3} テーマ																																
食品技術グループ	1テーマ	4テーマ																																
計	9テーマ	11テーマ																																
イ 知的財産の適切な管理	イ 知的財産の適切な管理	3	<p>研究開発成果の知的財産化（職務発明7件、特許出願9件）を速やかに進め、初めて早期審査請求制度を活用するなど申請から取得、普及（新規実施許諾5件）への対応を適切に行った。また、権利の廃棄・継続を判断するしくみについて本格実施し、独法化後最も多い権利処分（過年度失効、期間満了及び放棄：9件）を行い、知財管理を適切に行った。</p> <p>さらに、他機関の事業を活用して<u>弁理士を交えた技術グループ毎の知財勉強会【新】</u>などを行い、知財管理の質の向上に努めた。</p>	<p>年度計画を概ね達成</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究開発成果の速やかな知的財産化：職務発明 7 件、特許出願 9 件、早期審査請求 1 件 独法化後最も多い権利処分（9 件） 弁理士を交えた技術グループ毎の知財勉強会の開催【新】 																														

■知的財産管理

項 目	第1期					第2期				
	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	2期計
職務発明	5	8	15	7	6	7	4	4	7	22
特許等出願	5	8	15	5	8	5	7	2	9	23
審査請求(内早期)	5(0)	11(0)	5(0)	2(0)	9(0)	3(0)	6(0)	4(0)	6(1)	19(1)
特許登録	3	6	6	10	8	6	8	6	5	25
権利の処分*	1	0	1	1	1	1	0	1	9	11
新規実施許諾	2	2	3	3	2	5	4	6	5	20

* 過年度失効、期間満了及び放棄

■他機関の事業を活用した研修・勉強会

<特許情報検索講習会(山口大学)>

研究職及び事務職の職員3名を参加させ、参加者全員が山口大学の特許検索インストラクターの資格を授与された。

<弁理士を交えた技術グループ毎の知財勉強会>【新】

加工技術グループ(6/21)、材料技術グループ(7/19)、電子応用グループ(8/16)、設計制御グループ(9/20)、環境技術グループ(10/18)、デザイングループ(11/15)、食品技術グループ(12/20)

第 1 - 2 (3) 各種技術研究会活動の積極的展開

中期計画	H29 年度の年度計画	評定	H29 年度計画の達成状況等の具体的説明	評定の理由等																				
研究会活動の積極的展開 ものづくり技術の高度化・ブランド化を推進する「やまぐちブランド技術研究会」や、水素エネルギー活用やスマートファクトリー等を推進する「新エネルギー研究会」など各種技術研究会活動を積極的に展開し、当該研究会会員による研究開発を促進する。	研究会活動の積極的展開 「やまぐちブランド技術研究会」では、講演会や共通課題の勉強会、活動成果の展示会出展などを行うとともに、会員企業それぞれの新たな技術獲得に向けた個別支援を行い、会員企業の「山口県技術革新計画」の承認支援を行う。 「新エネルギー研究会」では、県産エネルギーや省エネ機器などの県産資源を利活用するエネルギーシステムやスマートファクトリー等の実現のため、これまで取り組んできた活動や実証試験の成果を会員企業の新たなビジネス展開に繋げるよう取り組む。 「やまぐち 3D ものづくり研究会」では、3D プリンターなどを活用した 3D ものづくりに関連する技術を習得するとともに、その技術を活かして、会員企業の新技術や新製品の開発を支援する。 平成 28 年度に設立した「衛星データ解析技術研究会」では、JAXA 西日本衛星防災利用研究センター、山口大学応用衛星リモートセンシング研究センターと連携し、講演会や共通課題の勉強会を開催しながら、会員企業の衛星データへの知識を深めるとともに、様々な産業への利活用方法について検討する。	4	各研究会の会員企業への技術支援を継続することにより、「やまぐちブランド技術研究会」では県内企業の技術革新計画の策定に向けた個別支援により 6 企業で承認を受け、「新エネルギー研究会」では会員企業で 2 件の事業化が達成され、「やまぐち 3D ものづくり研究会」では企業のニーズに基づいた試作により会員企業で 1 件の事業化が達成された。また、「衛星データ解析技術研究会」では、会員を中心にした研究会・技術セミナー・ワーキンググループなどの積極的な活動 (16 回) や会員へのプロポーザル公募に基づく業務委託による衛星リモートセンシングの産業応用調査 (1 件) 及びソフトウェア開発 (2 件) を行った。【新】。 ①やまぐちブランド技術研究会 (会員数 186 企業184 その他機関 2 (H30.3末時点)) 「やまぐちブランド技術研究会」では、引き続き、分科会等の研究会活動や県の事業を活用した研究等を通じた支援を行うとともに、「新たなものづくりへの挑戦」に向けた県の支援制度である技術革新計画の承認に向けた支援を行い、支援した6件全て承認される結果となった。 ■研究会・分科会の開催 <table border="1" data-bbox="1466 1205 2665 1486"> <thead> <tr> <th>内 容</th> <th>開催日</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>やまぐちブランド技術研究会</td> <td>3/16</td> </tr> <tr> <td>精密加工技術分科会</td> <td>3/9</td> </tr> <tr> <td>表面改質・湿式表面処理技術分科会</td> <td>3/5-6</td> </tr> <tr> <td>無機系廃棄物等リサイクルチーム会議</td> <td>1/18</td> </tr> <tr> <td>組込みシステム技術分科会</td> <td>2/23</td> </tr> </tbody> </table> ■技術革新計画の策定支援 <table border="1" data-bbox="1466 1577 2041 1761"> <thead> <tr> <th>研究会名</th> <th>承認数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>精密加工技術分科会</td> <td>4 件</td> </tr> <tr> <td>組込みシステム技術分科会</td> <td>1 件</td> </tr> <tr> <td>湿式表面処理技術分科会</td> <td>1 件</td> </tr> </tbody> </table>	内 容	開催日	やまぐちブランド技術研究会	3/16	精密加工技術分科会	3/9	表面改質・湿式表面処理技術分科会	3/5-6	無機系廃棄物等リサイクルチーム会議	1/18	組込みシステム技術分科会	2/23	研究会名	承認数	精密加工技術分科会	4 件	組込みシステム技術分科会	1 件	湿式表面処理技術分科会	1 件	年度計画を十分達成 ○やまぐちブランド技術研究会、新エネルギー研究会活動による継続的支援 (技術革新計画承認 6 企業) ○新エネルギー研究会、3D ものづくり研究会の積極的活動による事業化 3 件 ○衛星データ解析技術研究会の積極的な活動 (16 回) と産業応用調査及びソフトウェア開発の実施【新】
内 容	開催日																							
やまぐちブランド技術研究会	3/16																							
精密加工技術分科会	3/9																							
表面改質・湿式表面処理技術分科会	3/5-6																							
無機系廃棄物等リサイクルチーム会議	1/18																							
組込みシステム技術分科会	2/23																							
研究会名	承認数																							
精密加工技術分科会	4 件																							
組込みシステム技術分科会	1 件																							
湿式表面処理技術分科会	1 件																							

②新エネルギー研究会（会員数 60 企業 57 その他機関 3（H30.3末時点））

新エネルギー研究会及び二つの分科会を開催し、県内企業の参画により試作開発や実証実験を行うとともに、会員企業による事業化に向けた取組を行った。

■分科会活動

分科会名	取組内容
水素・再生可能エネルギー利用分科会	<ul style="list-style-type: none"> RE コージェネレーションシステム WG において、県内企業を代表とする複数企業とともに、H29 年度やまぐち次世代産業育成チャレンジアップ補助金事業を活用して取組を推進した。 高性能断熱容器の提案を目指して、断熱容器の技術的検証を引き続き行った。 H25 年度に県内複数企業と試作開発した小型風力発電システムのフィールド実験を引き続き行った。
スマートファクトリー分科会	<ul style="list-style-type: none"> モデル工場におけるエネルギー監視を継続した。 分科会会員であるモデル工場 2 工場と会員企業とで 2 件の事業化を達成した。

■研究会・分科会の開催状況

名 称	開催日
新エネルギー研究会	8/9
水素・再生可能エネルギー利用分科会（ワーキンググループ会議含む）	4/17,7/21,9/11,10/13,12/11,2/8,3/14,3/15
スマートファクトリー分科会	1/23

③やまぐち 3D ものづくり研究会（会員数 74 企業 65 その他機関 9（H30.3 末時点））

やまぐち 3D ものづくり研究会会員に対して、積極的に企業訪問を行い、ニーズに基づいた試作、事例研究等を実施し、下記の実績を上げた。

【実績】

<金属 3D プリンター>

・ニーズに基づいた高度な活用事例研究を 2 件実施し、複雑形状の積層造形のメリットや複数個取りによるコスト低減の検証を行った。

<樹脂系 3D プリンター>

・ニーズに基づいた高度な活用事例研究については、マスターモデルを用いないシリコン型製作に関する検討とリバースエンジニアリングを活用した商品開発を行った。

・3D プリンターによる樹脂製マッチプレートの実用性評価について 1 件の事業化を達成した。

<3D ものづくり手法の調査・研究>

・3D プリンターで造形した樹脂製 V ブロックを接触式の三次元測定機での測定（丸棒の直径測定）に使用し、一般的な金属製 V ブロックと遜色のない精度で測定できることを確認した。

		<p>■研究会</p> <table border="1" data-bbox="1469 331 2703 430"> <thead> <tr> <th>名 称</th> <th>日程</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>やまぐち 3D ものづくり研究会</td> <td>9/1, 3/29</td> </tr> </tbody> </table> <p>④衛星データ解析技術研究会（会員数 35 企業 24 その他機関 9（H30.3 末時点））</p> <p>JAXA 機能の一部移転を県内情報産業の育成に繋げるため、H28 年度に設立した衛星データ解析技術研究会の活動において研究会、技術セミナー及びワーキンググループ会議を積極的に開催した。また、会員を対象としたプロポーザルを 2 回実施し、業務委託による衛星リモートセンシングの産業応用調査（1 件）及びソフトウェア開発（2 件）の業務委託を行った【新】。</p> <p>■研究会等</p> <table border="1" data-bbox="1469 787 2736 1123"> <thead> <tr> <th>名 称</th> <th>場 所</th> <th>開催日</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>衛星データ解析技術研究会</td> <td>産技センター</td> <td>5/10, 7/5, 9/14, 3/13</td> </tr> <tr> <td>技術セミナー</td> <td>産技センター</td> <td>4/13, 6/22, 8/10, 8/30, 10/20, 11/28, 12/13, 1/25</td> </tr> <tr> <td>ワーキンググループ会議</td> <td>産技センター</td> <td>7/6, 9/26, 10/24</td> </tr> <tr> <td>応用衛星リモートセンシング研究センター 公開シンポジウム（山口大学との共催）</td> <td>ココランド宇部</td> <td>7/1</td> </tr> </tbody> </table> <p>■プロポーザル公募による業務委託</p> <p>①衛星リモートセンシング産業応用調査（H29.6.14 審査委員会）</p> <p>衛星データを用いた産業創出について、県内産業の特徴を活かした事業展開を進めるための産業利用に関するシーズ・ニーズ・応用調査（1 件）の実施。</p> <p>②衛星リモートセンシング関連ソフトウェア等開発業務（H29.8.3 審査委員会）</p> <p>県内産業の衛星データを用いたビジネス展開を可能とするソフトウェア（2 件）を開発。</p> <p>■国等の提案公募型研究開発事業への申請を支援</p> <p>大学及び企業等の国等の提案公募型研究開発事業への申請を支援し、1 テーマが採択された【新】。</p> <p>（テーマ）「先進的な宇宙利用モデル実証プロジェクト」里地里山再生うべモデル #1)竹林循環利用適地技術の実用化（H29.9-H30.3）</p>	名 称	日程	やまぐち 3D ものづくり研究会	9/1, 3/29	名 称	場 所	開催日	衛星データ解析技術研究会	産技センター	5/10, 7/5, 9/14, 3/13	技術セミナー	産技センター	4/13, 6/22, 8/10, 8/30, 10/20, 11/28, 12/13, 1/25	ワーキンググループ会議	産技センター	7/6, 9/26, 10/24	応用衛星リモートセンシング研究センター 公開シンポジウム（山口大学との共催）	ココランド宇部	7/1
名 称	日程																				
やまぐち 3D ものづくり研究会	9/1, 3/29																				
名 称	場 所	開催日																			
衛星データ解析技術研究会	産技センター	5/10, 7/5, 9/14, 3/13																			
技術セミナー	産技センター	4/13, 6/22, 8/10, 8/30, 10/20, 11/28, 12/13, 1/25																			
ワーキンググループ会議	産技センター	7/6, 9/26, 10/24																			
応用衛星リモートセンシング研究センター 公開シンポジウム（山口大学との共催）	ココランド宇部	7/1																			

第 1 - 2 (4) 研究開発計画策定や資金獲得の支援

中期計画	H29 年度の年度計画	評価	H29 年度計画の達成状況等の具体的説明	評価の理由等																														
<p>国等の提案公募型事業獲得支援</p> <p>県内企業(企業間連携を含む)の技術に対する「強い想い」を新事業展開につなげるために、県の技術革新計画制度等を活用しつつ、研究開発計画の策定や、国等の提案公募型事業(競争的資金)獲得を支援する。</p>	<p>国等の提案公募型事業獲得支援</p> <p>やまぐちブランド技術研究会の取組と一体的に、企業自ら実施する研究開発から事業化までの計画(シナリオ)策定を支援する。</p> <p>また、シナリオの実現に必要な資金として、国等の提案公募型事業(競争的資金)の獲得を支援する。</p>	4	<p>やまぐちブランド技術研究会の取組と一体的に、企業自ら実施する研究開発から事業化までの計画(シナリオ)策定を支援した。その結果、県の技術革新計画に支援した6件がすべて承認された。</p> <p>更に、技術革新計画を承認された企業に対する開放機器の使用料金の減免措置制度、新事業支援センターの月額使用料金の減免措置制度を運用した。</p> <p>また、シナリオの実現に必要な資金として、国等の提案公募型事業(競争的資金)の獲得に向けて積極的に支援を行い、<u>43件の競争的資金を獲得した。</u></p> <p>■やまぐちブランド技術研究会による技術革新計画支援状況</p> <p>【フォローアップ】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>企業名</th> <th>所在地</th> <th>内容</th> <th>確認日</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>山口興産株式会社</td> <td>宇部市</td> <td>混合廃プラスチックの油化装置(テスト機)開発</td> <td>4/28</td> </tr> <tr> <td>中国電化工業株式会社</td> <td>防府市</td> <td>ICチップ検査用基板の再生技術の高度化</td> <td>5/12</td> </tr> </tbody> </table> <p>【新規計画策定支援】</p> <table border="1"> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>大型特殊ラミネートフィルム製袋の量産技術の確立</td> <td>小野田ビニール工業(株) 精密加工技術分科会</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>チタンの新表面処理</td> <td>下関鍍金(株) 湿式表面処理分科会</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>金属3Dプリンタを用いたダイカスト金型の製造技術開発</td> <td>高橋鉄工(株) 精密加工技術分科会</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>3Dものづくり技術を活用した小ロット製品の製造サービス</td> <td>(株)アワセルプス 精密加工技術分科会</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>宇宙データ利用とIoTによるゴルフ場芝生管理システムの開発</td> <td>(株)NSA研究所 組込みシステム技術分科会</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>新エネルギー向け耐性材料の加工技術確立による事業化</td> <td>(株)松田鉄工所 精密加工技術分科会</td> </tr> </tbody> </table>	企業名	所在地	内容	確認日	山口興産株式会社	宇部市	混合廃プラスチックの油化装置(テスト機)開発	4/28	中国電化工業株式会社	防府市	ICチップ検査用基板の再生技術の高度化	5/12	1	大型特殊ラミネートフィルム製袋の量産技術の確立	小野田ビニール工業(株) 精密加工技術分科会	2	チタンの新表面処理	下関鍍金(株) 湿式表面処理分科会	3	金属3Dプリンタを用いたダイカスト金型の製造技術開発	高橋鉄工(株) 精密加工技術分科会	4	3Dものづくり技術を活用した小ロット製品の製造サービス	(株)アワセルプス 精密加工技術分科会	5	宇宙データ利用とIoTによるゴルフ場芝生管理システムの開発	(株)NSA研究所 組込みシステム技術分科会	6	新エネルギー向け耐性材料の加工技術確立による事業化	(株)松田鉄工所 精密加工技術分科会	<p>年度計画を十分達成</p> <ul style="list-style-type: none"> 企業の技術革新計画の承認支援(6件) <p>○国等の提案公募型事業(競争的資金)獲得(43件)の積極的支援</p>
企業名	所在地	内容	確認日																															
山口興産株式会社	宇部市	混合廃プラスチックの油化装置(テスト機)開発	4/28																															
中国電化工業株式会社	防府市	ICチップ検査用基板の再生技術の高度化	5/12																															
1	大型特殊ラミネートフィルム製袋の量産技術の確立	小野田ビニール工業(株) 精密加工技術分科会																																
2	チタンの新表面処理	下関鍍金(株) 湿式表面処理分科会																																
3	金属3Dプリンタを用いたダイカスト金型の製造技術開発	高橋鉄工(株) 精密加工技術分科会																																
4	3Dものづくり技術を活用した小ロット製品の製造サービス	(株)アワセルプス 精密加工技術分科会																																
5	宇宙データ利用とIoTによるゴルフ場芝生管理システムの開発	(株)NSA研究所 組込みシステム技術分科会																																
6	新エネルギー向け耐性材料の加工技術確立による事業化	(株)松田鉄工所 精密加工技術分科会																																

		<p>■開放機器の使用料金の減免措置、新事業支援センターの月額使用料金の減免措置</p> <table border="1"> <tr> <td>開放機器使用料減免措置</td> <td>1件</td> </tr> <tr> <td>新事業支援センター月額使用料減免措置</td> <td>1件</td> </tr> </table> <p>■国等の提案公募型事業（競争的資金）の獲得支援状況 （詳細はp.13～p.15参照）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>イノベーション推進センターを中心とした取組による獲得</td> <td>25件</td> </tr> <tr> <td>産学公連携室を中心とした取組による獲得</td> <td>16件</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>41件</td> </tr> </tbody> </table> <p>■上記以外</p> <table border="1"> <tr> <td>地域イノベーション戦略支援プログラム</td> <td>1件</td> </tr> <tr> <td>ものづくり中小企業・小規模事業者連携支援事業</td> <td>1件</td> </tr> </table>	開放機器使用料減免措置	1件	新事業支援センター月額使用料減免措置	1件	項目	件数	イノベーション推進センターを中心とした取組による獲得	25件	産学公連携室を中心とした取組による獲得	16件	計	41件	地域イノベーション戦略支援プログラム	1件	ものづくり中小企業・小規模事業者連携支援事業	1件
開放機器使用料減免措置	1件																	
新事業支援センター月額使用料減免措置	1件																	
項目	件数																	
イノベーション推進センターを中心とした取組による獲得	25件																	
産学公連携室を中心とした取組による獲得	16件																	
計	41件																	
地域イノベーション戦略支援プログラム	1件																	
ものづくり中小企業・小規模事業者連携支援事業	1件																	

第1-2(5) 数値目標

中期計画	H29年度の年度計画	評価	H29年度計画の達成状況等の具体的説明	評価の理由等																						
ア 特許等の出願及び新規使用許諾件数 中期計画期間中の5年間 合計 55件	ア 特許等の出願及び新規使用許諾件数 年間 11件	5	ア 特許等の出願及び新規使用許諾件数 14件 ■特許等の出願及び新規使用許諾件数の内訳 <table border="1"> <thead> <tr> <th>内訳</th> <th>件数</th> <th>目標参考値</th> <th>達成度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>特許等出願</td> <td>9件</td> <td>8件</td> <td>113%</td> </tr> <tr> <td>新規使用許諾</td> <td>5件</td> <td>3件</td> <td>167%</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>14件</td> <td>11件</td> <td>127%</td> </tr> </tbody> </table>	内訳	件数	目標参考値	達成度	特許等出願	9件	8件	113%	新規使用許諾	5件	3件	167%	合計	14件	11件	127%	年度計画は十二分に達成 達成度 127%						
内訳	件数	目標参考値	達成度																							
特許等出願	9件	8件	113%																							
新規使用許諾	5件	3件	167%																							
合計	14件	11件	127%																							
イ 山口県技術革新計画の承認支援件数 中期計画期間中の5年間 合計 20件	イ 山口県技術革新計画の承認支援件数 年間 4件	5	イ 山口県技術革新計画の承認支援件数 6件 ■技術革新計画の内容(公開分:県ホームページ)(再掲p.26) <table border="1"> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>大型特殊ラミネートフィルム製袋の量産技術の確立</td> <td>小野田ビニール工業(株)</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>チタンの新表面処理</td> <td>下関鍍金(株)</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>金属3Dプリンタを用いたダイカスト金型の製造技術開発</td> <td>高橋鉄工(株)</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>3Dものづくり技術を活用した小ロット製品の製造サービス</td> <td>(株)アワセルブス</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>宇宙データ利用とIoTによるゴルフ場芝生管理システムの開発</td> <td>(株)NSA研究所</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>新エネルギー向け耐性材料の加工技術確立による事業化</td> <td>(株)松田鉄工所</td> </tr> </tbody> </table>	1	大型特殊ラミネートフィルム製袋の量産技術の確立	小野田ビニール工業(株)	2	チタンの新表面処理	下関鍍金(株)	3	金属3Dプリンタを用いたダイカスト金型の製造技術開発	高橋鉄工(株)	4	3Dものづくり技術を活用した小ロット製品の製造サービス	(株)アワセルブス	5	宇宙データ利用とIoTによるゴルフ場芝生管理システムの開発	(株)NSA研究所	6	新エネルギー向け耐性材料の加工技術確立による事業化	(株)松田鉄工所	年度計画を十二分に達成 達成度 150%				
1	大型特殊ラミネートフィルム製袋の量産技術の確立	小野田ビニール工業(株)																								
2	チタンの新表面処理	下関鍍金(株)																								
3	金属3Dプリンタを用いたダイカスト金型の製造技術開発	高橋鉄工(株)																								
4	3Dものづくり技術を活用した小ロット製品の製造サービス	(株)アワセルブス																								
5	宇宙データ利用とIoTによるゴルフ場芝生管理システムの開発	(株)NSA研究所																								
6	新エネルギー向け耐性材料の加工技術確立による事業化	(株)松田鉄工所																								
ウ センター支援による国等の提案公募型事業の獲得件数 中期計画期間中の5年間 合計 30件	ウ センター支援による国等の提案公募型事業の獲得 年間 6件	5	ウ センター支援による国等の提案公募型事業の獲得 14件(3件) ■センターで実施契約を伴うもの <table border="1"> <thead> <tr> <th>提案公募名</th> <th>獲得件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>戦略的基盤技術高度化支援事業(サポイン)</td> <td>2件(1件)</td> </tr> <tr> <td>農林水産業の革新的技術開発・緊急展開事業</td> <td>4件(0件)</td> </tr> <tr> <td>地域産学バリュープログラム(JST)</td> <td>1件(0件)</td> </tr> <tr> <td>やまぎん地域企業助成基金</td> <td>1件(0件)</td> </tr> <tr> <td>中国電力技術研究財団</td> <td>2件(1件)</td> </tr> <tr> <td>地域イノベーション・エコシステム形成プログラム(文科省)</td> <td>1件(1件)</td> </tr> <tr> <td>スーパークラスタープログラム 山口地域サテライトクラスター(H25-29)</td> <td>1件(0件)</td> </tr> <tr> <td>地域イノベーション戦略支援プログラム</td> <td>1件(0件)</td> </tr> <tr> <td>ものづくり中小企業・小規模事業者連携支援事業</td> <td>1件(0件)</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>14件(3件)</td> </tr> </tbody> </table>	提案公募名	獲得件数	戦略的基盤技術高度化支援事業(サポイン)	2件(1件)	農林水産業の革新的技術開発・緊急展開事業	4件(0件)	地域産学バリュープログラム(JST)	1件(0件)	やまぎん地域企業助成基金	1件(0件)	中国電力技術研究財団	2件(1件)	地域イノベーション・エコシステム形成プログラム(文科省)	1件(1件)	スーパークラスタープログラム 山口地域サテライトクラスター(H25-29)	1件(0件)	地域イノベーション戦略支援プログラム	1件(0件)	ものづくり中小企業・小規模事業者連携支援事業	1件(0件)	計	14件(3件)	年度計画を十二分に達成 達成度 233%
提案公募名	獲得件数																									
戦略的基盤技術高度化支援事業(サポイン)	2件(1件)																									
農林水産業の革新的技術開発・緊急展開事業	4件(0件)																									
地域産学バリュープログラム(JST)	1件(0件)																									
やまぎん地域企業助成基金	1件(0件)																									
中国電力技術研究財団	2件(1件)																									
地域イノベーション・エコシステム形成プログラム(文科省)	1件(1件)																									
スーパークラスタープログラム 山口地域サテライトクラスター(H25-29)	1件(0件)																									
地域イノベーション戦略支援プログラム	1件(0件)																									
ものづくり中小企業・小規模事業者連携支援事業	1件(0件)																									
計	14件(3件)																									

ウ センター支援による国等の提案
公募型事業の獲得件数 (つづき)

ウ センター支援による国等の提案公
募型事業の獲得 (つづき)

(参考) 企業が申請する提案公募型事業の獲得支援に関するもの 29件(13件)

提案公募名	獲得件数
農林水産業・食品産業科学技術推進事業 (重要施策対応型) (農林水産省)	1件(0件)
下水道革新的技術実証事業【予備調査】(B-DASHプロジェクト) (国土交通省)	1件(0件)
H28 課題解決型産業技術開発費助成金 (課題解決型福祉用具実用化開発支援事業) (NEDO)	1件(0件)
やまぐち地域中小企業育成事業助成金 (クラスター推進助成金)	1件(1件)
「高輝度・高効率次世代レーザー技術開発」プロジェクト (NEDO)	1件(1件)
JFE21 世紀財団 2016 年度技術研究助成	1件(0件)
H29 年度新産業創出研究会	1件(0件)
やまぐち産業戦略研究開発等補助金	11件(0件)
やまぐち次世代産業育成チャレンジアップ補助金	2件(2件)
水素サプライチェーン技術開発支援補助金	1件(1件)
創業・新事業支援助成金【販路開拓枠】 (やまぐち産業振興財団)	2件(2件)
活力アップ助成金スタートアップ枠 (やまぐち産業振興財団)	3件(3件)
チャレンジやまぐち中小企業総合支援事業「特定テーマ事業支援助成金」 (やまぐち産業振興財団)	1件(1件)
キューテック研究開発助成金	1件(1件)
先進的な宇宙利用モデル実証プロジェクト (内閣府)	1件(1件)
計	29件(13件)

<p>エ 研究開発・技術支援が事業化（商品化）に至った件数</p> <p>中期計画期間中の5年間 合計 40件</p>	<p>エ 研究開発・技術支援が事業化（商品化）に至った件数</p> <p>年間 8件</p>	<p>5</p>	<p>エ 研究開発・技術支援が事業化（商品化）に至った件数 12件</p> <p>■研究開発・技術支援が事業化（商品化）した内訳</p> <table border="1"> <tr><td>1</td><td>真空機器用高耐食アルマイト皮膜の開発</td><td>研究開発</td></tr> <tr><td>2</td><td>砕石製造プロセスの改善による生産性向上とIoTを活用した効率的な維持管理手法の開発</td><td>研究開発</td></tr> <tr><td>3</td><td>微粉末難燃剤の開発</td><td>研究開発</td></tr> <tr><td>4</td><td>粉末の耐水処理技術の開発</td><td>研究開発</td></tr> <tr><td>5</td><td>「やまぐち山廃酵母」の開発と清酒の商品化</td><td>研究開発</td></tr> <tr><td>6</td><td>食品加工工場におけるIoTを活用した効率的な温度等管理手法の開発</td><td>研究開発</td></tr> <tr><td>7</td><td>3Dプリンターによる樹脂製マッチプレートの実用性評価</td><td>研究開発</td></tr> <tr><td>8</td><td>パン用酵母「海の天然酵母」の分離</td><td>技術支援</td></tr> <tr><td>9</td><td>眼球運動検査装置“yVOG(ワイボグ)-Glass”の開発</td><td>技術支援※</td></tr> <tr><td>10</td><td>再生医療に貢献するインテリジェント恒温キャリアBOX</td><td>技術支援※</td></tr> <tr><td>11</td><td>めまい診療用眼球運動検査装置(yVOG)に係る頭位角度情報解析機能(頭位センサープログラム)</td><td>技術支援※</td></tr> <tr><td>12</td><td>遺伝子検査用チップ(DNAチップ)の自動検査装置(研究用)</td><td>技術支援※</td></tr> </table> <p>※ 医療関連の課題掘り起こし（イノベーション推進センター）による製品開発</p>	1	真空機器用高耐食アルマイト皮膜の開発	研究開発	2	砕石製造プロセスの改善による生産性向上とIoTを活用した効率的な維持管理手法の開発	研究開発	3	微粉末難燃剤の開発	研究開発	4	粉末の耐水処理技術の開発	研究開発	5	「やまぐち山廃酵母」の開発と清酒の商品化	研究開発	6	食品加工工場におけるIoTを活用した効率的な温度等管理手法の開発	研究開発	7	3Dプリンターによる樹脂製マッチプレートの実用性評価	研究開発	8	パン用酵母「海の天然酵母」の分離	技術支援	9	眼球運動検査装置“yVOG(ワイボグ)-Glass”の開発	技術支援※	10	再生医療に貢献するインテリジェント恒温キャリアBOX	技術支援※	11	めまい診療用眼球運動検査装置(yVOG)に係る頭位角度情報解析機能(頭位センサープログラム)	技術支援※	12	遺伝子検査用チップ(DNAチップ)の自動検査装置(研究用)	技術支援※	<p>年度計画を十二分に達成 達成度 150%</p>
1	真空機器用高耐食アルマイト皮膜の開発	研究開発																																						
2	砕石製造プロセスの改善による生産性向上とIoTを活用した効率的な維持管理手法の開発	研究開発																																						
3	微粉末難燃剤の開発	研究開発																																						
4	粉末の耐水処理技術の開発	研究開発																																						
5	「やまぐち山廃酵母」の開発と清酒の商品化	研究開発																																						
6	食品加工工場におけるIoTを活用した効率的な温度等管理手法の開発	研究開発																																						
7	3Dプリンターによる樹脂製マッチプレートの実用性評価	研究開発																																						
8	パン用酵母「海の天然酵母」の分離	技術支援																																						
9	眼球運動検査装置“yVOG(ワイボグ)-Glass”の開発	技術支援※																																						
10	再生医療に貢献するインテリジェント恒温キャリアBOX	技術支援※																																						
11	めまい診療用眼球運動検査装置(yVOG)に係る頭位角度情報解析機能(頭位センサープログラム)	技術支援※																																						
12	遺伝子検査用チップ(DNAチップ)の自動検査装置(研究用)	技術支援※																																						

大項目	第 1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項
中項目	3 「中核的技術支援拠点」としての更なる機能強化

中期目標	<p><「中核的技術支援拠点」としての更なる機能強化に関する目標></p> <p>県内企業のものづくりパートナーとして、社会経済情勢の変化に的確に対応した技術力の向上を支援するため、大学や関係機関による研究支援機能や経営支援機能との有機的連携を図り、効果的かつ切れ目のない企業支援の一層の充実を図る。</p> <p>また、企業訪問や相談窓口機能を活用した技術相談の充実や、新たな技術課題の掘り起こしに取り組む。</p> <p>さらに、中小企業単独では導入が困難な先端的試験研究機器の計画的整備とその開放など、各種の技術支援サービスを充実する。</p>
------	---

第 1 - 3 (1) 効果的かつ切れ目のない企業支援の一層の充実

中期計画	H29 年度の年度計画	評価	H29 年度計画の達成状況等の具体的説明	評価の理由等													
産学公金の連携	産学公金の連携	4	<p>企業のものづくり支援や産業技術センターの拠点機能を強化するため、平成 29 年度経済産業省補正予算「地域における中小企業の生産性向上のための共同基盤事業」に応募・採択されるなど国・県の緊急的な施策にも積極的に取り組んだ。採択された事業によって、平成 30 年度に機器を整備し、産業技術センターの 3D ものづくり支援の拠点機能を強化する。</p> <p>また、大学・国公設試や民間機関、やまぐち産業振興財団や金融機関等との連携を深める取組を引き続き行った。</p> <p>■国の緊急的な施策への取組 経済産業省平成29年度補正予算「地域における中小企業の生産性向上のための共同基盤事業」 採択事業：<目的> 3Dものづくり支援機能強化による地域企業の革新的ものづくり（生産性向上）の実現 <内容> 平成 30 年度に“粉末焼結式樹脂成型機”、“構造最適化ソフトウェア”を新たに導入するとともに、大容量 3D データを管理（共有、受け渡し、セキュリティ確保）するクラウドサーバを整備し、「バーチャル 3D ものづくり支援センター（仮称）」を平成 31 年度から運用開始</p> <p>■国・県の施策への協力状況（主なものを抜粋）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>国関連</th> <th>内容</th> <th>開催日等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>国税庁</td> <td>第 62 回全国酒造技術指導機関合同会議</td> <td>10/13</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">広島国税局</td> <td>H29 年広島国税局清酒鑑評会の品質評価委員</td> <td>9/28, 9/29, 10/4</td> </tr> <tr> <td>中国地方酒造技術指導機関協議会</td> <td>10/4</td> </tr> <tr> <td>全国市販酒類調査の品質評価会</td> <td>10/17</td> </tr> </tbody> </table>	国関連	内容	開催日等	国税庁	第 62 回全国酒造技術指導機関合同会議	10/13	広島国税局	H29 年広島国税局清酒鑑評会の品質評価委員	9/28, 9/29, 10/4	中国地方酒造技術指導機関協議会	10/4	全国市販酒類調査の品質評価会	10/17	<p>年度計画を概ね達成</p> <p>○産業技術センターの 3D ものづくり支援の拠点機能を強化する H29 年度経産省補正予算事業に採択 ・大学・国公設試や民間機関、やまぐち産業振興財団や金融機関等との連携した取組</p>
国関連	内容	開催日等															
国税庁	第 62 回全国酒造技術指導機関合同会議	10/13															
広島国税局	H29 年広島国税局清酒鑑評会の品質評価委員	9/28, 9/29, 10/4															
	中国地方酒造技術指導機関協議会	10/4															
	全国市販酒類調査の品質評価会	10/17															

県関連	内容	開催日等
環境生活部	廃棄物 3R 事業化検討業務委託	H29 年度
	山口県廃棄物 3R 等推進事業補金審査会	7/11
	H29 年度山口県リサイクル製品利用促進連絡会議	3/20
	電気自動車中古バッテリーリユース実証試験プロジェクト	H29年度
	電気自動車中古バッテリーの普及可能性に関する調査研究委員会委員	H29年度
商工労働部	次世代産業クラスター構想推進事業(イノベーション推進体制整備)	H29 年度
	やまぐち医療関連成長戦略推進事業(交流・マッチング促進)	H29 年度
	水素関連技術支援拠点機能強化事業	H29 年度
	やまぐち産業人材創造協議会委員	H29 年度
	やまぐち水素成長戦略推進協議会	4/27
	やまぐち地域中小企業育成協議会	6/20
	山口県中小企業経営革新計画承認審査会	1 回/月
	やまぐち次世代ベンチャー創出支援補助金審査委員会委員	H29 年度
	山口県産業技術振興奨励賞選考委員会	9/14
	やまぐち総合ビジネスメッセ実行委員	H29 年度
	やまぐちイノベーション推進協議会委員	H29 年度
	山口県企業立地促進補助金等審査会委員	H29 年度
	「地域連携・低炭素水素技術実証事業」事業検討委員会	8/7, 11/24, 3/19
山口県ビジネスプランコンテスト審査委員会	10/28	
土木建築部	屋外広告物の表示に関する講師	11/10
	「全国都市緑化やまぐちフェア実行委員会」の委員	10/19
	景観学習用教材等作成プロジェクトチーム	H29年度
農林水産部	やまぐち 6 次産業化・農商工連携推進協議会	6/5, 3/19
	やまぐち 6 次産業化・農商工連携推進事業審査会	6/12
	ため池管理省力化システム関連業務プロポーザル審査委員会	7/25
	やまぐち 6 次産業化・農商工連携推進大会交流会への出展	10/16
	やまぐち 6 次産業化・農商工連携人材育成研修に係る講師	12/5
産業戦略部	山口県コンビナート連携会議	5/18
	山口県地域経済牽引事業促進協議会委員	H29 年度
山口県下関県民局	第 15 回長府企業フェスタ	10/7-8
山口県教育庁	特別展「アリスと大冒険—3D ふしぎ博物館—」への技術的協力	7/14-8/27

※大学：
山口大学との包括連携協定の実効性のある取組（やまぐちイノベーション創出推進拠点（JST）の共同運営、山口大学応用衛星リモートセンシング研究センターとの連携等）

■大学：山口大学との包括連携協定の実効性のある取組、やまぐちイノベーション創出推進拠点（JST）の共同運営等の取組状況

①やまぐち事業化支援・連携コーディネート会議での連携

やまぐち事業化支援・連携コーディネート会議の規約改正による会長と事務局を山口大学と産業技術センターが1年交替で担う体制の下で、山口大学と連携してコーディネート活動を行った。

（会議の主な活動）

1	やまぐち事業化支援・連携コーディネート会議	3/8
---	-----------------------	-----

②研究委託

	事業名	研究テーマ
1	産学公が連携したリモートセンシング技術活用研究業務	産学公が連携したリモートセンシング技術活用研究

③産学公金連携によるセミナーの共同開催等

	セミナー名	日程	場所
1	「伝統技の活用と新事業活性化」セミナー	7/26	山口グランドホテル
2	「ロボット関連技術の最新動向と将来技術」セミナー	9/8	山口大学工学部
3	「製造業におけるIoT活用」セミナー	10/26	産業技術センター
4	「新事業展開への要素技術」セミナー	1/22	海峡メッセ下関

④提案公募など競争的資金獲得・事業推進に関する協力

平成29年度に県と山口大学で共同提案して採択された文部科学省事業「地域イノベーション・エコシステム形成プログラム」においては、運営開発会議への参画やコーディネート活動を行った。

	事業名
1	地域イノベーション戦略支援プログラム
2	スーパークラスタープログラム 山口地域サテライトクラスター
3	やまぐち未来創生人材育成・定着促進事業
4	地域イノベーション・エコシステム形成プログラム【新】

⑤職員の講師派遣

	事業名
1	山口大学工学部 応用化学工学演習Ⅳ
2	山口大学大学院創成科学研究科 キャリアデザインⅠ
3	山口大学大学院創成科学研究科 キャリアデザインⅡ
4	山口大学大学院創成科学研究科 ライフサイエンス系専攻展開科目Ⅰ

⑥見学の受入

	学部名等	受入日	受入人数
1	山口大学農学部生物資源環境科学科	9/7	40名
2	山口大学COC+事業推進本部	10/25	15名

⑦学生研修生の受入

	概要	グループ	受入人数
1	パッシブな断熱方法による、温暖地の木造住宅屋根に必要な断熱性能達成の可能性を検証することを目的とした、数値解析と実験室実験の実施	デザインG	1名

⑧学協会等への共同発表等

	学会名等	発表日等	発表テーマ
1	FOOD STYLE 21 21 巻 9 号 p.30	9/1	予防医学に基づく機能性魚肉練り製品の開発(支援事例の紹介)～ 添加物マスキング技術を用いた医学的エビデンスに基づく高血圧予防・機能性魚肉練り製品の研究開発と世界展開 ～
2	FOOD STYLE 21 21 巻 10 号 pp.28-30	10/1	山口県発フードイノベーション② ～発酵技術を用いた製品化事例紹介～
3	第 5 回看護理工学会学術集会	10/14	看護用器具開発・事業化におけるコーディネーションのノウハウ研究
4	International Journal of Civil & Environmental Engineering, Vol.17, No.06, pp.1-14	12/1	Thermal Relaxation by sunagoke Moss Green Roof in Mitigating Urban Heat Island
5	Journal of Fluid Science and Technology, 12巻2号	12/14	Effects of end plates on performance of a small straight-bladed vertical axis wind turbine
6	Energy and Buildings, Vol.158, pp.1417-1428	1/1	Effects of convection heat transfer on sunagoke moss green roof: A laboratory study

⑨やまぐちイノベーション創出推進拠点 (JST) の共同運営等の取組状況

	機器名	利用件数
1	フィールドエミッションオージェ電子顕微鏡	45件
2	レーザー干渉平面度測定装置	17件
3	干渉膜厚計	2件
4	X線CT装置	148件
	計	212件

⑩発表会への参加

Smart City Ube ・ Smart Livable Environment/Device for Health Service アイデア作品発表会 (2/2)

※国公設試：
技術支援の補完関係を構築、産業技術連絡会議、中国5県、九州山口、県内公設試等の全国・地方組織での取組。

■国公設試：技術支援の補完関係を構築、産業技術連絡会議、中国5県、九州山口、県内公設試等の全国・地方組織での取組状況

①技術相談で、外部機関を紹介した件数 52件

②産業技術連携推進会議等への職員の派遣状況

会議などの名称	開催年月日
平成 29 年度 地域イノベーションコーディネータ会議	5/15-16
3D3 プロジェクト平成 29 年度説明会兼第 1 回地域分科会	5/17
H29 年度第 1 回中国地域連携推進企画分科会	5/22
H29 年度産業技術連携推進会議製造プロセス部会第 24 回表面技術分科会	6/8-9
H29 年度産業技術連携推進会議製造プロセス部会第 4 回 DLC 技術研究会	6/9
H29 年度産業技術連携推進会議ライフサイエンス部会第 21 回デザイン分科会	6/15-16
産技連製造プロセス部会 3D ものづくり特別分科会	6/21-22
第 90 回公立鉦工業試験研究機関長協議会総会	7/6-7
平成 29 年度九州・沖縄地域部会第 5 回デザイン分科会	7/20-21
ダイバーシティに関する懇談会	8/8
第 7 回公設研・産総研連携推進企画会議	8/30-31
第 108 回全国公設試鉦工業試験研究機関事務連絡会議	9/7-8
産業技術連携推進会議ナノテクノロジー・材料部会セラミックス分科会第 64 回総会	9/21-22
平成 29 年度第 1 回炭素繊維複合材料加工技術研究会および炭素繊維複合材料利用研究会第 21 回講演会	9/25
全国公立鉦工業試験研究機関長協議会第 5 回知的財産に係る分科会	9/28-29
3D3 プロジェクト平成 29 年度第 2 回西分科会	10/3
平成 29 年度産業技術連携推進会議中国地域部会デザイン・木材利用分科会	10/11-12
情報通信・エレクトロニクス部会情報技術分科会、情報通信研究会	10/12-13
公立鉦工業試験研究機関長協議会海外展開支援分科会	10/25
産業技術連携推進会議知的基盤部会 EMC 研究会	10/26-27
第 8 回公設研・産総研連携推進企画会議	10/31-11/1
平成 29 年度全国食品技術研究会	11/1
情報通信・エレクトロニクス部会第 15 回組込み技術研究会	11/13-15
水産利用関係研究開発推進会議および品質安全研究会、資源利用研究会	11/14-16
素形材分科会	11/14-15
産業技術連絡会議ナノテクノロジー・材料部会第 55 回高分子分科会	11/16-17
平成 29 年度近畿中国四国農業試験研究推進会議作物生産推進部会食品流通問題別研究会	11/16-17
平成 29 年度産業技術連携推進会議製造プロセス部会第 8 回 3D ものづくり特別分科会	11/21-22

		②産業技術連携推進会議等への職員の派遣状況（つづき）																																												
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>会議などの名称</th> <th>開催年月日</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成 29 年度産業技術連携推進会議中国地域部会・四国地域部会合同環境・エネルギー技術分科会</td> <td>11/21-22</td> </tr> <tr> <td>平成 29 年度産業技術連携推進会議(産技連)地域部会 中国四国食品関係合同分科会およびナノセルロース研究会</td> <td>11/27-28</td> </tr> <tr> <td>平成 29 年度 東北・中国地域公設試機関長・所長会議</td> <td>11/27-28</td> </tr> <tr> <td>産業技術連携推進会議ナノテクノロジー・材料部会セラミックス分科会第 52 回セラミックス技術担当者会議</td> <td>11/30-12/1</td> </tr> <tr> <td>平成 29 年度産業技術連携推進会議知的基盤部会総会及び計測分科会(形状計測研究会)</td> <td>12/7-8</td> </tr> <tr> <td>平成 29 年度産業技術連携推進会議知的基盤部会総会及び光放射計測研究会</td> <td>12/7-8</td> </tr> <tr> <td>平成 29 年度産業技術連携推進会議知的基盤部会計測分科会(温度・熱研究会)</td> <td>12/7-8</td> </tr> <tr> <td>平成 29 年度中国・四国地方公設試験研究機関企画担当者会議</td> <td>12/13</td> </tr> <tr> <td>平成 29 年度産議連中国地域部会機械・金属技術分科会</td> <td>1/16</td> </tr> <tr> <td>平成 29 年度味覚評価研究会および産総研・産技連 LS-BT 合同発表会</td> <td>2/6-7</td> </tr> <tr> <td>中国地域産業技術連携推進会議及び中国地域部会中国地域連携推進企画分科会</td> <td>2/8-9</td> </tr> <tr> <td>産業技術連携推進会議 環境・エネルギー部会・分科会・研究会合同総会</td> <td>2/13-14</td> </tr> <tr> <td>第 3 回地方公設試験研究機関金属 AM 担当者会議</td> <td>2/13-14</td> </tr> <tr> <td>平成 29 年度 DLC 技術研究会活動「DLC 膜の摩擦摩耗ラウンドロビン試験」に関する検討会</td> <td>2/15-16</td> </tr> <tr> <td>3D3 プロジェクト平成 29 年度第 3 回西分科会</td> <td>2/16</td> </tr> <tr> <td>第 9 回公設研・産総研連携推進企画会議</td> <td>2/19-20</td> </tr> <tr> <td>全国食品関係試験研究場所長会・食品試験研究推進会議</td> <td>2/22</td> </tr> <tr> <td>産業技術連携推進会議総会</td> <td>3/2</td> </tr> <tr> <td>平成 29 年度中国四国地方公設試験研究機関共同研究(精密加工分野)推進協議会</td> <td>3/2</td> </tr> <tr> <td>平成 29 年度第 2 回炭素繊維複合材料加工技術研究会</td> <td>3/8</td> </tr> <tr> <td>3D3 プロジェクト 平成 29 年度第 2 回全体研究会</td> <td>3/9</td> </tr> </tbody> </table>	会議などの名称	開催年月日	平成 29 年度産業技術連携推進会議中国地域部会・四国地域部会合同環境・エネルギー技術分科会	11/21-22	平成 29 年度産業技術連携推進会議(産技連)地域部会 中国四国食品関係合同分科会およびナノセルロース研究会	11/27-28	平成 29 年度 東北・中国地域公設試機関長・所長会議	11/27-28	産業技術連携推進会議ナノテクノロジー・材料部会セラミックス分科会第 52 回セラミックス技術担当者会議	11/30-12/1	平成 29 年度産業技術連携推進会議知的基盤部会総会及び計測分科会(形状計測研究会)	12/7-8	平成 29 年度産業技術連携推進会議知的基盤部会総会及び光放射計測研究会	12/7-8	平成 29 年度産業技術連携推進会議知的基盤部会計測分科会(温度・熱研究会)	12/7-8	平成 29 年度中国・四国地方公設試験研究機関企画担当者会議	12/13	平成 29 年度産議連中国地域部会機械・金属技術分科会	1/16	平成 29 年度味覚評価研究会および産総研・産技連 LS-BT 合同発表会	2/6-7	中国地域産業技術連携推進会議及び中国地域部会中国地域連携推進企画分科会	2/8-9	産業技術連携推進会議 環境・エネルギー部会・分科会・研究会合同総会	2/13-14	第 3 回地方公設試験研究機関金属 AM 担当者会議	2/13-14	平成 29 年度 DLC 技術研究会活動「DLC 膜の摩擦摩耗ラウンドロビン試験」に関する検討会	2/15-16	3D3 プロジェクト平成 29 年度第 3 回西分科会	2/16	第 9 回公設研・産総研連携推進企画会議	2/19-20	全国食品関係試験研究場所長会・食品試験研究推進会議	2/22	産業技術連携推進会議総会	3/2	平成 29 年度中国四国地方公設試験研究機関共同研究(精密加工分野)推進協議会	3/2	平成 29 年度第 2 回炭素繊維複合材料加工技術研究会	3/8	3D3 プロジェクト 平成 29 年度第 2 回全体研究会	3/9
会議などの名称	開催年月日																																													
平成 29 年度産業技術連携推進会議中国地域部会・四国地域部会合同環境・エネルギー技術分科会	11/21-22																																													
平成 29 年度産業技術連携推進会議(産技連)地域部会 中国四国食品関係合同分科会およびナノセルロース研究会	11/27-28																																													
平成 29 年度 東北・中国地域公設試機関長・所長会議	11/27-28																																													
産業技術連携推進会議ナノテクノロジー・材料部会セラミックス分科会第 52 回セラミックス技術担当者会議	11/30-12/1																																													
平成 29 年度産業技術連携推進会議知的基盤部会総会及び計測分科会(形状計測研究会)	12/7-8																																													
平成 29 年度産業技術連携推進会議知的基盤部会総会及び光放射計測研究会	12/7-8																																													
平成 29 年度産業技術連携推進会議知的基盤部会計測分科会(温度・熱研究会)	12/7-8																																													
平成 29 年度中国・四国地方公設試験研究機関企画担当者会議	12/13																																													
平成 29 年度産議連中国地域部会機械・金属技術分科会	1/16																																													
平成 29 年度味覚評価研究会および産総研・産技連 LS-BT 合同発表会	2/6-7																																													
中国地域産業技術連携推進会議及び中国地域部会中国地域連携推進企画分科会	2/8-9																																													
産業技術連携推進会議 環境・エネルギー部会・分科会・研究会合同総会	2/13-14																																													
第 3 回地方公設試験研究機関金属 AM 担当者会議	2/13-14																																													
平成 29 年度 DLC 技術研究会活動「DLC 膜の摩擦摩耗ラウンドロビン試験」に関する検討会	2/15-16																																													
3D3 プロジェクト平成 29 年度第 3 回西分科会	2/16																																													
第 9 回公設研・産総研連携推進企画会議	2/19-20																																													
全国食品関係試験研究場所長会・食品試験研究推進会議	2/22																																													
産業技術連携推進会議総会	3/2																																													
平成 29 年度中国四国地方公設試験研究機関共同研究(精密加工分野)推進協議会	3/2																																													
平成 29 年度第 2 回炭素繊維複合材料加工技術研究会	3/8																																													
3D3 プロジェクト 平成 29 年度第 2 回全体研究会	3/9																																													
		③共同研究等																																												
		<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>テーマ等の名称</th> <th>グループ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>3D計測エボリューション (3D3プロジェクト) (産総研)</td> <td>加工技術</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>EMI測定用アンテナのアンテナ係数自己点検法の開発 (産総研)</td> <td>電子応用</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>炭素繊維複合材料の加工技術に関する研究(産総研)</td> <td>加工技術</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>酒粕の乾燥方法と回収物の成分及び機能性の検討(酒類総合研究所)</td> <td>食品技術</td> </tr> </tbody> </table>		テーマ等の名称	グループ	1	3D計測エボリューション (3D3プロジェクト) (産総研)	加工技術	2	EMI測定用アンテナのアンテナ係数自己点検法の開発 (産総研)	電子応用	3	炭素繊維複合材料の加工技術に関する研究(産総研)	加工技術	4	酒粕の乾燥方法と回収物の成分及び機能性の検討(酒類総合研究所)	食品技術																													
	テーマ等の名称	グループ																																												
1	3D計測エボリューション (3D3プロジェクト) (産総研)	加工技術																																												
2	EMI測定用アンテナのアンテナ係数自己点検法の開発 (産総研)	電子応用																																												
3	炭素繊維複合材料の加工技術に関する研究(産総研)	加工技術																																												
4	酒粕の乾燥方法と回収物の成分及び機能性の検討(酒類総合研究所)	食品技術																																												

	<p>※民間機関： 依頼試験・開放機器の補完関係の構築と定期的な見直し（民間試験機関等）。</p>	<p>④委員等就任</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>会議などの名称</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>公設試・産総研連携推進会議委員</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>中国地域質感色感研究会副委員長</td> <td>デザインG</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>3D計測エボリューション（3D3プロジェクト）委員会委員</td> <td>加工技術G</td> </tr> </tbody> </table> <p>⑤産業技術連携推進会議中国地域部会企画分科会の研究会</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>研究会テーマ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>炭素繊維複合材料加工技術研究会（広島県、山口県、鳥取県、中国センター）</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>味覚評価研究会（広島県、岡山県、鳥取県、島根県、山口県、中国センター）</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>感性・人間工学研究会（広島県、山口県、鳥取県、中国センター）</td> </tr> </tbody> </table> <p>■九州・山口知事会による公設試連携の取組状況</p> <p>①九州地域の企業からの技術相談等（依頼試験・開放機器・技術相談）対応</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>県名</th> <th>件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>福岡県</td> <td>223件</td> </tr> <tr> <td>佐賀県</td> <td>2件</td> </tr> <tr> <td>長崎県</td> <td>2件</td> </tr> <tr> <td>熊本県</td> <td>7件</td> </tr> <tr> <td>大分県</td> <td>9件</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>243件</td> </tr> </tbody> </table> <p>②研究会</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>研究会テーマ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>生産工程における三次元データの効果的活用法に関する研究●佐賀県、山口県、福岡県、長崎県、熊本県、大分県、鹿児島県、沖縄県）</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>EMC サイトにおける測定品質の向上と不確かさの算出（●宮崎県、山口県、福岡県、熊本県、鹿児島県）</td> </tr> </tbody> </table> <p>●:幹事県</p> <p>■民間機関：依頼試験・開放機器の補完関係を構築に関する状況（建材試験センター、民間試験機関等） 民間試験機関との補完関係を定期的に見直しながら、企業の相談に適切に対応している。現在29の民間試験機関と補完関係を築いている。</p>		会議などの名称	備考	1	公設試・産総研連携推進会議委員		2	中国地域質感色感研究会副委員長	デザインG	3	3D計測エボリューション（3D3プロジェクト）委員会委員	加工技術G		研究会テーマ	1	炭素繊維複合材料加工技術研究会（広島県、山口県、鳥取県、中国センター）	2	味覚評価研究会（広島県、岡山県、鳥取県、島根県、山口県、中国センター）	3	感性・人間工学研究会（広島県、山口県、鳥取県、中国センター）	県名	件数	福岡県	223件	佐賀県	2件	長崎県	2件	熊本県	7件	大分県	9件	計	243件		研究会テーマ	1	生産工程における三次元データの効果的活用法に関する研究●佐賀県、山口県、福岡県、長崎県、熊本県、大分県、鹿児島県、沖縄県）	2	EMC サイトにおける測定品質の向上と不確かさの算出（●宮崎県、山口県、福岡県、熊本県、鹿児島県）
	会議などの名称	備考																																								
1	公設試・産総研連携推進会議委員																																									
2	中国地域質感色感研究会副委員長	デザインG																																								
3	3D計測エボリューション（3D3プロジェクト）委員会委員	加工技術G																																								
	研究会テーマ																																									
1	炭素繊維複合材料加工技術研究会（広島県、山口県、鳥取県、中国センター）																																									
2	味覚評価研究会（広島県、岡山県、鳥取県、島根県、山口県、中国センター）																																									
3	感性・人間工学研究会（広島県、山口県、鳥取県、中国センター）																																									
県名	件数																																									
福岡県	223件																																									
佐賀県	2件																																									
長崎県	2件																																									
熊本県	7件																																									
大分県	9件																																									
計	243件																																									
	研究会テーマ																																									
1	生産工程における三次元データの効果的活用法に関する研究●佐賀県、山口県、福岡県、長崎県、熊本県、大分県、鹿児島県、沖縄県）																																									
2	EMC サイトにおける測定品質の向上と不確かさの算出（●宮崎県、山口県、福岡県、熊本県、鹿児島県）																																									

※金融機関：
 金融機関と帯同しての企業訪問を実施し、技術と経営の両面から企業のイノベーション支援。
 金融機関、山口大学、やまぐち産業振興財団、センターが連携した企業と大学等のシーズ・ニーズマッチングを推進する取組の実施。

※やまぐち産業振興財団：
 センターと企業支援の両輪として連携した取組。

■金融機関

(1)山口フィナンシャルグループ等との包括連携協定の実効性のある取組状況

①産学公金連携によるセミナーの共同開催等（再掲 p.33）

	セミナー名	日程	場所
1	「伝統技の活用と新事業活性化」セミナー	7/26	山口グランドホテル
2	「ロボット関連技術の最新動向と将来技術」セミナー	9/8	山口大学工学部
3	「製造業におけるIoT活用」セミナー	10/26	産業技術センター
4	「新事業展開への要素技術」セミナー	1/22	海峡メッセ下関

②山口銀行主催の戦略産業雇用創造プロジェクトのテーマ検討会に参加（4/11, 10/11, 10/18, 11/15）

③タイの TMB 銀行ジャパンデスク（山口フィナンシャルグループ社員駐在）の協力による企業視察（9/12-15）

(2)その他金融機関との取組

○金融機関等が主催する展示会への出展および技術相談対応

第10回山口県しんきん合同ビジネスフェア	5/17	海峡メッセ下関
----------------------	------	---------

■やまぐち産業振興財団

①やまぐち産業振興財団が主催する主な事業への協力

○各種委員等

主要な内容	備考
やまぐち産業振興財団理事会	理事(理事長)
やまぐち地域中小企業育成事業審査委員会	委員
中小企業等外国出願支援事業に係る審査委員会	委員
山口県プロフェッショナル人材戦略協議会	委員
設備貸与資金審査委員会	委員
中小企業活力アップ補助金審査委員会	委員

○知財相談窓口の設置（通年1回/週（産技センター2階））

○企業の技術検討会への職員の派遣

企業名	事業名	期間等
株式会社ニシエフ	H29 年度特定テーマ事業化支援助成金事業	6/8, 10/26(2回)
エコマス株式会社	H29 年度特定テーマ事業化支援助成金事業	11/9-10(1回)

	<p>※その他関連支援団体 標準化や海外展開支援等にかかる取組。</p>		<p>■その他機関との連携 (技能検定) ・平成 29 年度「前期」技能検定実技試験の技能検定委員（山口県職業能力開発協会）</p> <p>(海外展開支援) ・日本貿易機構（JETRO）、日本規格協会(JSA)、中小企業基盤整備機構などと連携（詳細は p.42）</p>
--	--	--	---

第 1 - 3 (2) 技術相談の充実

中期計画	H29 年度の年度計画	評定	H29 年度計画の達成状況等の具体的説明	評定の理由等																
<p>技術相談の充実</p> <p>これまで訪問実績のない企業を含め、県内企業への巡回訪問を積極的に実施するとともに、相談窓口機能（技術相談室、サテライト窓口、電子メール相談、巡回相談窓口等）の充実を図る。</p> <p>また、個々の企業から寄せられた技術相談の内容、対応結果などを整理し、職員間で情報共有を行い、県内企業が抱える様々な技術課題に対するセンター職員の対応力を強化する。</p>	<p>技術相談の一元化（技術相談室）や遠隔地対策（サテライト窓口、電子メール相談）、巡回企業訪問、巡回相談窓口等をレベルアップさせるとともに、グループウェアによる情報共有（企業・課題・対応）、技術相談室を中心とした相談対応の連携強化により、県内企業が抱える様々な技術課題に対するセンター職員の対応力を強化する。</p> <p>また、県内企業の海外展開への支援については、平成 28 年度に定めた基本方針に基づき関係機関と連携して取組を行う。</p>	<p>3</p>	<p>技術相談を一元化する技術相談室に、相談対応の専任者を引き続き配置し、迅速かつ的確な対応に努めている。また、グループウェアによる 1 回/週の技術相談・依頼試験・開放機器等の情報共有や技術相談室を中心とした複数グループの連携等により、県内企業が抱える多様な技術課題に対する対応力の強化に努めた。</p> <p>巡回相談窓口に関しては、各種イベント等の会場に研究員を派遣し、現地での技術相談に対応した。</p> <p>サテライト窓口では地場産センター職員に同行して積極的に企業訪問を実施した。</p> <p>また、H28 年度に定めた県内企業の海外展開支援に係る産技センターの基本方針に基づき、<u>JETRO 海外展開セミナー、標準化による海外展開支援のためのセミナーの開催【新】</u>や企業個別相談会への職員の派遣、<u>シンガポール及び台湾での本県出展企業への技術支援や市場調査【新】</u>などを行った。</p> <p>■技術相談室の体制（H29 年度）</p> <table border="1" data-bbox="1484 1071 1899 1249"> <tr> <td>室長</td> <td>1 名（専任）</td> </tr> <tr> <td>シニアスタッフ</td> <td>2 名（専任）</td> </tr> <tr> <td>非常勤嘱託</td> <td>4 名（専任）</td> </tr> <tr> <td>臨時職員</td> <td>2 名（専任）</td> </tr> </table> <p>■企業訪問状況</p> <p>①研究員による巡回企業訪問（県内）</p> <table border="1" data-bbox="1469 1407 1958 1501"> <tr> <td></td> <td>実績数</td> </tr> <tr> <td>巡回企業訪問</td> <td>134 企業</td> </tr> </table> <p>②研究員による新規企業訪問（県内）</p> <table border="1" data-bbox="1469 1596 1958 1690"> <tr> <td></td> <td>実績数</td> </tr> <tr> <td>新規企業訪問</td> <td>58 企業</td> </tr> </table>	室長	1 名（専任）	シニアスタッフ	2 名（専任）	非常勤嘱託	4 名（専任）	臨時職員	2 名（専任）		実績数	巡回企業訪問	134 企業		実績数	新規企業訪問	58 企業	<p>年度計画を概ね達成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・技術相談室の相談対応の専任者による迅速かつ的確な対応と、複数グループの連携による多様な技術課題に対する対応力の強化 ・海外展開のための標準化セミナーの開催【新】 ・シンガポール及び台湾での本県出展企業への技術支援や市場調査【新】
室長	1 名（専任）																			
シニアスタッフ	2 名（専任）																			
非常勤嘱託	4 名（専任）																			
臨時職員	2 名（専任）																			
	実績数																			
巡回企業訪問	134 企業																			
	実績数																			
新規企業訪問	58 企業																			

■企業の技術検討会への職員の派遣（再掲p.38）

企業名	事業名	期間等
株式会社ニシエフ	H29 年度特定テーマ事業化支援助成金事業（やまぐち産業振興財団）	6/8, 10/26(2回)
エコマス株式会社	H29 年度特定テーマ事業化支援助成金事業（やまぐち産業振興財団）	11/9-10(1回)

■巡回相談窓口に関する取組

イベント等の名称	場所	内容	日程
第 10 回山口県しんきん合同ビジネスフェア	海峡メッセ下関	技術支援成果内容紹介及び技術相談対応	5/17
やまぐち 6 次産業化・農商工連携推進大会交流会	山口グランドホテル	技術支援成果内容紹介及び技術相談対応	10/16
やまぐち総合ビジネスメッセ 2017	キリンビバレッジ周南総合スポーツセンター	技術支援成果内容紹介及び技術相談対応	10/28
山口食 2 プロジェクト	山口グランドホテル	技術支援成果内容紹介及び技術相談対応	11/13

■サテライト窓口の取組状況

①相談対応件数 108件

相談状況	件数	対応状況	件数
訪問	84件	情報提供	1件
来所	18件	産技Cへ相談	9件
電話	5件	開放機器対応	4件
FAX	0件	依頼試験対応	1件
電子メール	1件	外部機関紹介	1件
その他	0件	その他	92件
合計	108件	合計	108件

②サテライト窓口のPR活動

1	サテライト窓口のPRを含む施設利用案内を窓口に配置
2	しんきん合同ビジネスフェア2017ブース出展PR
3	やまぐち総合ビジネスメッセ2017ブース出展PR
4	山口県産業技術センターパンフレットを山口県東部地域企業・団体へ配布
5	徳山駅新幹線口展示ケースに山口県産業技術センター紹介コーナー設置
6	地場産センター職員に同行して企業訪問の実施

		<p>■海外展開支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JETRO 海外展開セミナー（中国経済の概況と日系企業の動向）に参加した（5/24）。 ・標準化活用支援パートナーシップに係る中国地区パートナー機関向け標準化研修会の個別相談会におけるコーディネートをを行った（5/26）。 ・県内企業の標準化支援として職員を派遣した（6/9）。 ・タイの TMB 銀行ジャパンデスク（山口フィナンシャルグループ社員駐在）の協力により企業視察、情報交換会を行い、合わせて中小機構主催のタイ経済セミナーに参加した（9/12-15）。 ・標準化セミナー（支援機関向け）を、職員を対象に開催した（10名程度）（10/4）【新】。 ・当センター企画の海外市場等調査（2件）【新】。 <table border="1" data-bbox="1501 688 2742 915"> <tr> <td data-bbox="1501 688 1730 825">シンガポール</td> <td data-bbox="1730 688 1893 825">10/24-27</td> <td data-bbox="1893 688 2742 825"> <ul style="list-style-type: none"> ・ Food Japan 2017（シンガポール）における本県出展企業への技術支援 ・シンガポールにおけるデザイン市場調査 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="1501 825 1730 915">台湾</td> <td data-bbox="1730 825 1893 915">12/13-16</td> <td data-bbox="1893 825 2742 915"> <ul style="list-style-type: none"> ・台北ビルディングショー出展企業の支援 ・台湾における竹資源活用に関する調査 </td> </tr> </table>	シンガポール	10/24-27	<ul style="list-style-type: none"> ・ Food Japan 2017（シンガポール）における本県出展企業への技術支援 ・シンガポールにおけるデザイン市場調査 	台湾	12/13-16	<ul style="list-style-type: none"> ・台北ビルディングショー出展企業の支援 ・台湾における竹資源活用に関する調査
シンガポール	10/24-27	<ul style="list-style-type: none"> ・ Food Japan 2017（シンガポール）における本県出展企業への技術支援 ・シンガポールにおけるデザイン市場調査 						
台湾	12/13-16	<ul style="list-style-type: none"> ・台北ビルディングショー出展企業の支援 ・台湾における竹資源活用に関する調査 						

第 1 - 3 (3) 新たな技術課題の掘り起こし

中期計画	H29 年度の年度計画	評定	H29 年度計画の達成状況等の具体的説明	評定の理由等																					
農商工連携等の取組支援 県内企業のものづくり技術を地域資源に有効に活用する観点（技術の地産地消）から、2次産業にとどまらず、1次産業や3次産業の技術課題を掘り起こす取組を強化し、地域資源とものづくり技術とのマッチングや農商工連携・6次産業化による課題解決の取組を支援する。	農商工連携等の取組支援 1次産業（農業・漁業）や3次産業（サービス業）の技術課題を掘り起こし、農林総合技術センターや水産研究センター等の県内公設試からの課題抽出を行い、ものづくり企業や関係機関と連携して、共同研究や、競争的資金の獲得支援等、課題解決に向けた取組を行う。	4	<p>農業・漁業分野については、農商工連携や6次産業化を目指し、県内企業、農業・漁業従事者、農林総合技術センター、水産研究センター等から課題抽出を行い、産技センターの13テーマの研究開発に反映させ、2件の事業化を達成した。また、大学及び県内企業と共に取り組む国等の提案公募型研究開発事業に新たに1テーマが採択【新】された。</p> <p>サービス分野については、医療、デザイン、廃棄物処理などの関連企業や団体との連携を深めて課題の掘り起こしを行い、ものづくり企業の製品開発に繋げる取組を続けている。医療関連の課題の掘り起こしからの製品開発によって4件の事業化を達成した。JAXAや山口大学と連携して衛星リモートセンシングデータを情報産業に展開するための取組に積極的に取り組み、大学及び企業等の国等の提案公募型研究開発事業への申請を支援し、1テーマが採択【新】された（再掲p.25）。</p> <p>また、農商工連携や廃棄物 3R に関する会議の出席や、審査会への協力などを行うとともに、県の事業を活用し、ものづくり企業や関係機関と連携してセミナーや展示会の開催など交流やマッチングのための取組を実施した。</p> <p>(1)農業・漁業 ■6次産業化・農商工連携に係る研究開発の推進</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 80%;">研究テーマ</th> <th style="width: 20%;">担当グループ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>特徴的な香味を活かした山口県産和紅茶の開発</td> <td rowspan="6">食品技術</td> </tr> <tr> <td>天然素材を活用したうま味調味料無添加の基礎調味料の開発</td> </tr> <tr> <td>醸造用水中の無機元素が発酵経過に与える影響に関する研究</td> </tr> <tr> <td>清酒製造工程における汚染微生物生育抑制技術</td> </tr> <tr> <td>酒粕の乾燥方法と回収物の成分及び機能性の検討</td> </tr> <tr> <td>和食ブームを支えるワサビの施設化による超促成・高付加価値生産技術の実証</td> </tr> <tr> <td>「山田錦」レベルの優れた醸造適性を有する酒米新品種と革新的栽培・醸造技術による日本酒輸出倍増戦略</td> <td></td> </tr> <tr> <td>オリゴトロフ藻類を用いた水産加工排水資源化技術の開発</td> <td>材料技術・環境技術</td> </tr> <tr> <td>高度不飽和脂肪酸を含む油脂の精製方法の開発</td> <td>材料技術</td> </tr> <tr> <td>品質目利き技術の画像解析アルゴリズムの開発</td> <td>電子応用</td> </tr> <tr> <td>育苗時の補光によるカンゾウの成分含量増加技術の開発</td> <td rowspan="3">設計制御</td> </tr> <tr> <td>LED等光技術を応用した漁業支援技術の開発（施策灯具の実証試験）</td> </tr> <tr> <td>低コスト・大ロットに対応した収穫後果実着色装置の開発</td> </tr> </tbody> </table>	研究テーマ	担当グループ	特徴的な香味を活かした山口県産和紅茶の開発	食品技術	天然素材を活用したうま味調味料無添加の基礎調味料の開発	醸造用水中の無機元素が発酵経過に与える影響に関する研究	清酒製造工程における汚染微生物生育抑制技術	酒粕の乾燥方法と回収物の成分及び機能性の検討	和食ブームを支えるワサビの施設化による超促成・高付加価値生産技術の実証	「山田錦」レベルの優れた醸造適性を有する酒米新品種と革新的栽培・醸造技術による日本酒輸出倍増戦略		オリゴトロフ藻類を用いた水産加工排水資源化技術の開発	材料技術・環境技術	高度不飽和脂肪酸を含む油脂の精製方法の開発	材料技術	品質目利き技術の画像解析アルゴリズムの開発	電子応用	育苗時の補光によるカンゾウの成分含量増加技術の開発	設計制御	LED等光技術を応用した漁業支援技術の開発（施策灯具の実証試験）	低コスト・大ロットに対応した収穫後果実着色装置の開発	<p>年度計画を十分達成</p> <p>○農業・漁業分野については、県内事業者や公設試等から課題抽出を行い13テーマの研究開発に反映させ、2件の事業化と、国等の提案公募型研究に1テーマが採択</p> <p>○サービス分野については、医療関連の課題の掘り起こしから4件の事業化、衛星データの情報産業への展開で国等の提案公募型研究に1テーマが採択</p>
研究テーマ	担当グループ																								
特徴的な香味を活かした山口県産和紅茶の開発	食品技術																								
天然素材を活用したうま味調味料無添加の基礎調味料の開発																									
醸造用水中の無機元素が発酵経過に与える影響に関する研究																									
清酒製造工程における汚染微生物生育抑制技術																									
酒粕の乾燥方法と回収物の成分及び機能性の検討																									
和食ブームを支えるワサビの施設化による超促成・高付加価値生産技術の実証																									
「山田錦」レベルの優れた醸造適性を有する酒米新品種と革新的栽培・醸造技術による日本酒輸出倍増戦略																									
オリゴトロフ藻類を用いた水産加工排水資源化技術の開発	材料技術・環境技術																								
高度不飽和脂肪酸を含む油脂の精製方法の開発	材料技術																								
品質目利き技術の画像解析アルゴリズムの開発	電子応用																								
育苗時の補光によるカンゾウの成分含量増加技術の開発	設計制御																								
LED等光技術を応用した漁業支援技術の開発（施策灯具の実証試験）																									
低コスト・大ロットに対応した収穫後果実着色装置の開発																									

■6次産業化・農商工連携に係る企業との共同研究・受託研究（研究テーマは非公開）（再掲 p.21）

※大学・研究機関等は除く

共同研究	0 テーマ
受託研究	5 テーマ

■国の提案公募型研究開発事業の採択状況（再掲p.13-15）

事業名	研究課題	関係機関
研究成果展開事業 （地域産学バリュープログラム）	オリゴトロフ藻類を用いた水産加工排水資源化技術の開発【新】	山口大学 フジミツ株式会社
革新的技術開発・緊急展開事業	和食ブームを支えるワサビの施設化による超促成・高付加価値生産技術の実証	農林総合技術センター
革新的技術開発・緊急展開事業	「山田錦」レベルの優れた適性を有する酒米新品種と革新的栽培・醸造技術の活用による日本酒輸出倍増戦略	兵庫県立農林水産技術総合センター
革新的技術開発・緊急展開事業	国産果実の供給期間拡大を目指した鮮度保持・栽培技術の開発	農業・食品産業技術総合研究機構
革新的技術開発・緊急展開事業	下関の「ふく」の差別化と輸出拡大のための IT 利用「めきき」技術の開発	水産研究センター

■6次産業化・農商工連携関連での事業化（製品化）：2件（再掲p.30）

1	「やまぐち山廃酵母」の開発と清酒の商品化	研究開発
2	パン用酵母「海の天然酵母」の分離	技術支援

(2)サービス業

■医療関連での事業化（商品化）：4件（再掲p.12, p.30）

1	眼球運動検査装置“yVOG（ワイボーグ）-Glass”の開発	技術支援※
2	再生医療に貢献するインテリジェント恒温キャリーBOX	技術支援※
3	めまい診療用眼球運動検査装置（yVOG）に係る頭位角度情報解析機能（頭位センサープログラム）	技術支援※
4	遺伝子検査用チップ（DNAチップ）の自動検査装置（研究用）	技術支援※

※ 医療関連の課題掘り起こし（イノベーション推進センター）による製品開発

■その他サービス業に係る取組支援等

○衛星データ解析技術研究会活動関係（詳細は p.25 参照）

■サービス業に係る企業との共同研究・受託研究（研究テーマは非公開）（再掲 p.21）

※大学・研究機関等は除く

共同研究	1 テーマ
受託研究	0 テーマ

(3)第1・3次産業関連機関との連携

■6次産業化・農商工連携に係る会議などの出席（主なもの）（再掲p.32）

やまぐち 6 次産業化・農商工連携推進協議会	6/5, 3/19
やまぐち 6 次産業化・農商工連携推進事業審査会	6/12
H29 年度山口県試験研究機関技術交流協議会第 1 回幹事会	7/14
「知」の集積と活用場 養鶏産業 ICT 研究開発プラットフォームへの参加	-

■6次産業化・農商工連携に係る講演会・展示会等への参加（主なもの）

やまぐち 6 次産業化・農商工連携人材育成研修公開講座	12/5
やまぐち 6 次産業化・農商工連携推進大会交流会	10/16

■サービス業関連職員派遣等（主なもの）

中国地域質感色感研究会の副委員長への就任	(公財)ちゅうごく産業創造センター
下関市立大学鯨資料室開設 10 周年記念シンポジウムへの講師派遣	下関市立大学
「IoT における設備監視システムの開発および AI の組み込み技術に関する検討会」への研究員の派遣	エコマス㈱

■廃棄物3Rに関する会議等の出席（主なもの）（再掲p.32）

廃棄物 3R 事業化検討業務	H29 年度
山口県廃棄物 3R 等推進事業補金審査会	7/11
H29 年度山口県リサイクル製品利用促進連絡会議	3/20
電気自動車中古バッテリーリユース実証試験プロジェクト	H29年度

第 1 - 3 (4) 先端的試験研究機器の整備等による技術支援サービスの充実

中期計画	H29 年度の年度計画	評価	H29 年度計画の達成状況等の具体的説明	評価の理由等																							
<p>技術支援サービスの充実</p> <p>県内企業のニーズを踏まえた計画的な先端的試験研究機器整備に努めるとともに、専門知識を有する人材を活用した機器操作補助員の拡充により技術支援機能を強化し、以下の技術支援サービスの充実を図る。</p> <p>また、技術支援業務のサービス内容やニーズ適合性についてアンケート調査による検証を行い、その結果を技術支援サービスの充実にフィードバックする。</p>	<p>技術支援サービスの充実</p> <p>県内企業のニーズを踏まえた計画的な先端的試験研究機器整備に加え、研究開発の高度化、迅速化に資する機器整備の充実に努めることで、以下の技術支援サービスの充実を図る。</p> <p>また、技術支援業務のサービス内容やニーズ適合性についてアンケート調査や業務内容の分析等による検証を行い、その結果を技術支援サービスの充実にフィードバックする。</p>	4	<p>企業に対する機器ニーズ調査を実施し、機器導入計画に反映させるとともに、翌年度の機器整備事業（JKA補助）に該当する機器について当該事業に申請した。また、<u>前年度調査結果等に基づき上記事業に申請した機器に加えて企業ニーズを反映した5機器を導入した</u>。更に、試験研究や技術支援サービスの向上に必要な機器の有無等について検討し、<u>追加で18機器について新規・更新・増設による整備を行い、より一層の充実に努めた</u>。また、試験研究機器の寿命の長期化を図り、センターの支援機能低下を防ぐため、<u>修繕の対象機器を調査・検討し、3機器について修繕を行った</u>。</p> <p>技術支援の地域差対策として、前年度に引き続き、機器活用事例のパネルを5機器について新たに作成・掲示するとともに、H28年度に引き続き、県内で企業数の多い食品関連企業に着目し、その利用促進に向けて、課題把握・解決のための具体的な相談事例を掲載したパンフレット（水産加工業者向け）の作成・配布（139社）や食品関連技術についてのセミナー・個別相談を3回行うなど食品関連企業利用促進対策を実施した。</p> <p>技術支援アンケートでは、<u>技術支援サービス等の満足度が96%以上</u>であった。また、H29年度から技術支援サービスを企業が受ける目的を分析するためのデータ収集を本格的に実施した。</p> <p>■企業への機器ニーズ調査の実施状況</p> <table border="1"> <tr> <td>アンケート配布総数</td> <td>802件</td> </tr> <tr> <td>回答総数</td> <td>229件</td> </tr> <tr> <td>回収率</td> <td>28.9%</td> </tr> </table> <p>■H29年度に導入された機器</p> <p>①企業ニーズを反映した機器の整備(5機器)</p> <table border="1"> <tr> <td>1</td> <td>低真空走査電子顕微鏡</td> <td>更新</td> <td rowspan="2">JKA補助</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>引張圧縮試験機</td> <td>更新</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>小型レーザー加工機</td> <td>新規</td> <td rowspan="3">自主財源</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>燃焼式窒素分析装置</td> <td>新規</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>真空凍結食品乾燥機</td> <td>更新</td> </tr> </table>	アンケート配布総数	802件	回答総数	229件	回収率	28.9%	1	低真空走査電子顕微鏡	更新	JKA補助	2	引張圧縮試験機	更新	3	小型レーザー加工機	新規	自主財源	4	燃焼式窒素分析装置	新規	5	真空凍結食品乾燥機	更新	<p>年度計画を十分達成</p> <ul style="list-style-type: none"> ○企業のニーズを反映した機器整備（5 機器） ○技術支援サービス向上に必要な機器整備（新規・更新・増設：18 機器） ○機器寿命の長期化のための修繕（3 機器） ・機器活用事例パネルの作成・掲示：5 機器 ・食品関連企業利用促進対策（水産加工業者向け）の実施 ○技術支援サービス等の満足度が 96%以上
アンケート配布総数	802件																										
回答総数	229件																										
回収率	28.9%																										
1	低真空走査電子顕微鏡	更新	JKA補助																								
2	引張圧縮試験機	更新																									
3	小型レーザー加工機	新規	自主財源																								
4	燃焼式窒素分析装置	新規																									
5	真空凍結食品乾燥機	更新																									

②試験研究や技術支援サービスの向上に必要な機器の整備(18 機器)

1	アルカリ水電解用電解セル	新規
2	水封式真空ポンプ	新規
3	直流化電源	増設
4	フォートランコンパイラ(インテル Visual Fortran)	更新
5	金属積層造形用予熱システム	増設
6	金属積層造形シミュレーションソフトウェア	新規
7	金属積層造形シミュレーション用パソコン	新規
8	電磁式ふるい振とう機	増設
9	セラミックフィルター濾過試験機	新規
10	粉体計量用ドラフト	新規
11	画像解析ソフトウェア	新規
12	画像解析パソコン	新規
13	デシケーター	増設
14	定温乾燥機	増設
15	分析用精密天秤	増設
16	分析用精密天秤	増設
17	分析用電子天秤	増設
18	卓上遠心機	新規

③機器寿命の長期化を図った機器 (3機器)

1	スパッタリング装置	修繕
2	冷間等方加圧試験機	修繕
3	三次元グラフィックスコンピュータ	修繕

※新規・増設・更新・修繕の定義

新規：新たな機器の導入

更新：既存機器の更新

増設：既存機器に新たな機器等を付加

修繕：故障中（一部故障を含む）の機器を従前と同じ機能で使用可能な状態に戻すもの

■食品関連パンフレット（水産加工品業者向け）

県内水産加工品業者139社に郵送配布。

■食品関連技術セミナー・個別相談

開催地	場所	開催日	人数
やまぐち6次産業化・農商工連携推進大会交流会	山口グランドホテル	10/16	270名
山口食2プロジェクト	山口グランドホテル	11/13	15名
やまぐち6次産業化・農商工連携人材育成研修(研究現場における加工の実際)	産技センター	12/5	11名

■技術支援アンケートの実施状況

項目	H26	H27	H28	H29
アンケート配布総数	109件	107件	96件	166件
回答総数	103件	103件	96件	152件
回収率	94%	96%	100%	92%
電話や窓口対応の満足度*1	98%	94%	94%	96%
事務手続き等の満足度*1	95%	93%	99%	98%
技術支援サービスの満足度*1	95%	96%	94%	96%

*1 満足度：満足・どちらかという満足

■開放機器の利用促進を目的とした機器利用研修会の開催状況

研修テーマ	開催日
低真空走査電子顕微鏡	3/5-6

■企業情報の活用促進

(株)東京商工リサーチの企業情報により、支援している関係企業の経営状況の把握等により適切な技術支援を行っている。

■技術支援サービスを企業が受ける目的の分析

技術相談に関しては、製品の品質評価と新製品の開発が同程度で、併せて約45%を占め、トラブル対策、その他情報収集・相談、技術情報収集、基礎研究、製造工程の管理がそれぞれ10%前後を占める。

開放機器に関しては、新製品の開発と製品の品質評価が共に約30%、基礎研究が約20%を占める。

依頼試験に関しては、製品の品質評価が80%近くを占める。

(利用目的の分類)

①基礎研究、②新製品の開発、③製品の品質評価、④トラブル対策(クレーム処理)、⑤製造工程の管理、⑥技術情報の収集(①～⑤に分類できない技術的な問い合わせ)、⑦その他の情報収集・相談(補助金情報、企業紹介等の技術的な相談以外、技術課題の無い企業訪問)、⑧製品の製造に関する作業、⑨人材育成、⑩その他()

<p>ア 開放機器</p> <p>新規導入機器の速やかな開放や時間外開放などによる利便性の向上に努めるとともに、計画的な機器の保守・校正を継続的に行うことで開放機器の信頼性を確保する。</p>	<p>ア 開放機器</p> <p>新規導入機器の速やかな開放や時間外開放、使用料減免等による利便性の向上に努めるとともに、計画的な機器の保守・校正を継続的に行うことで開放機器の信頼性を確保する。</p>	<p>3</p>	<p>新規導入機器については、研究目的以外の多くの機器を開放し、既存の機器については、計画的な機器の保守・校正を継続的に行うことで開放機器の信頼性を確保した。</p> <p>H28年度に運用を開始した中国地域5県の企業の使用料を県内と同一料金とする制度の利用は、86件（41件（H28））であった。</p> <p>また、開放機器一覧2017を作成し、利用企業に配布した。</p> <p>利用件数は昨年度から減少し、平成26年度と同規模であった。技術革新計画を承認された企業に対して開放機器の使用料金の減免措置を講じる制度の利用企業は、1社であった（再掲p.27）。</p> <p>■開放機器利用実績推移（独法化以降）</p> <table border="1" data-bbox="1466 932 2733 1121"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="5">第1期</th> <th colspan="4">第2期</th> </tr> <tr> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>利用件数(件)</td> <td>2,526</td> <td>2,584</td> <td>2,791</td> <td>2,825</td> <td>3,129</td> <td>3,078</td> <td>3,565</td> <td>3,430</td> <td>3,066</td> </tr> <tr> <td>利用金額(千円)</td> <td>12,535</td> <td>14,316</td> <td>16,198</td> <td>16,296</td> <td>16,933</td> <td>20,629</td> <td>20,078</td> <td>20,482</td> <td>17,904</td> </tr> </tbody> </table>		第1期					第2期				H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	利用件数(件)	2,526	2,584	2,791	2,825	3,129	3,078	3,565	3,430	3,066	利用金額(千円)	12,535	14,316	16,198	16,296	16,933	20,629	20,078	20,482	17,904	<p>年度計画を概ね達成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画的な機器の保守・校正を継続的に行い、開放機器の信頼性を確保 ・中国地域5県の企業の使用料を県内と同一料金とする制度の利用：86件（41件（H28）） ・開放機器一覧の継続的な配布（～2017） ・利用件数は昨年度から減少し平成26年度と同規模
	第1期					第2期																																					
	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29																																		
利用件数(件)	2,526	2,584	2,791	2,825	3,129	3,078	3,565	3,430	3,066																																		
利用金額(千円)	12,535	14,316	16,198	16,296	16,933	20,629	20,078	20,482	17,904																																		
<p>イ 依頼試験</p> <p>試験方法の見直しや機器の保守、校正を継続的に行うことで、試験結果の公正性を確保するとともに、試験項目になくても企業が望む試験に対してはオーダーメイド試験により、柔軟な対応を行う。</p>	<p>イ 依頼試験</p> <p>試験方法の見直しや機器の保守、校正を継続的に行うことで、試験結果の公正性を確保するとともに、試験項目になくても企業が望む試験に対してはオーダーメイド試験により、柔軟な対応を行う。</p>	<p>4</p>	<p>試験方法の見直しや機器の保守、校正を継続的に行うことで、試験結果の公正性を確保するとともに、試験項目になくても企業が望む試験に対してはオーダーメイド試験により、試験内容の充実と柔軟な対応を行った。その結果、オーダーメイド試験の利用金額が昨年度と同水準であったことに加え、それ以外の試験の利用件数が増加したことにより、<u>利用金額が過去最高となった。</u></p> <p>■依頼試験、オーダーメイド試験の利用件数</p> <table border="1" data-bbox="1466 1604 2353 1747"> <thead> <tr> <th></th> <th>依頼試験総数</th> <th>左のうちオーダーメイド試験</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>利用件数</td> <td>643件</td> <td>147件(22.9%)</td> </tr> <tr> <td>利用金額</td> <td>14,176千円</td> <td>8,237千円(58.1%)</td> </tr> </tbody> </table>		依頼試験総数	左のうちオーダーメイド試験	利用件数	643件	147件(22.9%)	利用金額	14,176千円	8,237千円(58.1%)	<p>年度計画を十分達成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・試験方法の見直しや機器の保守、校正を継続的に行い、試験結果の公正性を確保と、オーダーメイド試験による柔軟な対応 ○利用件数の増加により利用料金が過去最高 																														
	依頼試験総数	左のうちオーダーメイド試験																																									
利用件数	643件	147件(22.9%)																																									
利用金額	14,176千円	8,237千円(58.1%)																																									

		■ 依頼試験実績推移（独法化以降） <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="5">第1期</th> <th colspan="4">第2期</th> </tr> <tr> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>利用件数(件)</td> <td>625</td> <td>609</td> <td>673</td> <td>639</td> <td>728</td> <td>621</td> <td>558</td> <td>577</td> <td>643</td> </tr> <tr> <td>利用金額(千円)</td> <td>5,362</td> <td>8,059</td> <td>7,201</td> <td>9,303</td> <td>9,773</td> <td>8,840</td> <td>10,688</td> <td>13,446</td> <td>14,176</td> </tr> <tr> <td>内O.M.*利用件数(件)</td> <td>36</td> <td>64</td> <td>102</td> <td>115</td> <td>137</td> <td>125</td> <td>122</td> <td>170</td> <td>147</td> </tr> <tr> <td>(%)</td> <td>5.8</td> <td>10.5</td> <td>15.2</td> <td>18.0</td> <td>18.8</td> <td>20.1</td> <td>21.9</td> <td>29.5</td> <td>22.9</td> </tr> <tr> <td>内O.M.*利用金額(千円)</td> <td>479</td> <td>2,432</td> <td>2,859</td> <td>4,014</td> <td>3,348</td> <td>3,164</td> <td>5,777</td> <td>8,780</td> <td>8,237</td> </tr> <tr> <td>(%)</td> <td>8.9</td> <td>30.2</td> <td>39.7</td> <td>43.1</td> <td>34.3</td> <td>35.8</td> <td>54.1</td> <td>65.3</td> <td>58.1</td> </tr> </tbody> </table> <p>* O.M.: オーダーメイド</p>				第1期					第2期				H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	利用件数(件)	625	609	673	639	728	621	558	577	643	利用金額(千円)	5,362	8,059	7,201	9,303	9,773	8,840	10,688	13,446	14,176	内O.M.*利用件数(件)	36	64	102	115	137	125	122	170	147	(%)	5.8	10.5	15.2	18.0	18.8	20.1	21.9	29.5	22.9	内O.M.*利用金額(千円)	479	2,432	2,859	4,014	3,348	3,164	5,777	8,780	8,237	(%)	8.9	30.2	39.7	43.1	34.3	35.8	54.1	65.3	58.1
	第1期					第2期																																																																													
	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29																																																																										
利用件数(件)	625	609	673	639	728	621	558	577	643																																																																										
利用金額(千円)	5,362	8,059	7,201	9,303	9,773	8,840	10,688	13,446	14,176																																																																										
内O.M.*利用件数(件)	36	64	102	115	137	125	122	170	147																																																																										
(%)	5.8	10.5	15.2	18.0	18.8	20.1	21.9	29.5	22.9																																																																										
内O.M.*利用金額(千円)	479	2,432	2,859	4,014	3,348	3,164	5,777	8,780	8,237																																																																										
(%)	8.9	30.2	39.7	43.1	34.3	35.8	54.1	65.3	58.1																																																																										
ウ 受託研究・共同研究	ウ 受託研究・共同研究	3	<p>企業ニーズに即応し、迅速に研究が着手できるように努めるとともに、開始時期や研究期間についても柔軟な対応を行う。</p> <p>企業ニーズに即応し、受託研究・共同研究の受入を行い、開始時期や研究期間についても柔軟に対応した。</p> <p>■ 受託研究・共同研究の実績と複数年度にまたがる受入状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>受入件数</th> <th>うち、複数年度にまたがるもの</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>共同研究</td> <td>9 件</td> <td>3 件</td> </tr> <tr> <td>受託研究</td> <td>11 件</td> <td>0 件</td> </tr> </tbody> </table>		受入件数	うち、複数年度にまたがるもの	共同研究	9 件	3 件	受託研究	11 件	0 件	<p>年度計画を概ね達成</p> <ul style="list-style-type: none"> 企業からの共同研究（9件）・受託研究（11件）を実施 開始時期、研究期間の柔軟な対応（共同研究3テーマ） 																																																																						
	受入件数	うち、複数年度にまたがるもの																																																																																	
共同研究	9 件	3 件																																																																																	
受託研究	11 件	0 件																																																																																	
エ 技術者研修	エ 技術者研修	3	<p>企業の要望に即応して企業の技術者を受け入れる所内研修や職員を企業に派遣する所外研修等を行った。また、技術動向や課題解決手法等に関するセミナーを開催した。</p> <p>■ 技術者受入れ所内研修の実施状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>人数</th> <th>受入期間</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>技術者受入研修</td> <td>2 名</td> <td>5/22-6/30, 6/9-12/22</td> </tr> <tr> <td>スポット研修(2週間以内)</td> <td>7 名</td> <td>4/24-26, 8/9-28, 11/6-8, 1/15-31, 3/26-4/2</td> </tr> <tr> <td>学生研修生</td> <td>2 名</td> <td>4/3-3/31, 6/1-3/31</td> </tr> <tr> <td>インターンシップ研修生</td> <td>5 名</td> <td>7/24-8/25(1名), 8/21-8/25(3名), 8/28-9/26(1名)</td> </tr> <tr> <td>海外研修生</td> <td>1 名</td> <td>7/19-1/31</td> </tr> </tbody> </table> <p>■ 企業に派遣する所外研修の実施状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>研修テーマ</th> <th>派遣職員数</th> <th>派遣期間</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>表面処理技術の習得</td> <td>2 名</td> <td>12 日(12時間)</td> </tr> <tr> <td>表面処理技術の習得と環境対策</td> <td>2 名</td> <td>14 日(14 時間)</td> </tr> </tbody> </table>		人数	受入期間	技術者受入研修	2 名	5/22-6/30, 6/9-12/22	スポット研修(2週間以内)	7 名	4/24-26, 8/9-28, 11/6-8, 1/15-31, 3/26-4/2	学生研修生	2 名	4/3-3/31, 6/1-3/31	インターンシップ研修生	5 名	7/24-8/25(1名), 8/21-8/25(3名), 8/28-9/26(1名)	海外研修生	1 名	7/19-1/31	研修テーマ	派遣職員数	派遣期間	表面処理技術の習得	2 名	12 日(12時間)	表面処理技術の習得と環境対策	2 名	14 日(14 時間)	<p>年度計画を概ね達成</p> <ul style="list-style-type: none"> 職員派遣研修2件（派遣職員数2名） 技術者受入研修17名 																																																				
	人数	受入期間																																																																																	
技術者受入研修	2 名	5/22-6/30, 6/9-12/22																																																																																	
スポット研修(2週間以内)	7 名	4/24-26, 8/9-28, 11/6-8, 1/15-31, 3/26-4/2																																																																																	
学生研修生	2 名	4/3-3/31, 6/1-3/31																																																																																	
インターンシップ研修生	5 名	7/24-8/25(1名), 8/21-8/25(3名), 8/28-9/26(1名)																																																																																	
海外研修生	1 名	7/19-1/31																																																																																	
研修テーマ	派遣職員数	派遣期間																																																																																	
表面処理技術の習得	2 名	12 日(12時間)																																																																																	
表面処理技術の習得と環境対策	2 名	14 日(14 時間)																																																																																	

			<p>■技術動向や課題解決手法等に関するセミナーの開催状況</p> <table border="1" data-bbox="1463 281 2736 737"> <thead> <tr> <th>セミナー名</th> <th>開催日</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>国際ミニシンポジウム(光触媒)</td> <td>9/6</td> </tr> <tr> <td>介護・福祉機器開発セミナー</td> <td>9/14</td> </tr> <tr> <td>医工連携の推進に向けたシーズ発表会</td> <td>9/26</td> </tr> <tr> <td>介護・福祉機器開発セミナー</td> <td>11/6</td> </tr> <tr> <td>水素関連技術マッチングセミナー</td> <td>11/7</td> </tr> <tr> <td>医療現場からのニーズ・シーズ発表会</td> <td>3/1</td> </tr> <tr> <td>低真空走査電子顕微鏡</td> <td>3/5-6</td> </tr> <tr> <td>※やまぐちブランド技術研究会、新エネルギー研究会、3Dものづくり研究会、衛星データ解析技術研究会、次世代エネルギー研究会</td> <td>再掲 p.11, p. 23-25</td> </tr> </tbody> </table>		セミナー名	開催日	国際ミニシンポジウム(光触媒)	9/6	介護・福祉機器開発セミナー	9/14	医工連携の推進に向けたシーズ発表会	9/26	介護・福祉機器開発セミナー	11/6	水素関連技術マッチングセミナー	11/7	医療現場からのニーズ・シーズ発表会	3/1	低真空走査電子顕微鏡	3/5-6	※やまぐちブランド技術研究会、新エネルギー研究会、3Dものづくり研究会、衛星データ解析技術研究会、次世代エネルギー研究会	再掲 p.11, p. 23-25
セミナー名	開催日																					
国際ミニシンポジウム(光触媒)	9/6																					
介護・福祉機器開発セミナー	9/14																					
医工連携の推進に向けたシーズ発表会	9/26																					
介護・福祉機器開発セミナー	11/6																					
水素関連技術マッチングセミナー	11/7																					
医療現場からのニーズ・シーズ発表会	3/1																					
低真空走査電子顕微鏡	3/5-6																					
※やまぐちブランド技術研究会、新エネルギー研究会、3Dものづくり研究会、衛星データ解析技術研究会、次世代エネルギー研究会	再掲 p.11, p. 23-25																					
<p>オ 新事業創造支援センターの効果的活用</p> <p>新事業創造支援センターを、県内企業や新規立地企業の技術開発による新事業展開を促進する場として効果的に活用する。</p>	<p>オ 新事業創造支援センターの効果的活用</p> <p>入居メリット（機器利用料の減免措置）や入居要件の緩和（大企業やセンターの支援制度（開放機器、依頼試験、受託研究、共同研究）又は知的財産権を利用する中小企業等のスポット利用）をPRすることにより利用促進を図る。</p>	<p>3</p>	<p>入居企業に対する開放機器使用料金の減免措置制度及び1企業最大2室までの使用許諾を継続的に実施した。</p> <p>技術革新計画の知事承認企業に対する月額使用料金の減免措置の制度の利用企業は1社であった（再掲p.27）。</p> <p>また、新事業創造支援センターの利用促進を図るために、パンフレット等を活用してPRに努め、平成30年4月からの入居1社が決定した。</p> <p>■支援センターの入居状況（全12室）</p> <table border="1" data-bbox="1454 1262 2285 1360"> <thead> <tr> <th></th> <th>H29年度末時点</th> <th>減免措置制度利用</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入居企業数（室数）</td> <td>4社（5室）</td> <td>うち1社</td> </tr> </tbody> </table>		H29年度末時点	減免措置制度利用	入居企業数（室数）	4社（5室）	うち1社	<p>年度計画を概ね達成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用促進を図るために、パンフレット等を活用してPR（平成30年4月からの入居1社が決定） ・技術革新計画承認企業に対する減免措置制度の運用 <p>※ 制度利用：1社</p>												
	H29年度末時点	減免措置制度利用																				
入居企業数（室数）	4社（5室）	うち1社																				

第1-3(5) 数値目標

中期計画	H29年度の年度計画	評価	H29年度計画の達成状況等の具体的説明	評価の理由等																
ア 技術相談件数 中期計画期間中の5年間合計 16,500件	ア 技術相談件数 年間 3,300件	4	ア 技術相談件数 3,868件	年度計画を十分達成 達成度 117%																
イ 訪問企業数 中期計画期間中の5年間合計 1,150社	イ 訪問企業数 年間 230社	5	イ 訪問企業数 564社 (うちイノベーション推進センターによる企業訪問数 255社)	年度計画を十二分に達成 達成度 245%																
ウ 開放機器・依頼試験の利用件数 中期計画期間中の5年間合計 15,200件	ウ 開放機器・依頼試験の利用件数 年間 3,040件	5	ウ 開放機器・依頼試験の利用件数 3,709件 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H29年度実績</th> <th>項目別見込み値</th> <th>達成度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>開放機器利用件数</td> <td>3,066件</td> <td>2,400件</td> <td>128%</td> </tr> <tr> <td>依頼試験利用件数</td> <td>643件</td> <td>640件</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>3,709件</td> <td>3,040件</td> <td>122%</td> </tr> </tbody> </table>		H29年度実績	項目別見込み値	達成度	開放機器利用件数	3,066件	2,400件	128%	依頼試験利用件数	643件	640件	100%	計	3,709件	3,040件	122%	年度計画を十二分に達成 達成度 122%
	H29年度実績	項目別見込み値	達成度																	
開放機器利用件数	3,066件	2,400件	128%																	
依頼試験利用件数	643件	640件	100%																	
計	3,709件	3,040件	122%																	

大項目	第 2 業務運営の改善及び効率化に関する事項
中項目	1 運営体制や経営資源配分の継続的見直し

中期目標	<p><業務運営の改善及び効率化に関する目標></p> <p>業務運営の更なる効率化に資するため、引き続き理事長のトップマネジメントのもと、運営体制や経営資源の配分について継続的に見直しを行う。</p> <p>また、企業ニーズや社会経済情勢の変化に的確に対応するため、職員の職能開発を計画的に実施するとともに、開かれた法人運営を一層進めることができるよう、法人のサービス業務の「見える化」を図る。</p> <p>さらに、コンプライアンスの確保や情報管理を徹底するとともに、危機管理対策の充実を図る。</p>
------	---

第 2 - 1 運営体制や経営資源配分の継続的見直し

中期計画	H29 年度の年度計画	評価	H29 年度計画の達成状況等の具体的説明	評価の理由等
運営体制や経営資源配分の継続的見直し	運営体制や経営資源配分の継続的見直し	3	<p>主要な役職者等からなる経営委員会と、それに企業支援委員会を合体させた合同会議を、理事長が定期的に招集・開催して、経営面や企業支援サービス面の重要事項の審議を行った。</p> <p>また、全体会議を 3 回、若年者と役員との座談会を 3 グループに分けて計 9 回開催した。</p> <p><u>H29 年度から経営企画グループを経営企画室に改組し、部室横断的な取組を効率的・効果的に処理できる連携体制を構築した【新】。</u>また、産技センター定年退職者の豊富な知識や経験を活用するため、H28 年度に創設した再任用制度に基づき、H29 年度には定年退職者 3 名をシニアスタッフとして再任用し、技術相談室及び経営企画室に配置した。</p> <p>業務の改善については、契約手続きに係る書類の簡素化や小口現金の取扱いを可能とするなどを行った。</p> <p>■経営委員会 開催回数 41 回</p> <p>■合同会議（経営委員会＋企業支援委員会） 開催回数 1 回</p> <p>■全体会議 3 回 ・全体会議(7/19、10/18、3/14)</p> <p>■若年者と役員の座談会 9 回 (A グループ) 7/27、12/13、3/13 (B グループ) 6/22、10/23、1/30 (C グループ) 9/14、12/15、2/27</p>	<p>年度計画を概ね達成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経営委員会、合同会議及び全体会議の定期的開催による迅速な意志決定 ・経営企画室の設置【新】 ・定年退職者の豊富な知識や経験を活用するため、再任用制度により 3 名のシニアスタッフを配置

大項目	第 2 業務運営の改善及び効率化に関する事項
中項目	2 職員の職能開発の計画的実施

第 2 - 2 職員の職能開発の計画的実施

中期計画	H29 年度の年度計画	評価	H29 年度計画の達成状況等の具体的説明	評価の理由等																																																																				
職員の職能開発の計画的実施	職員の職能開発の計画的実施	3	<p>職員（研究員及び事務職員）の能力開発研修を体系的に整理【新】するとともに、研修計画を策定し、計画に基づき外部機関での研修への派遣や所内研修の開催を積極的に実施した。</p> <p>また、<u>弁理士を交えた技術グループ毎の知財勉強会【新】</u>（再掲 p.22）や、研究者行動規範に関する研修として、農林総合技術センターが主催する平成 29 年度研究倫理研修に職員 2 名（内、1 名は新採）を派遣した。</p> <p>①中小企業大学校等による研修への職員派遣</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>研修テーマ</th> <th>派遣人数</th> <th>派遣期間</th> <th>派遣先</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>公設試験研究機関研究職員研修(座学)</td> <td>1名</td> <td>1/9-1/12</td> <td>中小企業大学校東京校</td> </tr> <tr> <td>公設試験研究期間研究職員研修(現場実習)</td> <td>1名</td> <td>1/15-1/19</td> <td>中小企業大学校東京校</td> </tr> </tbody> </table> <p>②ひとりづくり財団等の研修（能力開発研修等）への職員派遣</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>研修テーマ</th> <th>派遣人数</th> <th>派遣日</th> <th>派遣先</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>新規採用職員課程(前期)研修</td> <td>1名</td> <td>4/17~21</td> <td>山口県セミナーパーク</td> </tr> <tr> <td>主任主事級課程研修</td> <td>2名</td> <td>5/29-30</td> <td>山口県セミナーパーク</td> </tr> <tr> <td>財務諸表の見方講座</td> <td>2名</td> <td>6/2</td> <td>山口県セミナーパーク</td> </tr> <tr> <td>災害対応セミナー</td> <td>1名</td> <td>6/5</td> <td>山口県セミナーパーク</td> </tr> <tr> <td>ファシリテーション講座</td> <td>1名</td> <td>6/13-14</td> <td>山口県セミナーパーク</td> </tr> <tr> <td>ライフプランセミナー</td> <td>1名</td> <td>7/11</td> <td>山口県セミナーパーク</td> </tr> <tr> <td>主任級課程研修</td> <td>3名</td> <td>7/24-25, 7/31-8/1</td> <td>山口県セミナーパーク</td> </tr> <tr> <td>成功するミーティング・折衝スキル講座</td> <td>1名</td> <td>7/26</td> <td>山口県セミナーパーク</td> </tr> <tr> <td>企画・発想力向上講座</td> <td>1名</td> <td>8/28</td> <td>山口県セミナーパーク</td> </tr> <tr> <td>主事級課程研修</td> <td>1名</td> <td>9/4-6</td> <td>山口県セミナーパーク</td> </tr> <tr> <td>伝わる文章カトレーニング講座</td> <td>1名</td> <td>10/11</td> <td>山口県セミナーパーク</td> </tr> <tr> <td>新規採用職員課程(後期)研修</td> <td>1名</td> <td>10/16-20</td> <td>山口県セミナーパーク</td> </tr> <tr> <td>アサーティブ・コミュニケーション講座</td> <td>1名</td> <td>1/16</td> <td>山口県セミナーパーク</td> </tr> </tbody> </table>	研修テーマ	派遣人数	派遣期間	派遣先	公設試験研究機関研究職員研修(座学)	1名	1/9-1/12	中小企業大学校東京校	公設試験研究期間研究職員研修(現場実習)	1名	1/15-1/19	中小企業大学校東京校	研修テーマ	派遣人数	派遣日	派遣先	新規採用職員課程(前期)研修	1名	4/17~21	山口県セミナーパーク	主任主事級課程研修	2名	5/29-30	山口県セミナーパーク	財務諸表の見方講座	2名	6/2	山口県セミナーパーク	災害対応セミナー	1名	6/5	山口県セミナーパーク	ファシリテーション講座	1名	6/13-14	山口県セミナーパーク	ライフプランセミナー	1名	7/11	山口県セミナーパーク	主任級課程研修	3名	7/24-25, 7/31-8/1	山口県セミナーパーク	成功するミーティング・折衝スキル講座	1名	7/26	山口県セミナーパーク	企画・発想力向上講座	1名	8/28	山口県セミナーパーク	主事級課程研修	1名	9/4-6	山口県セミナーパーク	伝わる文章カトレーニング講座	1名	10/11	山口県セミナーパーク	新規採用職員課程(後期)研修	1名	10/16-20	山口県セミナーパーク	アサーティブ・コミュニケーション講座	1名	1/16	山口県セミナーパーク	<p>年度計画を概ね達成</p> <ul style="list-style-type: none"> 職員（研究員及び事務職員）の能力開発研修を体系的に整理【新】 研修計画に基づき、外部機関への研修派遣や外部講師を活用した所内研修を実施
研修テーマ	派遣人数	派遣期間	派遣先																																																																					
公設試験研究機関研究職員研修(座学)	1名	1/9-1/12	中小企業大学校東京校																																																																					
公設試験研究期間研究職員研修(現場実習)	1名	1/15-1/19	中小企業大学校東京校																																																																					
研修テーマ	派遣人数	派遣日	派遣先																																																																					
新規採用職員課程(前期)研修	1名	4/17~21	山口県セミナーパーク																																																																					
主任主事級課程研修	2名	5/29-30	山口県セミナーパーク																																																																					
財務諸表の見方講座	2名	6/2	山口県セミナーパーク																																																																					
災害対応セミナー	1名	6/5	山口県セミナーパーク																																																																					
ファシリテーション講座	1名	6/13-14	山口県セミナーパーク																																																																					
ライフプランセミナー	1名	7/11	山口県セミナーパーク																																																																					
主任級課程研修	3名	7/24-25, 7/31-8/1	山口県セミナーパーク																																																																					
成功するミーティング・折衝スキル講座	1名	7/26	山口県セミナーパーク																																																																					
企画・発想力向上講座	1名	8/28	山口県セミナーパーク																																																																					
主事級課程研修	1名	9/4-6	山口県セミナーパーク																																																																					
伝わる文章カトレーニング講座	1名	10/11	山口県セミナーパーク																																																																					
新規採用職員課程(後期)研修	1名	10/16-20	山口県セミナーパーク																																																																					
アサーティブ・コミュニケーション講座	1名	1/16	山口県セミナーパーク																																																																					

②ひとづくり財団等の研修（能力開発研修等）への職員派遣（つづき）

研修テーマ	派遣人数	派遣日	派遣先
平成 29 年度新任会計職員研修会	1 名	5/29	山口県庁(会計課)
契約事務担当者研修会	1 名	6/5	山口県庁(会計課)
物品会計事務職員研修会	1 名	6/14	山口県庁(物品管理課)
会計職員研修会(会計審査事務)	2 名	7/11-12	山口県庁(会計課)
新規採用職員研修(新産業振興課、やまぐち産業振興財団)	1 名	8/3	山口県(新産業振興課)、やまぐち産業振興財団
ボイラー取扱技能講習	1 名	8/22-23	ゆ〜あいプラザ山口県社会福祉会館
先進公設試での施設見学及び情報交換	2 名	8/29-30	(地独)青森県産業技術センター
事務系職員研修	2 名	9/1	山口県庁(新産業振興課)
新規採用職員研修(県内企業)	6 名	9/11	(株)ヤナギヤ
ハラスメント相談担当研修	1 名	9/28	(一般社団法人)鐵鋼会館
パワーハラスメント対策専門家養成研修	1 名	11/30-12/1	TKP カンファレンスシティ博多
ハラスメント研修	1 名	2/22-23	TKP ガーデンシティ PREMIUM 広島駅前

③外部機関での技術研修

研修テーマ	派遣人数	派遣日	派遣先
蛍光X線定期講習会(走査型コース)の参加	1 名	5/9-12	株式会社リガク
SAR 基礎講座	1 名	6/27-29	一般財団法人リモート・センシング技術センター
SAR インターフェロメトリ講座	1 名	7/12-14	一般財団法人リモート・センシング技術センター
無機材料分析評価セミナー	1 名	7/11-13	地方独立行政法人大阪産業技術研究所森ノ宮センター
機械振動の測定と周波数分析の基礎技術	1 名	7/12-13	電子会館ビル
「コンクリートの検査」に関するセミナー	1 名	8/2	一般財団法人建材試験センター西日本試験所
走査電子顕微鏡定期講習会(EDS 分析標準コース)	1 名	8/23-26	日本電子株式会社 昭島製作所
技術セミナー3 カビ形態観察スキルアップコース	1 名	9/5-6	株式会社テクノスルガ・ラボ
清酒官能評価セミナー	1 名	9/5	独立行政法人酒類総合研究所
X 線回折スクール(粉末 X 線回折定期講習会)	1 名	9/11-13	株式会社リガク 大阪工場
擬似電源回路網等の校正方法の検証	1 名	9/11	日本品質保証機構 関西試験センター

③外部機関での技術研修（つづき）

研修テーマ	派遣人数	派遣日	派遣先
機械学会中国四国支部第127回講習会 「基礎から学ぶ有限要素法」	1名	9/25	山口大学工学部
第873回キャピラリガスクロマトグラフィー 入門講習会	1名	9/27-29	(株)島津テクノロジー 試験解 析事業部 AMC部
第16回基礎教育セミナー(鉄鋼材料)	1名	10/23-24	ウェル戸畑、福岡県工業技術セ ンター機械電子研究所
低真空SEM講習会	1名	10/24-25	日本電子株式会社昭島製作所
2017年度食品衛生検査セミナー	1名	10/25	大阪国際交流センター
SAR画像判読	1名	11/8-9	一般財団法人リモート・センシ ング技術センター
X線「特別の教育」講習会	1名	11/22	株式会社島津製作所広島支店
「実習付き」金属破断面の基礎と事例紹介	1名	1/23-24	連合会館 402号室
SARポラリメトリ	1名	3/1-2	一般財団法人リモート・センシ ング技術センター

④所内研修（新採職員研修、所内事務システム研修等）

新規採用職員については、採用後速やかに所内事務システム等に関する説明会を開催するとともに年間を通じて産技センターの業務について研修を行った。

⑤中四国公設試合同研修会への職員派遣

研修テーマ	派遣人数	派遣期間	派遣先
中国四国地域公設試験研究機関研究者合同研修会	2名	1/22-23	香川県

⑥外部講師を招聘した職員研修

研修テーマ	参加人数	実施日	講師
ハラスメント防止研修	75名(参加率100%)	6/8, 6/26, 6/28	宇佐美理世（うさみ 務経営事務所）
財務システム研修	4名	7/4	(株)ニッセイコム

⑦学協会等への発表及び特許等出願

内容	件数
誌上発表	8件
口頭発表	33件
特許等出願	9件

大項目	第 2 業務運営の改善及び効率化に関する事項
中項目	3 法人サービス業務の「見える化」の推進

第 2 - 3 法人サービス業務の「見える化」の推進

中期計画	H29 年度の年度計画	評価	H29 年度計画の達成状況等の具体的説明	評価の理由等										
見える化の推進	見える化の推進	3	<p>センターが中期計画の達成に向けて取り組む研究開発や技術支援、産学公連携等の業務全体について、県内企業に分かり易く示すことができるよう第 2 期「技術戦略」を策定し広く周知する。</p> <p>また、サービス内容を紹介するパンフレットや成果事例集の発刊、成果発表会の開催、ホームページへの掲載等を適時適切に行えるよう、その内容・方法について継続的に見直しを行う。</p> <p>策定した第 2 期「技術戦略」の冊子を活用して、県民に分かり易い情報発信を心がけるとともに、ホームページの機能強化、パンフレットの発刊や成果事例集の発刊と充実、成果発表会の開催、県内・県外イベント等での PR 活動、施設見学の誘致等を行う。</p> <p>センターが中期計画の達成に向けて取り組む研究開発や技術支援、産学公連携等の業務全体について、県内企業に分かり易く示すことができるよう第 2 期「技術戦略」(ロードマップ)(H26策定)の冊子を県内企業に配布した。</p> <p>県内企業で事業化・商品化が行われた事例については、定期的に成果事例集に加え、速やかにホームページに掲載し、周知した。</p> <p>研究成果の普及を目的として、巡回技術報告会や技術発表会を前年度に継続して実施した(再掲 p.20)。</p> <p>また、県内外のイベントに出展して、センターの研究開発・技術支援の取組を PR した。</p> <p>前年度に引き続き、依頼試験・開放機器の見える化を図るため、機器活用事例を作成し、ホームページに公開するとともにパネル化して機器設置場所に掲示した(再掲 p.46)。</p> <p>県内で企業数の多い食品関連企業に着目し、その利用促進に向けて、課題把握・解決のための具体的な相談事例を掲載したパンフレット(水産加工業者向け)の作成・配布(再掲 p.46)を行った。</p> <p>■刊行物の発行状況(再掲p.21)</p> <table border="1"> <tr> <td>センターパンフレット</td> <td>2,000部</td> </tr> <tr> <td>業務報告書</td> <td>600部</td> </tr> <tr> <td>研究報告書</td> <td>600部</td> </tr> <tr> <td>開放機器一覧2016</td> <td>1,000部</td> </tr> <tr> <td>技術戦略—第2期—</td> <td>500部</td> </tr> </table>	センターパンフレット	2,000部	業務報告書	600部	研究報告書	600部	開放機器一覧2016	1,000部	技術戦略—第2期—	500部	<p>年度計画を概ね達成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・刊行物(5 種類)を発行し、ホームページへの掲載や発表会・展示会等を通じて広く配布 ・機器活用事例パネルの作成・掲示：5 機器 ・食品関連企業利用促進対策(水産加工業者向け)の実施
センターパンフレット	2,000部													
業務報告書	600部													
研究報告書	600部													
開放機器一覧2016	1,000部													
技術戦略—第2期—	500部													

		<p>■食品関連パンフレット（水産加工業者向け）（再掲p.46） 県内水産加工業者 139 社に配布。</p> <p>■広告等掲載</p> <table border="1" data-bbox="1466 390 2261 527"> <tr> <td>機関誌「やまぐちの労働」広告掲載</td> <td>広告掲載</td> </tr> <tr> <td>日刊工業新聞 理事長インタビュー</td> <td>取組記事掲載</td> </tr> <tr> <td>日刊工業新聞 広告掲載</td> <td>広告掲載</td> </tr> </table> <p>■巡回技術報告会、技術発表会の実施状況（再掲p.20）</p> <table border="1" data-bbox="1466 596 2418 800"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>開催日</th> <th>参加者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>やまぐち事業化支援・連携コーディネート会議 「シーズ・ニーズ発表展示」</td> <td>9/26</td> <td>78名</td> </tr> <tr> <td>巡回技術報告会（山口商工会議所常議委員会）</td> <td>2/5</td> <td>35名</td> </tr> <tr> <td>技術発表会</td> <td>3/16</td> <td>104名</td> </tr> </tbody> </table> <p>■県内・県外イベント等での PR 活動状況</p> <p>①県内</p> <table border="1" data-bbox="1466 913 2736 1713"> <thead> <tr> <th>展示会等の名称</th> <th>場所</th> <th>展示内容</th> <th>日程</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第 10 回山口県しんきん合同 ビジネスフェア</td> <td>海峡メッセ下関</td> <td>・技術支援成果内容 ・技術相談対応</td> <td>5/17</td> </tr> <tr> <td>やまぐち総合ビジネスメッセ 2017</td> <td>キリンビバレッジ周南 総合スポーツセンター</td> <td>・技術支援成果内容 ・技術相談対応</td> <td>10/28</td> </tr> <tr> <td>県立博物館「アリスと大冒険 3D ふしぎ博物館」</td> <td>山口県立山口博物館</td> <td>・3D プリンターによる造形 物展示（例 重要文化 財（金銅鰐口）） ・小学校教育用プログラム 学習ロボット教室の共同 実施</td> <td>7/14-8/27</td> </tr> <tr> <td>やまぐち 6 次産業化・農商 工連携推進大会交流会</td> <td>山口グランドホテル</td> <td>・食品関連開放機器等パ ネル等</td> <td>10/16</td> </tr> <tr> <td>第 15 回長府企業フェスタ</td> <td>下関競艇場</td> <td>・パネルによる山口県産業 技術センターの紹介 ・小学生以下を対象とした ものづくり体験コーナー</td> <td>10/7-8</td> </tr> <tr> <td>周南ゆめ物語かがくスクウェ ア</td> <td>ザ・モール周南 星プラ ザ</td> <td>・受託研究の成果物及び パネルの展示</td> <td>12/10</td> </tr> </tbody> </table>	機関誌「やまぐちの労働」広告掲載	広告掲載	日刊工業新聞 理事長インタビュー	取組記事掲載	日刊工業新聞 広告掲載	広告掲載	名称	開催日	参加者数	やまぐち事業化支援・連携コーディネート会議 「シーズ・ニーズ発表展示」	9/26	78名	巡回技術報告会（山口商工会議所常議委員会）	2/5	35名	技術発表会	3/16	104名	展示会等の名称	場所	展示内容	日程	第 10 回山口県しんきん合同 ビジネスフェア	海峡メッセ下関	・技術支援成果内容 ・技術相談対応	5/17	やまぐち総合ビジネスメッセ 2017	キリンビバレッジ周南 総合スポーツセンター	・技術支援成果内容 ・技術相談対応	10/28	県立博物館「アリスと大冒険 3D ふしぎ博物館」	山口県立山口博物館	・3D プリンターによる造形 物展示（例 重要文化 財（金銅鰐口）） ・小学校教育用プログラム 学習ロボット教室の共同 実施	7/14-8/27	やまぐち 6 次産業化・農商 工連携推進大会交流会	山口グランドホテル	・食品関連開放機器等パ ネル等	10/16	第 15 回長府企業フェスタ	下関競艇場	・パネルによる山口県産業 技術センターの紹介 ・小学生以下を対象とした ものづくり体験コーナー	10/7-8	周南ゆめ物語かがくスクウェ ア	ザ・モール周南 星プラ ザ	・受託研究の成果物及び パネルの展示	12/10
機関誌「やまぐちの労働」広告掲載	広告掲載																																															
日刊工業新聞 理事長インタビュー	取組記事掲載																																															
日刊工業新聞 広告掲載	広告掲載																																															
名称	開催日	参加者数																																														
やまぐち事業化支援・連携コーディネート会議 「シーズ・ニーズ発表展示」	9/26	78名																																														
巡回技術報告会（山口商工会議所常議委員会）	2/5	35名																																														
技術発表会	3/16	104名																																														
展示会等の名称	場所	展示内容	日程																																													
第 10 回山口県しんきん合同 ビジネスフェア	海峡メッセ下関	・技術支援成果内容 ・技術相談対応	5/17																																													
やまぐち総合ビジネスメッセ 2017	キリンビバレッジ周南 総合スポーツセンター	・技術支援成果内容 ・技術相談対応	10/28																																													
県立博物館「アリスと大冒険 3D ふしぎ博物館」	山口県立山口博物館	・3D プリンターによる造形 物展示（例 重要文化 財（金銅鰐口）） ・小学校教育用プログラム 学習ロボット教室の共同 実施	7/14-8/27																																													
やまぐち 6 次産業化・農商 工連携推進大会交流会	山口グランドホテル	・食品関連開放機器等パ ネル等	10/16																																													
第 15 回長府企業フェスタ	下関競艇場	・パネルによる山口県産業 技術センターの紹介 ・小学生以下を対象とした ものづくり体験コーナー	10/7-8																																													
周南ゆめ物語かがくスクウェ ア	ザ・モール周南 星プラ ザ	・受託研究の成果物及び パネルの展示	12/10																																													

		<p>②県外</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>展示会等の名称</th> <th>場所</th> <th>展示内容</th> <th>日程</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>イノベーション・ジャパン 2017</td> <td>東京ビッグサイト</td> <td>医療機器開発に関する成果展示</td> <td>8/31-9/1</td> </tr> <tr> <td>アグリビジネスフェア 2017</td> <td>東京ビッグサイト</td> <td>研究成果の発表及び出展</td> <td>10/3-5</td> </tr> <tr> <td>HOSPEx Japan 2017</td> <td>東京ビッグサイト</td> <td>企業等の研究開発成果や実用化に向けた試作品等の出展支援(医療関連)</td> <td>11/20-22</td> </tr> <tr> <td>医療機器メーカー向け展示・商談会 in 本郷</td> <td>医科器械会館</td> <td>ものづくり中小企業・小規模事業者連携支援事業におけるコンソーシアム構成企業 26 社のうち 20 社が出展・商談を実施</td> <td>12/21</td> </tr> <tr> <td>FC EXPO 2018</td> <td>東京ビッグサイト</td> <td>・山口県の取組 ・企業等の研究開発成果や実用化に向けた試作品等の出展(水素関連) ※山口県ブース(県・財団・産技 C)</td> <td>2/28-3/2</td> </tr> </tbody> </table> <p>■科学技術教室など、一般を対象とした法人の地域貢献活動</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>名称及び内容</th> <th>日程</th> <th>場所</th> <th>参加者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>夏休みジュニア科学教室「小型家電(都市鉱山)からの金属の回収とそれを生かした金属製品の作製」</td> <td>8/24</td> <td>産業技術センター</td> <td>18名</td> </tr> <tr> <td>県立博物館「アリスと大冒険 3D ふしぎ博物館」(再掲) ・再生医療 3D プリンターの紹介と培養した血管サンプル展示 ・ゴムライク 3D プリンターによる臓器モデルの展示 ・金属 3D プリンターによる重要文化財(金銅鰐口)の展示 ・小学校教育用プログラム学習ロボット教室の共同実施</td> <td>7/14-8/27</td> <td>山口県立山口博物館</td> <td>37,910名</td> </tr> <tr> <td>JAXA 移転記念イベント「JAXA が宇部にやってきました!」</td> <td>9/9</td> <td>産技センター</td> <td>73名</td> </tr> <tr> <td>第 15 回長府企業フェスタ ・パネルによる山口県産業技術センターの紹介 ・小学生以下を対象としたものづくり体験コーナー</td> <td>10/7-8</td> <td>下関競艇場</td> <td>約 100 名/日</td> </tr> </tbody> </table>	展示会等の名称	場所	展示内容	日程	イノベーション・ジャパン 2017	東京ビッグサイト	医療機器開発に関する成果展示	8/31-9/1	アグリビジネスフェア 2017	東京ビッグサイト	研究成果の発表及び出展	10/3-5	HOSPEx Japan 2017	東京ビッグサイト	企業等の研究開発成果や実用化に向けた試作品等の出展支援(医療関連)	11/20-22	医療機器メーカー向け展示・商談会 in 本郷	医科器械会館	ものづくり中小企業・小規模事業者連携支援事業におけるコンソーシアム構成企業 26 社のうち 20 社が出展・商談を実施	12/21	FC EXPO 2018	東京ビッグサイト	・山口県の取組 ・企業等の研究開発成果や実用化に向けた試作品等の出展(水素関連) ※山口県ブース(県・財団・産技 C)	2/28-3/2	名称及び内容	日程	場所	参加者数	夏休みジュニア科学教室「小型家電(都市鉱山)からの金属の回収とそれを生かした金属製品の作製」	8/24	産業技術センター	18名	県立博物館「アリスと大冒険 3D ふしぎ博物館」(再掲) ・再生医療 3D プリンターの紹介と培養した血管サンプル展示 ・ゴムライク 3D プリンターによる臓器モデルの展示 ・金属 3D プリンターによる重要文化財(金銅鰐口)の展示 ・小学校教育用プログラム学習ロボット教室の共同実施	7/14-8/27	山口県立山口博物館	37,910名	JAXA 移転記念イベント「JAXA が宇部にやってきました!」	9/9	産技センター	73名	第 15 回長府企業フェスタ ・パネルによる山口県産業技術センターの紹介 ・小学生以下を対象としたものづくり体験コーナー	10/7-8	下関競艇場	約 100 名/日
展示会等の名称	場所	展示内容	日程																																											
イノベーション・ジャパン 2017	東京ビッグサイト	医療機器開発に関する成果展示	8/31-9/1																																											
アグリビジネスフェア 2017	東京ビッグサイト	研究成果の発表及び出展	10/3-5																																											
HOSPEx Japan 2017	東京ビッグサイト	企業等の研究開発成果や実用化に向けた試作品等の出展支援(医療関連)	11/20-22																																											
医療機器メーカー向け展示・商談会 in 本郷	医科器械会館	ものづくり中小企業・小規模事業者連携支援事業におけるコンソーシアム構成企業 26 社のうち 20 社が出展・商談を実施	12/21																																											
FC EXPO 2018	東京ビッグサイト	・山口県の取組 ・企業等の研究開発成果や実用化に向けた試作品等の出展(水素関連) ※山口県ブース(県・財団・産技 C)	2/28-3/2																																											
名称及び内容	日程	場所	参加者数																																											
夏休みジュニア科学教室「小型家電(都市鉱山)からの金属の回収とそれを生かした金属製品の作製」	8/24	産業技術センター	18名																																											
県立博物館「アリスと大冒険 3D ふしぎ博物館」(再掲) ・再生医療 3D プリンターの紹介と培養した血管サンプル展示 ・ゴムライク 3D プリンターによる臓器モデルの展示 ・金属 3D プリンターによる重要文化財(金銅鰐口)の展示 ・小学校教育用プログラム学習ロボット教室の共同実施	7/14-8/27	山口県立山口博物館	37,910名																																											
JAXA 移転記念イベント「JAXA が宇部にやってきました!」	9/9	産技センター	73名																																											
第 15 回長府企業フェスタ ・パネルによる山口県産業技術センターの紹介 ・小学生以下を対象としたものづくり体験コーナー	10/7-8	下関競艇場	約 100 名/日																																											

大項目	第 2 業務運営の改善及び効率化に関する事項
中項目	4 コンプライアンスの確保

第 2 - 4 コンプライアンスの確保

中期計画	H29 年度の年度計画	評価	H29 年度計画の達成状況等の具体的説明	評価の理由等
職員教育の継続的实施 労働安全衛生法等の法令遵守や、職員倫理の確保に資する仕組みを適切に運用するとともに、コンプライアンスの確保を徹底するための職員教育を継続的に実施する。	職員教育の継続的实施 労働安全衛生法等の法規制や職員倫理に関する職員教育に適宜外部講師を活用する等して、実効性ある研修を行い、職員のコンプライアンス意識の向上を図る。	3	<p><u>地独法改正に伴う業務方法書の改訂、それに伴う規程類の整備【新】</u>を行うとともに、<u>文部科学省が示す「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」</u>及び「<u>研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン（実施基準）</u>」への対応に係る規程類の整備【新】を行った。</p> <p>また、労働安全衛生に関する取組を見直し、<u>安全衛生委員会への改組【新】</u>や法令に基づく管理者・主任者等についてそれぞれの業務を精査するとともに、<u>化学物質取扱規程を改訂し、化学物質のリスクアセスメントを実施した【新】</u>。</p> <p>さらに、研究倫理やハラスメント防止についても、他機関や外部講師による研修を引き続き実施した。</p> <p>これらの見直しについては、全体会議、合同会議及び所内メール等において周知徹底を図った。</p> <p>■業務方法書の改訂 ○改訂（追記）事項 内部統制の推進に関する事項、情報システムの整備・利用及び情報セキュリティの確保に関する事項、監事監査に関する事項、内部監査に関する事項、内部通報及び外部通報に関する事項、法人情報の公開に関する事項、研究開発業務に関する事項等 ○上記に伴う規定の整備 内部統制推進規程、外部通報に関する規程、監事監査規程、研究活動における不正行為への対応等に関する規程、競争的資金等の適正管理に関する規程（以上、新規制定）、公益通報制度運営規程（一部改訂）</p>	<p>年度計画を概ね達成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地独法改正の伴う業務方法書の改訂、それに伴う規程類の整備【新】 ・研究活動・公的研究費に係る不正行為・不正使用への対応等ガイドラインへの対応に係る規程類の整備【新】 ・安全衛生委員会への改組【新】や法令に基づく管理者・主任者等についてそれぞれの業務を精査 ・化学物質取扱規程を見直し、化学物質のリスクアセスメントを実施【新】

- 文部科学省のガイドラインへ対応するための規程類の整備
 - 「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」への対応
研究活動における不正行為への対応等に関する規程（再掲p.60）
 - 「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン（実施基準）」への対応
競争的資金等の適正管理に関する規程（再掲p.60）、不正使用防止対策基本方針について、競争的資金等の不正防止計画、競争的資金等に係る内部監査手順
※ 関連規程類：内部統制推進規程、公益通報制度運営規程、外部通報に関する規程（再掲p.60）

- 労働安全衛生課関係
 - ・ 1回/月以上、計13回労働安全衛生委員会を開催
 - ・ 安全衛生委員会への改組【新】や法令に基づく管理者・主任者等を選任し、それぞれの業務を精査
 - ・ 職場巡視のチェックシートを作成して3回に分けて職場巡視を実施（10月・11月・12月）し、実施結果に基づき、職場環境を見直し
 - ・ 化学物質取扱管理規程の改定及び化学物質リスクアセスメントの実施
 - ・ 労働災害の発生報告と防止対策の実施
 - ・ 定期健康診断の実施（受診率100%）及びストレスチェック結果の分析

■ 研究者倫理（再掲 p.54）

研修テーマ	人数	開催日	場所
平成29年度研究倫理研修会	2名	5/23	農林総合技術センター

■ ハラスメント防止研修

（所内）（再掲 p.56）

研修テーマ	参加者数	実施日
ハラスメント防止研修	75名(参加率100%)	6/8, 6/26, 6/28

（所外）（再掲 p.55）

研修名	人数	開催日	場所
ハラスメント相談担当研修	1名	9/28	(一般社団法人)鐵鋼会館
パワーハラスメント対策専門家養成研修	1名	11/30-12/1	TKP カンファレンスシティ博多
ハラスメント研修	1名	2/22-23	TKP ガーデンシティ PREMIUM 広島駅前

大項目	第2 業務運営の改善及び効率化に関する事項
中項目	5 情報管理の徹底

第2-5 情報管理の徹底

中期計画	H29年度の年度計画	評価	H29年度計画の達成状況等の具体的説明	評価の理由等
情報管理の徹底	情報管理の徹底	3	<p>コンピュータによる情報漏洩防止の対策強化のため、担当シニアスタッフを1名配置【新】し、情報セキュリティ規程を見直し、セキュリティポリシーの見直しに着手した。新規採用職員を対象に職員教育を実施するとともに、ネットワーク実務担当者により情報セキュリティに関する職員への指示・伝達を継続して行った。</p> <p>さらに、ネットワーク接続機器の調査を行い、ネットワーク関連更新・保守計画を作成するとともに、産技センターの情報セキュリティを高めるため、ホームページWebサーバー、外部DNSサーバーの外部委託【新】を行った。</p>	<p>年度計画を概ね達成</p> <ul style="list-style-type: none"> 情報セキュリティ担当のシニアスタッフを配置【新】 新規採用職員を対象に職員教育を実施 ネットワーク関連更新・保守計画を作成 ホームページ Web サーバー、外部 DNS サーバーの外部委託【新】

大項目	第2 業務運営の改善及び効率化に関する事項
中項目	6 危機管理対策の推進

第2-6 危機管理対策の推進

中期計画	H29年度の年度計画	評価	H29年度計画の達成状況等の具体的説明	評価の理由等
危機管理対策の推進	危機管理対策の推進	3	<p>「業務継続計画」(BCP)の初動体制に着目して、計画を見直し、初動対策班の対応訓練及びそれ以外の職員の参集可否の連絡方法としてBCP専用のメールアドレスを設定し、メール送信確認を行った【新】。</p>	<p>年度計画を概ね達成</p> <ul style="list-style-type: none"> 業務継続計画の初動体制の見直し【新】

大項目	第3 財務内容の改善に関する事項
中項目	1 自己収入の確保

中期目標	<p><財務内容の改善に関する目標> 外部資金の獲得などに積極的に取り組み、自主財源の確保を図る。また、経費の支出については、可能な限り抑制に努める。</p>
------	--

第 3 - 1 自己収入の確保

中期計画	H29 年度の年度計画	評価	H29 年度計画の達成状況等の具体的説明	評価の理由等																											
自己収入の確保	自己収入の確保	4	<p>機器整備に係る補助事業 (2 機種) (再掲 p.46) や研究開発に係る競争的資金の獲得 (9 件) (再掲 p.28) に努めるとともに、イノベーションを推進するために外部資金 (地域イノベーション戦略プログラム、ものづくり中小企業・小規模事業者連携支援事業) を活用した (再掲 p.10)。</p> <p>また、開放機器や施設などの使用料、依頼試験の手数料、受託研究及び知的財産の使用許諾による実施料などにより自己収入の確保に努め、<u>依頼試験の利用料金が、過去最高となった。</u></p> <p>また、新たに導入した機器についても、速やかに開放機器化して機器利用収入の拡大を図った。</p> <p>■機器整備に係る補助事業の獲得状況 2件</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>事業名</th> <th>機器名</th> <th>補助額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小型自動車等機械振興事業(JKA)補助金</td> <td>低真空走査電子顕微鏡</td> <td>16,200,000 円</td> </tr> <tr> <td>小型自動車等機械振興事業(JKA)補助金</td> <td>引張圧縮試験機</td> <td>11,484,000 円</td> </tr> </tbody> </table> <p>■研究開発に係る競争的資金の獲得 9件</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>提案公募名</th> <th>獲得件数</th> <th>補助額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>戦略的基盤技術高度化支援事業 (サポイン)</td> <td>2 件</td> <td>53,873,378 円</td> </tr> <tr> <td>革新的技術開発・緊急展開事業</td> <td>4 件</td> <td>3,185,796 円</td> </tr> <tr> <td>地域産学バリュープログラム JST</td> <td>1 件</td> <td>220,000 円</td> </tr> <tr> <td>やまぎん助成基金</td> <td>1 件</td> <td>1,000,000 円</td> </tr> <tr> <td>中国電力技術研究財団</td> <td>1 件</td> <td>900,000 円</td> </tr> </tbody> </table>	事業名	機器名	補助額	小型自動車等機械振興事業(JKA)補助金	低真空走査電子顕微鏡	16,200,000 円	小型自動車等機械振興事業(JKA)補助金	引張圧縮試験機	11,484,000 円	提案公募名	獲得件数	補助額	戦略的基盤技術高度化支援事業 (サポイン)	2 件	53,873,378 円	革新的技術開発・緊急展開事業	4 件	3,185,796 円	地域産学バリュープログラム JST	1 件	220,000 円	やまぎん助成基金	1 件	1,000,000 円	中国電力技術研究財団	1 件	900,000 円	<p>年度計画を十分達成</p> <ul style="list-style-type: none"> ○機器整備や研究開発に係る競争的資金の獲得 (機器整備:2 機種、研究開発:9 件) ○イノベーション推進への外部資金の活用 ○使用料・手数料、受託研究及び知的財産の実施料等による自己収入の確保し、依頼試験の利用料金が過去最高
事業名	機器名	補助額																													
小型自動車等機械振興事業(JKA)補助金	低真空走査電子顕微鏡	16,200,000 円																													
小型自動車等機械振興事業(JKA)補助金	引張圧縮試験機	11,484,000 円																													
提案公募名	獲得件数	補助額																													
戦略的基盤技術高度化支援事業 (サポイン)	2 件	53,873,378 円																													
革新的技術開発・緊急展開事業	4 件	3,185,796 円																													
地域産学バリュープログラム JST	1 件	220,000 円																													
やまぎん助成基金	1 件	1,000,000 円																													
中国電力技術研究財団	1 件	900,000 円																													

■知財の実施許諾による収入

項目	H26	H27	H28	H29
実施許諾	11,224 千円	12,048 千円	11,928 千円	628 千円

■地域イノベーション戦略支援プログラム（文部科学省）（再掲p.10）

38,985,210 円

■ものづくり中小企業・小規模事業者連携支援事業（中小企業基盤整備機構）（再掲p.10）

8,888,090 円

■技術支援サービスによる自己収入

項目	H26	H27	H28	H29
開放機器	20,629 千円	20,078 千円	20,482 千円	17,904 千円
依頼試験 手数料*	8,840 千円 (3,164 千円)	10,688 千円 (5,777 千円)	13,446 千円 (8,780 千円)	14,176 千円 (8,237 千円)
受託研究	2,171 千円	3,797 千円	3,314 千円	3,842 千円

* 依頼試験手数料の()内は、内オーダーメイド試験（O.M.）

・開放機器使用料の状況（再掲 p.49）

H28年度と比べて使用料は減少したが、利用件数はH26年度と同程度であった。

・依頼試験手数料の状況（再掲p.49-50）

オーダーメイド試験の利用金額が昨年度と同水準であったことに加え、それ以外の試験の利用件数が増加したことにより、利用金額が過去最高となった。

■その他自己収入

自動販売機については、公募制とし、売上手数料を得ることで、自己収入の確保を行った。

H29 年度実績 336,934 円

大項目	第3 財務内容の改善に関する事項
中項目	2 経費の抑制

第3-2 経費の抑制

中期計画	H29年度の年度計画	評価	H29年度計画の達成状況等の具体的説明	評価の理由等
経費の抑制	経費の抑制	3	<p>予算編成において、事業費の積上と併せて前年度事業費の実績を考慮するとともに、より厳密な積算を行い、効果的な予算配分に努めることにより、予算の抑制を図った。また、上半期終了後に予算執行状況の集計を実施し、執行管理に努めるとともに、その結果に基づき予算の再配分を行うことで、効果的な予算執行に努めた。</p> <p>また、管理運営に係る経費について、引き続き委託業務等の精査を行うことに加え、物品購入等における仕様精査や単価契約等による価格の縮減、旅費等の精査による縮減など、比較的規模の小さな経費まで精査し、経費の縮減に努めた。</p>	<p>年度計画を概ね達成</p> <ul style="list-style-type: none"> 前年度事業費の実績の考慮と厳密な積算による効果的な予算配分による予算抑制 執行管理のため、上半期終了後に予算執行状況の集計・再配分を実施 比較的規模の小さな経費まで精査

大項目	第 4 その他業務運営に関する重要事項
中項目	1 施設設備の適切な管理

中期目標	<p><施設設備の適切な管理に関する目標> 施設設備が効果的・効率的に活用されるよう、その維持管理を適切に行うとともに、計画的な整備に努める。</p>
------	--

第 4 - 1 施設設備の適切な管理

中期計画	H29 年度の年度計画	評価	H29 年度計画の達成状況等の具体的説明	評価の理由等
<p>施設設備の適切な管理</p> <p>安定的なサービスの提供の基盤となる施設設備が良好な状況に保たれるよう、保守点検、修繕等を計画的に行う。</p> <p>また、施設等の利活用状況を適時把握し、効率的・効果的な利活用の観点から、運用方法の改善や有効活用策等の検討を定期的に行いその結果に基づき必要な措置を講ずる。</p>	<p>施設設備の適切な管理</p> <p>施設設備について、利用者の要望や大規模修繕・改修調査を参考にして、保守点検、修繕等を計画的に行い、施設設備の定期的な保守点検、修繕、更新（計画の作成、実施予算の確保等）、管理システムの運用（開放機器・依頼試験・会議室等予約システム）を行う。</p> <p>また、施設等の利活用状況を把握し、各種機関や団体、学校等への働きかけにより、各種セミナー、研修会、研究会、説明会、打合せ等での利活用を促進する。</p>	3	<p>■施設・設備の保守点検、修繕など</p> <p>施設・設備の保守業務については、計画的に予算配分することで、安全性や業務の信頼性の確保に努めた。</p> <p>また、修繕についてもその必要性が高いと判断されるものについては優先的に予算執行することで施設・設備が良好な状態に保たれるよう配意した。大規模修繕として、全館の照明制御システムを更新した。</p> <p>■施設の利用促進</p> <p>施設の利活用促進については、ひとづくり財団、やまぐち産業振興財団、工業系学校・大学、金融機関等へ働きかけやJAXA展示コーナー設置により、宇部コンベンション協会主催の産業観光、下関・宇部商工会議所工業部会、宇部工業高等学校、下関西高等学校、大津緑洋高等学校、防府商工高等学校、県立大学主催の桜の森アカデミー講座、山口大学農学部等の多くの見学受入の成果を上げ、H26以降最大の見学者数となった。</p>	<p>年度計画を概ね達成</p> <p>■施設・設備の保守点検、修繕状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保守業務への計画的な予算配分 ・必要性の高い修繕への優先的な予算執行 ・全館の照明制御システムの大規模修繕 <p>■施設の利用促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第2期（H26以降）最大の見学者数

<p>(数値目標)</p> <p>中期計画期間中の来庁者数の 5年間合計 55,000人</p> <p>(注) 来庁者 施設利用者、見学者及び外来受 付者の合計をいう。</p>	<p>(数値目標)</p> <p>中期計画期間中の来庁者数</p> <p>年間 11,000人</p>	5	<p>(数値目標) 中期計画期間中の来庁者数 13,392人 ※内訳 施設利用：5,231人(施設利用+見学) (H28：4,739人) 外来受付：8,161人(H28：7,974人) → 見学：+490、受付簿来所者：+187</p> <p>■月別来庁者の推移</p> <table border="1" data-bbox="1427 485 2356 716"> <tr><th></th><th>4月</th><th>5月</th><th>6月</th><th>7月</th></tr> <tr><td>施設利用者</td><td>15人</td><td>150人</td><td>100人</td><td>330人</td></tr> <tr><td>見学者</td><td>72人</td><td>110人</td><td>178人</td><td>168人</td></tr> <tr><td>外来受付者</td><td>542人</td><td>714人</td><td>589人</td><td>568人</td></tr> <tr><td>月別合計</td><td>629人</td><td>974人</td><td>867人</td><td>1,066人</td></tr> </table> <table border="1" data-bbox="1427 762 2356 993"> <tr><th>8月</th><th>9月</th><th>10月</th><th>11月</th><th>12月</th></tr> <tr><td>975人</td><td>408人</td><td>452人</td><td>640人</td><td>300人</td></tr> <tr><td>14人</td><td>231人</td><td>98人</td><td>83人</td><td>126人</td></tr> <tr><td>611人</td><td>833人</td><td>778人</td><td>817人</td><td>823人</td></tr> <tr><td>1,600人</td><td>1,472人</td><td>1,328人</td><td>1,540人</td><td>1,249人</td></tr> </table> <table border="1" data-bbox="1427 1039 2356 1318"> <tr><th>1月</th><th>2月</th><th>3月</th><th>計</th></tr> <tr><td>6人</td><td>425人</td><td>234人</td><td>4,035人</td></tr> <tr><td>49人</td><td>10人</td><td>57人</td><td>1,196人</td></tr> <tr><td>583人</td><td>590人</td><td>713人</td><td>8,161人</td></tr> <tr><td>638人</td><td>1,025人</td><td>1,004人</td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td>合計</td><td>13,392人</td></tr> </table>		4月	5月	6月	7月	施設利用者	15人	150人	100人	330人	見学者	72人	110人	178人	168人	外来受付者	542人	714人	589人	568人	月別合計	629人	974人	867人	1,066人	8月	9月	10月	11月	12月	975人	408人	452人	640人	300人	14人	231人	98人	83人	126人	611人	833人	778人	817人	823人	1,600人	1,472人	1,328人	1,540人	1,249人	1月	2月	3月	計	6人	425人	234人	4,035人	49人	10人	57人	1,196人	583人	590人	713人	8,161人	638人	1,025人	1,004人				合計	13,392人	<p>年度計画を十二分に達成 達成度 122%</p> <p>※見学、受付簿来所者の増 加</p>
	4月	5月	6月	7月																																																																										
施設利用者	15人	150人	100人	330人																																																																										
見学者	72人	110人	178人	168人																																																																										
外来受付者	542人	714人	589人	568人																																																																										
月別合計	629人	974人	867人	1,066人																																																																										
8月	9月	10月	11月	12月																																																																										
975人	408人	452人	640人	300人																																																																										
14人	231人	98人	83人	126人																																																																										
611人	833人	778人	817人	823人																																																																										
1,600人	1,472人	1,328人	1,540人	1,249人																																																																										
1月	2月	3月	計																																																																											
6人	425人	234人	4,035人																																																																											
49人	10人	57人	1,196人																																																																											
583人	590人	713人	8,161人																																																																											
638人	1,025人	1,004人																																																																												
		合計	13,392人																																																																											

大項目	第 4 その他業務運営に関する重要事項
中項目	2 環境負荷の低減

中期目標	<p><環境負荷の低減に関する目標> 業務運営に伴う環境負荷を低減するための取組を適切に実施する。</p>
------	--

第 4 - 2 環境負荷の低減

中期計画	H29 年度の年度計画	評価	H29 年度計画の達成状況等の具体的説明	評価の理由等																																																																
環境負荷の低減	環境負荷の低減	3	<p>環境負荷の低減に向けた環境マネジメントシステム ISO14001 に準じた取組を継続しており、省エネ・省資源、コピー用紙の裏面や封筒の再利用、トナーカートリッジ、インクカートリッジの回収、ゴミの分別収集による古紙などの再資源化、グリーン購入などに取り組んでいる。なお、グリーン購入の器具什器が 15.8%と低くなったが、対象金額が少なく、全体としては 90.0%で例年程度であった。また、引き続き電力については、玄関ロビーに設置した電力モニターや Web 画面で電力使用量を「見える化」することにより省エネ行動喚起を図っている。</p> <p>なお、廃棄物管理規程を見直し、排出される廃棄物の分類を 36 から 60 に細分化するなど、廃棄物がより適正に処理される体制づくりを行った【新】。</p> <p>■電力、水道水、ガスの使用状況および廃棄物の排出状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>コピー用紙 (枚)</td> <td>591,000</td> <td>563,750</td> <td>629,500</td> <td>627,000</td> <td>574,000</td> <td>588,000</td> <td>597,750</td> </tr> <tr> <td>使用電力量 (MWh)</td> <td>1,986</td> <td>2,150</td> <td>2,257</td> <td>2,243</td> <td>2,345</td> <td>2,446</td> <td>2,135</td> </tr> <tr> <td>水道水 (m³)</td> <td>4,387</td> <td>4,028</td> <td>3,919</td> <td>2,958</td> <td>3,014</td> <td>3,154</td> <td>3,621</td> </tr> <tr> <td>プロパンガス(m³)</td> <td>5,768</td> <td>5,799</td> <td>6,573</td> <td>7,126</td> <td>6,258</td> <td>6,895</td> <td>7,467</td> </tr> <tr> <td>A 重油 (L)</td> <td>20</td> <td>30</td> <td>30</td> <td>90</td> <td>20</td> <td>30</td> <td>30</td> </tr> <tr> <td>廃棄物(kg)</td> <td>6,530</td> <td>4,903</td> <td>7,541</td> <td>7,290</td> <td>5,747</td> <td>7,991</td> <td>8,075</td> </tr> <tr> <td>特別管理廃棄物</td> <td>625</td> <td>607</td> <td>1,059</td> <td>1,121</td> <td>905</td> <td>1,217</td> <td>1,411</td> </tr> </tbody> </table>		H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	コピー用紙 (枚)	591,000	563,750	629,500	627,000	574,000	588,000	597,750	使用電力量 (MWh)	1,986	2,150	2,257	2,243	2,345	2,446	2,135	水道水 (m ³)	4,387	4,028	3,919	2,958	3,014	3,154	3,621	プロパンガス(m ³)	5,768	5,799	6,573	7,126	6,258	6,895	7,467	A 重油 (L)	20	30	30	90	20	30	30	廃棄物(kg)	6,530	4,903	7,541	7,290	5,747	7,991	8,075	特別管理廃棄物	625	607	1,059	1,121	905	1,217	1,411	<p>年度計画を概ね達成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ISO14000 に準拠した取組の継続し、省エネ・省資源、ゴミの分別収集による古紙などの再資源化等の取組 ・ 廃棄物管理の体制と規程の見直し【新】
	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29																																																													
コピー用紙 (枚)	591,000	563,750	629,500	627,000	574,000	588,000	597,750																																																													
使用電力量 (MWh)	1,986	2,150	2,257	2,243	2,345	2,446	2,135																																																													
水道水 (m ³)	4,387	4,028	3,919	2,958	3,014	3,154	3,621																																																													
プロパンガス(m ³)	5,768	5,799	6,573	7,126	6,258	6,895	7,467																																																													
A 重油 (L)	20	30	30	90	20	30	30																																																													
廃棄物(kg)	6,530	4,903	7,541	7,290	5,747	7,991	8,075																																																													
特別管理廃棄物	625	607	1,059	1,121	905	1,217	1,411																																																													

■ グリーン購入の実施状況

	グリーン購入率						
	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
用紙類	98.2%	99.7%	99.5%	98.2%	99.0%	98.0%	94.6%
金額(円)	431,907	314,820	311,695	238,042	330,130	309,354	339,123
文具等	72.4%	78.5%	82.9%	78.0%	80.5%	89.2%	83.0%
金額(円)	341,348	155,825	280,929	154,193	165,677	262,025	235,517
器具什器	100%	100%	86.9%	68.9%	100%	96.7%	15.8%
金額(円)	577,395	152,145	483,840	66,420	119,944	594,432	2,592
作業服等	—	99.5%	99.8%	100%	100%	100%	100%
金額(円)	—	66,779	243,369	111,780	58,179	223,073	154,191
合計	90.7%	94.0%	90.9%	88.0%	93.9%	95.8%	90.0%
金額(円)	1,350,650	689,569	1,319,833	570,435	673,930	1,388,884	731,423

注) グリーン購入率は、購入金額ベースのもの

大項目	第5 予算（人件費の見積もりを含む。）収支計画及び資金計画
中項目	1 予算

中期計画		H29年度の年度計画及びその実績				特記事項
(百万円)		(百万円)				
区分	金額	区分	計画	実績	増減	
収入		収入				<p>*「研究費等」の増の主たる要因は、年度途中での補助事業採択等によるものです。</p> <p>*「業務費」の増の主たる要因は、年度途中での補助事業採択等によるものです。</p>
運営費交付金等	3,190	運営費交付金等	626	629	3	
自己収入	1,032	自己収入	246	298	52	
使用料・手数料	147	使用料・手数料	37	36	▲1	
特許実施料	33	特許実施料	2	1	▲1	
研究費等	673	研究費等	138	193	55	
補助金等収入	175	補助金等収入	68	67	▲1	
その他収入	4	その他収入	1	1	0	
前中期目標期間繰越積立金取崩	61	前年度からの繰越金	0	0	0	
計	4,284	前中期目標期間繰越積立金取崩	11	4	▲7	
		計	883	931	48	
支出		支出				
業務費	944	業務費	207	253	46	
人件費	2,506	人件費	505	496	▲9	
一般管理費	544	一般管理費	116	115	▲1	
施設費	290	施設費	55	67	12	
計	4,284	計	883	931	48	
(注)四捨五入の関係で端数が合わないことがある。		(注)四捨五入の関係で端数が合わないことがある。				
【人件費の見積り】 中期目標期間中、総額2,506百万円を支出する。 ※金額については見込みであり、今後、変更する可能性がある。		【人件費の見積り】 総額505百万円を支出する。 ※金額については見込みであり、今後、変更する可能性がある。				

注：「特記事項」欄は、計画と実績との間に大きな差異がある場合に、その主な要因を記載する。

大項目	第5 予算（人件費の見積もりを含む。）収支計画及び資金計画
中項目	2 収支計画

中期計画		H29年度の年度計画及びその実績				特記事項
(百万円)		(百万円)				
区分	金額	区分	計画	実績	増減	
費用の部	4,438	費用の部	929	924	▲5	*「研究事業等収益」の増の主たる要因は、年度途中での補助事業採択等によるものです。
経常経費	4,373	経常経費	916	924	8	
業務費	1,286	業務費	288	309	21	
人件費	2,506	人件費	505	496	▲9	
管理運営費	575	管理運営費	123	119	▲4	
財務費用	5	財務費用	0	0	0	
雑損	0	雑損	0	0	0	
臨時損失	66	臨時損失	13	0	▲13	
収入の部	4,438	収入の部	919	923	4	
経常収益	4,373	経常収益	906	923	17	
運営費交付金収益	3,045	運営費交付金収益	600	589	▲11	
使用料・手数料収益	147	使用料・手数料収益	37	37	0	
特許実施料	33	特許実施料	2	1	▲1	
研究事業等収益	673	研究事業等収益	138	186	48	
補助金等収益	30	補助金等収益	39	39	0	
施設費収益	0	施設費収益	0	0	0	
その他収益	4	その他収益	1	1	0	
資産見返運営費交付金等戻入	440	資産見返運営費交付金等戻入	29	15	▲14	
臨時利益	66	資産見返補助金等戻入	40	55	15	
当期純利益	▲61	資産見返寄附金戻入	3	0	▲3	
前中期目標期間繰越積立金取崩益	61	資産見返物品受贈額戻入	17	0	▲17	
純利益	0	臨時利益	13	0	▲13	
		当期純利益	▲11	▲1	10	
		目的積立金取崩額	11	1	▲10	
		純利益	0	0	0	

(注) 四捨五入の関係で端数が合わないことがある。

※金額については見込みであり、今後、変更する可能性がある。

(注) 四捨五入の関係で端数が合わないことがある。

※金額については見込みであり、今後、変更する可能性がある。

注：「特記事項」欄は、計画と実績との間に大きな差異がある場合に、その主な要因を記載する

大項目	第5 予算（人件費の見積もりを含む。）収支計画及び資金計画
中項目	3 資金計画

中期計画		H29年度の年度計画及びその実績				特記事項
(百万円)		(百万円)				
区分	金額	区分	計画	実績	増減	
資金支出	4,284	資金支出	883	934	51	*「研究費等による収入」の増の主たる要因は、年度途中における受託事業の拡充等によるものです。
業務活動による支出	3,989	業務活動による支出	828	846	18	
投資活動による支出	290	投資活動による支出	55	88	33	
財務活動による支出	5	財務活動による支出	0	0	0	
次期中期目標期間への繰越金	0	次期中期目標期間への繰越金	0	0	0	
資金収入	4,284	資金収入	872	970	98	
業務活動による収入	3,947	業務活動による収入	817	909	92	
運営費交付金による収入	3,060	運営費交付金による収入	600	603	3	
使用料・手数料収入	147	使用料・手数料収入	37	35	▲2	
特許実施料	33	特許実施料	2	1	▲1	
研究費等による収入	673	研究費等による収入	138	210	72	
補助金等による収入	30	補助金等による収入	39	59	20	
その他の収入	4	その他の収入	1	1	0	
投資活動による収入	275	投資活動による収入	55	61	6	
財務活動による収入	0	財務活動による収入	0	0	0	
前期中期目標期間からの繰越金	61	前期中期目標期間からの繰越金	0	0	0	
(注) 四捨五入の関係で端数が合わないことがある。		(注) 四捨五入の関係で端数が合わないことがある。				
※金額については見込みであり、今後、変更する可能性がある。						

注：「特記事項」欄は、計画と実績との間に大きな差異がある場合に、その主な要因を記載する。

大項目	第6 短期借入金の限度額
-----	--------------

中期計画	H29年度の年度計画	左の実績	特記事項
3億5千万円	3億5千万円	なし	

注:「特記事項」欄は、計画と実績との間に大きな差異がある場合に、その主な要因を記載する。

大項目	第7 出資等に係る不要財産又は出資等に係る不要財産となることが見込まれる財産の処分に関する計画
-----	---

中期計画	H29年度の年度計画	左の実績	特記事項
なし	なし	なし	

大項目	第8 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画
-----	-------------------------

中期計画	H29年度の年度計画	左の実績	特記事項
なし	なし	なし	

注:「特記事項」欄は、計画と実績との間に大きな差異がある場合に、その主な要因を記載する。

大項目	第9 剰余金の使途
-----	-----------

中期計画	H29年度の年度計画	左の実績	特記事項
決算において剰余金が発生した場合は、試験研究の質の向上並びに組織運営及び施設整備の改善に充てる。	決算において剰余金が発生した場合は、試験研究の質の向上並びに組織運営及び施設設備の改善に充てる。	なし	

注:「特記事項」欄は、計画と実績との間に大きな差異がある場合に、その主な要因を記載する。

大項目	第10 法第40条第4項の承認を受けた金額の使途
-----	--------------------------

中期計画	H29年度の年度計画	左の実績	特記事項
前中期目標期間繰越積立金は、試験研究の質の向上並びに組織運営及び施設設備の改善に充てる。	前中期目標期間繰越積立金は、試験研究の質の向上並びに組織運営及び施設設備の改善に充てる。	研究の質の向上(やまぐち3Dものづくり推進事業:1.2百万円)及び施設設備の改善(機器整備:2.5百万円)に充当した。	

IV その他法人の現況に関する事項

1 地域別企業支援状況(H29年度)

種 別		地 域 別						
項 目		岩柳地域	周南地域	県央地域	西部地域	北部地域	県 外	合 計
技術相談件数	法人対応 (うち訪問等)	443 (24)	476 (91)	834 (34)	1,580 (70)	106 (24)	377 (0)	3,816 (243)
	外部紹介 (うち訪問等)	2 (0)	7 (0)	10 (0)	17 (0)	1 (0)	15 (0)	52 (0)
計 (実利用者数)		445 (116)	483 (176)	844 (212)	1,597 (452)	107 (53)	392 (187)	3,868 1,196
企業等 訪問件数	件数 (訪問回数)	52 (82)	82 (267)	88 (239)	182 (656)	33 (83)	127 (169)	564 (1,496)
	うち企業 (訪問回数)	47 (77)	72 (246)	60 (155)	144 (366)	24 (64)	93 (126)	440 (1,034)
	うち新規 (訪問回数)	10 (16)	12 (21)	13 (24)	17 (32)	6 (14)	0 (0)	58 (107)
開放機器利用	件 数 (実利用者数)	336 (35)	232 (44)	577 (80)	1,547 (186)	33 (9)	341 (88)	3,066 (442)
	金 額	1,207	1,381	2,426	7,221	91	5,578	17,904
依頼試験	件 数 (実利用者数)	74 (27)	43 (21)	270 (36)	185 (61)	31 (13)	40 (17)	643 (175)
	点 数	258	157	725	914	66	124	2,244
	金 額	1,392	776	2,370	3,449	507	5,681	14,175
受託研究	件 数	0	2	0	7	0	2	11
	金 額	0	698	0	1,649	0	1,495	3,842
研修生受入 人 数	企 業	2	0	3	4	0	0	9
	学 生	0	0	0	1	0	1	2
	インターンシップ	0	0	0	5	0	0	5
計		2	0	3	10	0	1	16
職員派遣研修	件 数	0	1	1	0	0	0	2
成果発表会	回 数	0	0	3	1	0	0	4
講習会	回 数	0	0	1	36	0	0	37
出 展	回 数	0	1	1	1	0	4	7
共同研究 (資金の受入れが ないもの外数)	件 数	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (4)	0 (0)	1 (3)	2 (7)
	金 額	0	0	0	420	0	344	764
事業化・商品化件数		2	0	5	4	1	0	12
実施許諾	件 数 (うち新規)	1 (0)	4 (1)	6 (0)	13 (2)	4 (0)	10 (2)	38 (5)
	金 額 (うち新規)	5 (0)	28 (0)	282 (0)	309 (0)	4 (0)	1 (0)	629 (0)

※ 地域別区分

- ①岩柳地域
岩国市、柳井市、周防大島町、和木町、
上関町、田布施町、平生町
- ②周南地域
下松市、光市、周南市
- ③県央地域
山口市、防府市
- ④西部地域
下関市、宇部市、美祢市、山陽小野田市
- ⑤北部地域
萩市、長門市、阿武町

注) 金額の単位は千円。四捨五入の関係で端数処理が合わないことがあります。

地域別企業支援状況の推移(H26年度～30年度)

種 別 項 目		岩柳地域					周南地域					県央地域				
		H26	H27	H28	H29	H30	H26	H27	H28	H29	H30	H26	H27	H28	H29	H30
技術相談件数	法人対応 (うち訪問等)	254 (7)	390 (32)	419 (23)	443 (24)		384 (20)	594 (154)	520 (100)	476 (91)		776 (28)	898 (37)	899 (58)	834 (34)	
	外部紹介 (うち訪問等)	2 (0)	5 (0)	3 (0)	2 (0)		6 (0)	4 (0)	8 (0)	7 (0)		20 (6)	7 (1)	9 (1)	10 (0)	
計 (実利用者数)		256 (78)	395 (103)	422 (99)	445 (116)		390 (131)	598 (201)	528 (179)	483 (176)		796 (197)	905 (226)	908 (219)	844 (212)	
企業等 訪問件数	件数 (訪問回数)	40 (92)	49 (110)	40 (108)	52 (82)		62 (182)	62 (178)	79 (254)	82 (267)		83 (421)	81 (248)	91 (250)	88 (239)	
	(うち新規) (訪問回数)	(4) (6)	(5) (5)	(4) (8)	(10) (16)		(5) (7)	(4) (6)	(9) (10)	(12) (21)		(11) (11)	(13) (28)	(12) (22)	(13) (24)	
開放機器利用	件数 (実利用者数)	218 (21)	278 (25)	325 (24)	336 (35)		221 (43)	253 (46)	256 (46)	232 (44)		576 (61)	630 (81)	620 (80)	577 (80)	
	金額	528	911	1,134	1,207		1,125	1,588	1,890	1,381		3,219	2,283	2,584	2,426	
依頼試験	件数 (実利用者数)	32 (14)	76 (16)	67 (18)	74 (27)		66 (20)	44 (15)	42 (23)	43 (21)		254 (34)	233 (34)	261 (27)	270 (36)	
	点数	74	346	247	258		286	158	112	157		759	608	642	725	
	金額	334	821	1,159	1,392		975	731	803	776		2,597	2,099	2,256	2,370	
受託研究	件数	0	0	0	0		0	0	1	2		3	7	3	0	
	金額	0	0	0	0		0	0	50	698		760	2,557	942	0	
研修生受入 人数	企業	0	0	0	2		3	0	2	0		2	5	1	3	
	学生	0	0	0	0		0	0	0	0		0	0	0	0	
	インターンシップ	0	0	0	0		0	0	0	0		0	0	0	0	
計		0	0	0	2		3	0	2	0		2	5	1	3	
職員派遣研修	件数	0	0	0	0		1	1	1	1		1	1	1	1	
成果発表会	回数	0	0	0	0		0	0	0	0		0	0	0	3	
講習会	回数	0	0	0	0		2	0	0	0		3	15	3	1	
出展	回数	0	0	0	0		0	0	1	1		2	3	3	1	
共同研究 (資金の受入れが ないもの外数)	件数	0 (2)	0 (1)	0 (0)	0 (0)		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		0 (0)	0 (1)	0 (0)	0 (0)	
	金額	0	0	0	0		0	0	0	0		0	0	0	0	
事業化・商品化件数		2	0	0	2		1	1	1	0		1	2	4	5	
実施許諾	件数 (うち新規)	1 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)		4 (0)	4 (1)	4 (0)	4 (1)		6 (2)	5 (0)	7 (2)	6 (0)	
	金額 (うち新規)	5 (0)	4 (0)	12 (0)	5 (0)		4 (0)	0 (0)	15 (0)	28 (0)		55 (0)	51 (0)	637 (0)	282 (0)	

注) 金額の単位は千円。四捨五入の関係で端数処理が合わないことがあります。

地域別企業支援状況の推移（H26年度～30年度）

種 別 項 目		西部地域					北部地域					県 外				
		H 2 6	H 2 7	H 2 8	H 2 9	H 3 0	H 2 6	H 2 7	H 2 8	H 2 9	H 3 0	H 2 6	H 2 7	H 2 8	H 2 9	H 3 0
技術相談件数	法人対応 （うち訪問等）	1,799 (39)	1,889 (52)	1,898 (107)	1,580 (70)		145 (16)	100 (11)	114 (11)	106 (24)		394 (1)	400 (1)	415 (1)	377 (0)	
	外部紹介 （うち訪問等）	28 (0)	26 (0)	13 (1)	17 (0)		1 (0)	3 (0)	0 (0)	1 (0)		6 (0)	8 (0)	3 (0)	15 (0)	
計 （実利用者数）		1,827 (405)	1,915 (489)	1,911 (500)	1,597 (452)		146 (47)	103 (55)	114 (59)	107 (53)		400 (161)	408 (159)	418 (193)	392 (187)	
企業等 訪問件数	件数 （訪問回数）	165 (902)	172 (704)	209 (767)	182 (656)		29 (57)	27 (68)	28 (87)	33 (83)		52 (119)	30 (49)	85 (126)	127 (169)	
	（うち新規） （訪問回数）	(20) (27)	(23) (32)	(25) (46)	(17) (32)		(7) (8)	(6) (6)	(3) (3)	(6) (14)		(0) (0)	(0) (0)	(1) (1)	(0) (0)	
開放機器利用	件 数 （実利用者数）	1,668 (135)	1,987 (205)	1,853 (189)	1,547 (186)		38 (8)	33 (16)	45 (15)	33 (9)		357 (72)	384 (77)	331 (75)	341 (88)	
	金 額	8,254	10,570	9,886	7,221		74	128	133	91		7,429	4,598	4,855	5,578	
依頼試験	件 数 （実利用者数）	183 (63)	153 (49)	130 (62)	185 (61)		49 (14)	20 (10)	20 (12)	31 (13)		37 (20)	32 (14)	57 (22)	40 (17)	
	点 数	792	867	550	914		185	48	39	66		96	110	135	124	
	金 額	2,893	2,839	2,638	3,449		616	290	353	507		1,425	3,908	6,237	5,681	
受託研究	件 数	3	3	3	7		0	1	2	0		1	0	1	2	
	金 額	972	966	1,212	1,649		0	274	610	0		439	0	500	1,495	
研修生受入 人 数	企 業	6	5	5	4		0	0	0	0		0	0	0	0	
	学 生	1	1	1	1		0	0	0	0		0	1	2	1	
	インターンシップ	1	1	1	5		0	0	0	0		2	1	0	0	
計		8	7	7	10		0	0	0	0		2	2	2	1	
職員派遣研修	件 数	0	0	0	0		0	0	0	0		0	0	0	0	
成果発表会	回 数	2	3	3	1		0	0	0	0		0	0	0	0	
講習会	回 数	30	10	25	36		1	0	0	0		3	0	0	0	
出 展	回 数	2	2	3	1		0	0	0	0		0	6	9	4	
共同研究 （資金の受入れが ないもの外数）	件 数	2 (4)	1 (8)	0 (0)	1 (4)		0 (0)	0 (0)	0 (1)	0 (0)		0 (8)	0 (3)	0 (2)	1 (3)	
	金 額	120	100	0	420		0	0	0	0		0	0	0	344	
事業化・商品化件数		6	5	5	4		0	0	0	1		0	0	0	0	
実施許諾	件 数 （うち新規）	13 (2)	14 (1)	14 (0)	13 (2)		3 (1)	4 (1)	4 (0)	4 (0)		5 (0)	5 (1)	9 (4)	10 (2)	
	金 額 （うち新規）	1,404 (0)	1,535 (0)	1,234 (0)	309 (0)		14 (0)	5 (0)	4 (0)	4 (0)		9,743 (0)	10,455 (0)	10,026 (0)	1 (0)	

注）金額の単位は千円。四捨五入の関係で端数処理が合わないことがあります。

地域別企業支援状況の推移(H26年度～30年度)

種 別		合 計				
項 目		H 2 6	H 2 7	H 2 8	H 2 9	H 3 0
技術相談件数	法人対応 (うち訪問等)	3,752 (111)	4,271 (287)	4,265 (300)	3,816 (243)	
	外部紹介 (うち訪問等)	63 (6)	53 (1)	36 (2)	52 (0)	
計 (実利用者数)		3,815 (1,019)	4,324 (1,233)	4,301 (1,249)	3,868 (1,196)	
企業等 訪問件数	件数 (訪問回数)	431 (1,773)	421 (1,357)	532 (1,592)	564 (1,496)	
	(うち新規) (訪問回数)	(47) (59)	(51) (77)	(54) (90)	(58) (107)	
開放機器利用	件 数 (実利用者数)	3,078 (340)	3,565 (450)	3,430 (429)	3,066 (442)	
	金 額	20,629	20,078	20,482	17,904	
依頼試験	件 数 (実利用者数)	621 (165)	558 (138)	577 (164)	643 (175)	
	点 数	2,192	2,137	1,725	2,244	
	金 額	8,840	10,688	13,446	14,175	
受託研究	件 数	7	11	10	11	
	金 額	2,171	3,797	3,314	3,842	
研修生受入 人 数	企 業	11	10	8	9	
	学 生	1	2	3	2	
	インターンシップ	3	2	1	5	
計		15	14	12	16	
職員派遣研修	件 数	2	2	2	2	
成果発表会	回 数	2	3	3	4	
講習会	回 数	39	25	28	37	
出 展	回 数	4	11	16	7	
共同研究 (資金の受入れが ないもの外数)	件 数	2 (14)	1 (13)	0 (3)	2 (7)	
	金 額	120	100	0	764	
事業化・商品化件数		10	8	10	12	
実施許諾	件 数 (うち新規)	32 (5)	33 (4)	39 (6)	38 (5)	
	金 額 (うち新規)	11,224 (0)	12,048 (0)	11,928 (0)	629 (0)	

注) 金額の単位は千円。四捨五入の関係で端数処理が合わないことがあります。

2 産業分類別企業支援状況(H29年度)

産業分類別	技術 相 件 数	企業等 訪 問 件 数 (回数)	開放機器		依頼試験			受託研究		研 修		共同研究 (資金の受入れがないも の外数)		事業化 ・ 製 品 化 件 数	実施許諾	
			件数	金額	件数	点数	金額	件数	金額	件数	金額	受入研修 (人数)	派遣研修 (件数)		件数	金額
食品・飲料関係 (実利用者数)	501 (197)	64 (119)	245 (47)	674	146 (54)	311	1,951	3	286	2	0	0 (1)	0	4	5 (0)	38 (0)
化学・プラスチック関係 (実利用者数)	699 (184)	57 (153)	676 (99)	4,811	48 (12)	308	1,178	0	0	1	0	1 (1)	344	0	2 (1)	0 (0)
窯業・土石関係 (実利用者数)	74 (31)	19 (49)	64 (11)	328	3 (1)	3	14	0	0	0	0	0 (0)	0	0	1 (0)	0 (0)
鉄鋼・金属関係 (実利用者数)	546 (113)	47 (136)	472 (45)	2,271	215 (19)	640	2,501	2	1,496	0	2	0 (2)	0	2	10 (3)	79 (0)
機械関係 (実利用者数)	691 (188)	57 (164)	523 (69)	4,039	83 (32)	415	5,076	2	716	2	0	0 (0)	0	3	7 (0)	187 (0)
電気・情報通信関係 (実利用者数)	281 (79)	28 (58)	291 (46)	1,744	2 (2)	2	77	1	500	0	0	0 (1)	0	2	0 (0)	0 (0)
その他製品 (実利用者数)	587 (243)	158 (314)	287 (61)	1,901	40 (25)	147	1,294	2	544	3	0	0 (0)	0	1	13 (1)	325 (0)
建設業 (実利用者数)	128 (41)	10 (41)	16 (8)	228	89 (20)	290	845	1	300	0	0	0 (0)	0	0	0 (0)	0 (0)
公的機関・団体・大学・高専・個人 (実利用者数)	361 (120)	124 (462)	492 (56)	1,910	17 (10)	128	1,240	0	0	1	0	1 (2)	420	0	0 (0)	0 (0)
合 計 (実利用者数)	3,868 (1,196)	564 (1,496)	3,066 (442)	17,906	643 (175)	2,244	14,176	11	3,842	9	2	2 (7)	764	12	38 (5)	629 (0)

注) 金額の単位は千円。四捨五入の関係で端数処理が合わないことがあります。

共同研究は、1つの研究で相手先が複数(機械関係の企業と電気・情報通信関係の企業)あるものがあるため、一部をまとめて記載しています。以下同じ。

同一企業であっても、異なる地域に複数の事業所がある場合、地域別支援状況と件数で差異が生じる場合があります。

企業等訪問件数については、()内は訪問回数の合計です。

産業分類別企業支援状況の推移(H26年度～30年度)

種 別 項 目	食品・飲料関係					化学・プラスチック関係					窯業・土石関係				
	H26	H27	H28	H29	H30	H26	H27	H28	H29	H30	H26	H27	H28	H29	H30
技術相談件数 (実利用者数)	444 (182)	551 (182)	500 (193)	501 (197)		690 (139)	696 (151)	722 (184)	699 (184)		96 (32)	79 (28)	86 (32)	74 (31)	
企業訪問件数 (訪問回数)	74 (107)	59 (103)	67 (124)	64 (119)		46 (160)	52 (150)	40 (145)	57 (153)		19 (37)	12 (38)	15 (38)	19 (49)	
開放機器利用	件 数 (実利用者数)	229 (42)	287 (41)	214 (38)	245 (47)		639 (57)	770 (80)	722 (93)	676 (99)		54 (10)	64 (12)	89 (9)	64 (11)
	金 額	540	685	685	674		7,904	4,253	4,467	4,811		145	226	498	328
依頼試験	件 数 (実利用者数)	106 (53)	124 (41)	118 (48)	146 (54)		55 (14)	35 (10)	53 (19)	48 (12)		7 (4)	3 (3)	6 (3)	3 (1)
	点 数	252	240	235	311		298	489	233	308		26	5	13	3
	金 額	1,555	1,381	1,574	1,951		1,117	1,309	2,556	1,178		90	29	104	14
受託研究	件 数	1	0	2	3		2	4	1	0		1	1	0	0
	金 額	47	0	156	286		499	1,368	324	0		172	274	0	0
研 修	受入人数	2	3	2	2		3	1	1	1		0	0	0	0
	派遣件数	0	0	0	0		0	0	0	0		0	0	0	0
共同研究 (資金の受入れがな いもの外数)	件 数	0 (2)	0 (2)	0 (0)	0 (1)		0 (2)	1 (1)	0 (0)	1 (1)		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	金 額	0	0	0	0		0	100	0	344		0	0	0	0
事業化・商品化件数	1	0	1	4		0	2	0	0		2	0	0	0	
実施許諾	件 数 (うち新規)	6 (0)	6 (0)	6 (0)	5 (0)		0 (0)	0 (0)	1 (1)	2 (1)		2 (0)	2 (0)	2 (0)	1 (0)
	金 額 (うち新規)	42 (0)	40 (0)	46 (0)	38 (0)		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)

注) 金額の単位は千円。四捨五入の関係で端数処理が合わないことがあります。

共同研究は、1つの研究で相手先が複数(機械関係の企業と電気・情報通信関係の企業)あるものがあるため、一部をまとめて記載しています。以下同じ。

産業分類別企業支援状況の推移(H26年度～30年度)

種 別 項 目	鉄鋼・金属関係					機械関係					電気・情報通信関係				
	H26	H27	H28	H29	H30	H26	H27	H28	H29	H30	H26	H27	H28	H29	H30
技術相談件数 (実利用者数)	543 (96)	653 (115)	695 (114)	546 (113)		627 (162)	689 (195)	711 (200)	691 (188)		240 (57)	325 (92)	323 (91)	281 (79)	
企業訪問件数 (訪問回数)	40 (118)	38 (111)	44 (162)	47 (136)		51 (178)	45 (150)	67 (218)	57 (164)		22 (36)	23 (43)	21 (27)	28 (58)	
開放機器利用	件 数 (実利用者数)	488 (38)	632 (43)	684 (40)	472 (45)		414 (53)	536 (76)	476 (71)	523 (69)		404 (50)	307 (47)	329 (44)	291 (46)
	金 額	2,936	3,380	3,368	2,271		1,837	3,444	3,882	4,039		3,251	2,366	1,753	1,744
依頼試験	件 数 (実利用者数)	175 (11)	183 (11)	225 (18)	215 (19)		70 (22)	57 (17)	63 (17)	83 (32)		8 (5)	6 (4)	8 (7)	2 (2)
	点 数	542	505	653	640		388	491	306	415		8	6	23	2
	金 額	1,382	1,387	3,734	2,501		1,419	998	2,239	5,076		493	2,829	508	77
受託研究	件 数	2	4	2	2		0	2	2	2		0	0	1	1
	金 額	1,014	1,605	1,023	1,496		0	550	234	716		0	0	500	500
研 修	受入人数	3	2	0	0		1	2	1	2		0	0	0	0
	派遣件数	2	2	2	2		0	0	0	0		0	0	0	0
共同研究 (資金の受入れがな いもの外数)	件 数	2 (3)	0 (5)	0 (0)	0 (2)		0 (2)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		0 (2)	0 (4)	0 (0)	0 (1)
	金 額	120	0	0	0		0	0	0	0		0	0	0	0
事業化・商品化件数	1	1	2	2		2	0	3	3		1	4	1	2	
実施許諾	件 数 (うち新規)	7 (1)	7 (1)	9 (2)	10 (3)		6 (0)	7 (1)	7 (0)	7 (0)		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	金 額 (うち新規)	10,970 (0)	11,976 (0)	11,090 (0)	79 (0)		170 (0)	0 (0)	149 (0)	187 (0)		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)

注) 金額の単位は千円。四捨五入の関係で端数処理が合わないことがあります。

共同研究は、1つの研究で相手先が複数(機械関係の企業と電気・情報通信関係の企業)あるものがあるため、一部をまとめて記載しています。以下同じ。

産業分類別企業支援状況の推移(H26年度～30年度)

種 別 項 目	その他の製品					建設業					公的機関・団体・大学・高専・個人				
	H 2 6	H 2 7	H 2 8	H 2 9	H 3 0	H 2 6	H 2 7	H 2 8	H 2 9	H 3 0	H 2 6	H 2 7	H 2 8	H 2 9	H 3 0
技術相談件数 (実利用者数)	670 (200)	753 (268)	800 (281)	587 (243)		179 (40)	180 (39)	109 (31)	128 (41)		326 (104)	398 (163)	355 (123)	361 (120)	
企業訪問件数 (訪問回数)	88 (248)	102 (245)	157 (334)	158 (314)		8 (18)	10 (42)	12 (39)	10 (41)		81 (871)	80 (475)	109 (505)	124 (462)	
開放機器利用	件 数 (実利用者数)	463 (62)	539 (85)	460 (72)	287 (61)		21 (5)	51 (9)	44 (6)	16 (8)		366 (27)	379 (57)	412 (56)	492 (56)
	金 額	1,949	3,280	3,031	1,901		74	170	979	228		1,993	2,274	1,819	1,910
依頼試験	件 数 (実利用者数)	53 (29)	7 (6)	44 (28)	40 (25)		117 (17)	96 (14)	37 (10)	89 (20)		30 (10)	47 (32)	23 (14)	17 (10)
	点 数	181	12	90	147		428	284	115	290		69	105	57	128
	金 額	1,164	450	947	1,294		929	743	424	845		691	1,562	1,360	1,240
受託研究	件 数	0	0	1	2		1	0	1	1		0	0	0	0
	金 額	0	0	500	544		439	0	576	300		0	0	0	0
研 修	受入人数	0	1	4	3		1	1	0	0		1	2	4	1
	派遣件数	0	0	0	0		0	0	0	0		0	0	0	0
共同研究 (資金の受入れがな いもの外数)	件 数	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		0 (0)	0 (0)	0 (1)	0 (0)		0 (3)	0 (1)	0 (2)	1 (2)
	金 額	0	0	0	0		0	0	0	0		0	0	0	420
事業化・商品化件数	2	0	3	1		0	1	0	0		1	0	0	0	
実施許諾	件 数 (うち新規)	11 (4)	11 (2)	14 (3)	13 (1)		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	金 額 (うち新規)	42 (0)	33 (0)	643 (0)	325 (0)		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)

注) 金額の単位は千円。四捨五入の関係で端数処理が合わないことがあります。

共同研究は、1つの研究で相手先が複数(機械関係の企業と電気・情報通信関係の企業)あるものがあるため、一部をまとめて記載しています。以下同じ。

産業分類別企業支援状況の推移(H26年度～30年度)

種 別 項 目		合 計				
		H 2 6	H 2 7	H 2 8	H 2 9	H 3 0
技術相談件数 (実利用者数)		3,815 (1,012)	4,324 (1,233)	4,301 (1,249)	3,868 (1,196)	
企業訪問件数 (訪問回数)		429 (1,773)	421 (1,357)	532 (1,592)	564 (1,496)	
開放機器利用	件 数 (実利用者数)	3,078 (344)	3,565 (450)	3,430 (429)	3,066 (442)	
	金 額	20,629	20,078	20,482	17,906	
依頼試験	件 数 (実利用者数)	621 (165)	558 (138)	577 (164)	643 (175)	
	点 数	2,192	2,137	1,725	2,244	
	金 額	8,840	10,688	13,446	14,176	
受託研究	件 数	7	11	10	11	
	金 額	2,171	3,797	3,313	3,842	
研 修	受入人数	11	12	12	9	
	派遣件数	2	2	2	2	
共同研究 (資金の受入れがな いもの外数)	件 数	2 (14)	1 (13)	0 (3)	2 (7)	
	金 額	120	100	0	764	
事業化・商品化件数		10	8	10	12	
実施許諾	件 数 (うち新規)	32 (5)	33 (4)	39 (6)	38 (5)	
	金 額 (うち新規)	11,224 (0)	12,049 (0)	11,928 (0)	629 (0)	

注) 金額の単位は千円。四捨五入の関係で端数処理が合わないことがあります。

共同研究は、1つの研究で相手先が複数(機械関係の企業と電気・情報通信関係の企業)あるものがあるため、一部をまとめて記載しています。以下同じ。

3 施設利用(H26年度～30年度)

項 目		H26	H27	H28	H29	H30
施設 利 用	多目的ホール	件 数	24	29	26	32
		利用人数	2,570	2,526	2,437	2,767
		金 額	319,555	287,040	286,920	184,325
	第一研修室	件 数	21	27	30	29
		利用人数	633	675	877	727
		金 額	53,820	76,780	72,080	49,100
	第二研修室	件 数	12	5	12	12
		利用人数	289	135	276	246
		金 額	33,540	15,020	25,260	22,540
	第一会議室	件 数	23	17	※6	※0
		利用人数	300	252	※72	※0
		金 額	40,440	24,880	※6,380	※0
第二会議室	件 数	21	25	23	25	
	利用人数	424	462	371	295	
	金 額	35,960	37,720	33,100	29,410	
施設 見 学	企業・産業関係団体	件 数	19	12	8	6
		利用人数	221	125	126	76
	研究者	件 数	2	3	5	1
		利用人数	9	11	20	30
	学生・生徒	件 数	8	14	13	15
		利用人数	463	520	525	774
	その他	件 数	12	10	6	19
		利用人数	60	124	35	316

注) 施設利用は有料のものをカウントしています。

※西日本衛星防災利用センターに貸与

4 財務関係

(1) 資産、負債

(千円)

項 目	平成 2 6 年度	平成 2 7 年度	平成 2 8 年度	平成 2 9 年度	平成 3 0 年度	備考
資産 A	6,198,714	6,102,051	5,832,824	5,737,368		
固定資産	6,024,796	5,847,703	5,666,372	5,500,349		
流動資産	173,918	254,348	166,451	237,019		
負債 B	380,444	402,832	283,740	336,265		
固定負債	304,585	228,800	189,017	167,283		
流動負債	75,859	174,032	94,723	168,982		
純資産 C	5,818,270	5,699,220	5,549,084	5,401,103		
資本金	6,375,046	6,375,046	6,375,046	6,375,046		
資本剰余金	△ 655,031	△ 756,317	△ 897,864	△ 1,042,154		
うち損益外減価償却費累計額 (-)	△ 823,688	△ 984,649	△ 1,157,576	△ 1,330,382		
利益剰余金	98,255	80,490	71,902	68,211		
前中期目標期間繰越積立金	77,121	38,201	13,102	9,411		
研究・業務運営充実積立金	0	21,134	42,040	58,800		
当期未処分利益	21,134	21,155	16,760	0		
その他有価証券評価差額金	-	-	-	-		
負債資本合計 D = B + C	6,198,714	6,102,051	5,832,824	5,737,368		

注1：第2期中期目標期間について記載している。

注2：金額は千円未満四捨五入で、マイナスは△で表示している。なお、四捨五入の関係で端数が合わないことがある。

(2) 損益計算書

(千円)

項 目	平成 2 6 年度	平成 2 7 年度	平成 2 8 年度	平成 2 9 年度	平成 3 0 年度	備考
経常経費 A	836,127	965,923	948,043	924,028		
業務費	836,127	965,923	948,043	924,028		
業務費	271,537	309,856	330,161	309,399		
役員人件費	13,370	13,539	13,660	13,655		
職員人件費	435,299	524,100	478,438	482,105		
管理運営費	115,922	118,429	125,784	118,869		
財務費用	-	-	-	-		
雑損	-	-	-	-		
経常収益 B	855,517	981,823	948,864	922,482		
運営費交付金収益	566,665	662,857	614,451	589,121		
使用料・手数料収益	36,465	38,292	38,221	36,511		
特許実施料	11,224	12,048	11,928	628		
受託事業等収益	115,291	107,211	105,497	114,971		
補助金等収益	36,082	52,303	82,967	110,305		
施設費収益	0	0	4,047	0		
その他収益	1,204	960	936	1,054		
資産見返運営費交付金等戻入	88,588	108,152	90,818	69,892		
経常利益 C = B - A	19,390	15,900	821	△ 1,546		
臨時損失 D	139,267	0	0	0		
臨時利益 E	139,611	12	16	371		
当期純利益 F = C - D + E	19,734	15,912	837	△ 1,175		
目的別積立金取崩額 G	1,400	5,243	15,923	1,175		
当期総利益 H = F + G	21,134	21,155	16,760	0		

注1：第2期中期目標期間について記載している。

注2：金額は千円未満四捨五入で、マイナスは△で表示している。なお、四捨五入の関係で端数が合わないことがある。

(3) キャッシュ・フロー計算書

(千円)

項 目	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	備考
業務活動によるキャッシュ・フロー A	168,789	78,637	△ 99,697	63,130		
投資活動によるキャッシュ・フロー B	△ 155,232	△ 13,127	△ 24,674	△ 27,338		
財務活動によるキャッシュ・フロー C	-	-	-	-		
資金に係る換算差額 D	-	-	-	-		
資金増加額 E = A+B+C+D	13,557	65,511	△ 124,371	35,792		
資金期首残高 F	88,805	102,362	167,873	43,502		
資金期末残高 G	102,362	167,873	43,502	79,295		

注1：第2期中期目標期間について記載している。

注2：金額は千円未満四捨五入で、マイナスは△で表示している。なお、四捨五入の関係で端数が合わないことがある。

(4) 行政サービス実施コスト計算書

(千円)

項 目	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	備考
業務費用 A	804,407	799,168	788,701	770,849		
損益計算書上の費用	975,394	965,923	948,043	924,028		
(控除) 自己収入等	△ 170,988	△ 166,755	△ 159,342	△ 153,180		
損益外減価償却相当額 B	154,132	160,962	172,926	172,806		
損益外減損損失相当額 C	-	-	-	-		
引当外賞与増加見積額 D	535	△ 318	238	2,015		
引当外退職金給付増加見積額 E	△ 2,670	36,869	△ 12,621	△ 25,625		
機会費用 F	49,447	16,609	13,014	6,319		
(控除) 設立団体納額 G	-	-	-	-		
行政サービス実施コスト F = A+B+C+D+E+F-G	1,005,851	1,013,290	962,259	926,364		

注1：第2期中期目標期間について記載している。

注2：金額は千円未満四捨五入で、マイナスは△で表示している。なお、四捨五入の関係で端数が合わないことがある。

5 組織関係

(1) 役職員数

(人)

年度 区分	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	備考
常勤役員数	2	2	2	2		
非常勤役員数	1	1	1	1		
常勤職員数	47	48	48	49		
非常勤職員数	26	24	25	26		

(2) 役員の状況

氏名	役職名	任期	任期途中の異動の有無	備考
木村悦博	理事長	H29.4.1 ~ H31.3.31	有	
小泉良	副理事長	H29.4.1 ~ H31.3.31	無	
河口雅邦	監事	H29.4.1 ~ H31.3.31	無	非常勤

6 主要な設備等の状況

種類	構造	床面積 (m ²)	築年度	経過年度	備考
事務室・実験室	鉄筋コンクリート造陸屋根、ステンレス鋼板葺地下1階付4階建	15,712.67	H11年度	18年	
実験室・倉庫	鉄筋コンクリート造陸屋根地下1階建	157.56	H11年度	18年	
車庫・倉庫	鉄筋コンクリート造陸屋根平屋建	73.22	H11年度	18年	
新事業創造支援センター	鉄筋コンクリート造陸屋根平屋建	891.00	H16年度	13年	

7 その他の評価結果等の活用状況

評価等実施機関の名称	評価結果等の確定	指摘事項等	指摘事項への対応策
H25年度包括外部監査	一点指摘事項あり	「固定資産貸付要項」第1号様式「固定資産使用申込書」には、「減免を受けようとする場合はその理由」を記載する欄が設けられているが、記載されていないケースが散見された。申込書を別途様式で行うか等を検討して、ルールを徹底を図ること。	申込書の様式変更は行わないが、申請者に対してルールを徹底することとした。また、H26年度の申込に当たり、減免理由を記載するよう通知文書により周知徹底を図った。

8 その他法人の現況に関する重要事項

該当なし。